



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

ESTIMA



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	32
お子さまの安全のために	41
子供専用シート	42
チャイルドシートの 取り付け	52
排気ガスに対する注意	59
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	60
オートアラーム	61

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	64
計器類	68
マルチインフォメーション ディスプレイ	71

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
フロントドア	83
スライドドア	88
バックドア	100
スマートエントリー& スタートシステム	110
3-3. シートの調整	
フロントシート	115
セカンドシート	117
サードシート	122
ヘッドレスト	135
シートアレンジ	139
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	145
インナーミラー	147
ドアミラー	148
補助確認装置	152
3-5. ドアガラス ・ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	153
大型ムーンルーフ	156

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	160
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	169
オートマチック トランスミッション	174
方向指示レバー	178
パーキングブレーキ	179

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	180
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	183
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	185

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	187
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	190
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	195
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報）	208
オートマチックハイビーム	213
先行車発進告知機能	217

4-6. 運転支援装置について

4WD オートモード	219
クルーズコントロール	220
クリアランスソナー	223
運転を補助する装置	230

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	236
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの 使い方

フロントエアコン	240
リヤエアコン	250
リヤクーラー	253
シートヒーター	255

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	257
・フロントパーソナルランプ ／フロントルームランプ	258
・リヤパーソナルランプ	258

5-3. 収納装備

収納装備一覧	260
・グローブボックス	261
・小物入れ	261
・カップホルダー	263
・ボトルホルダー	264
・ロングスライド コンソール	265
ラゲージルーム内装備	267
・デッキフック	267
・停止表示板 収納スペース	267
・デッキボード	269

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	270
・サンバイザー	270
・後席確認ミラー	271
・時計	272
・アクセサリースocket ／アクセサリコンセント	273
・アームレスト	275
・買い物フック	276
・アシストグリップ	277
・ステアリングスイッチ	278

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	280
内装の手入れ	284

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	287
ガレージジャッキ	290
ウォッシャー液の補充	291
タイヤについて	292
タイヤの交換	295
タイヤ空気圧について	305
エアコンフィルターの交換	307
電子キーの電池交換	310
ヒューズの点検・交換	312
電球（バルブ）の交換	315

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	330
非常点滅灯 （ハザードランプ）	331
発炎筒	332
車両を緊急停止するには	334

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	335
警告灯がついたときは	341
警告メッセージが 表示されたときは	345
パンクしたときは	349
エンジンが 始動できないときは	362
電子キーが正常に 働かないときは	364
バッテリーが あがったときは	366
オーバーヒートしたときは	370
スタックしたときは	373

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量など)	376
----------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	382
--------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	386
------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	388
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	391
アルファベット順さくいん	393
五十音順さくいん	394

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

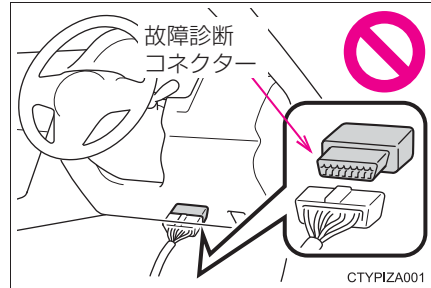
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



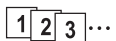
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

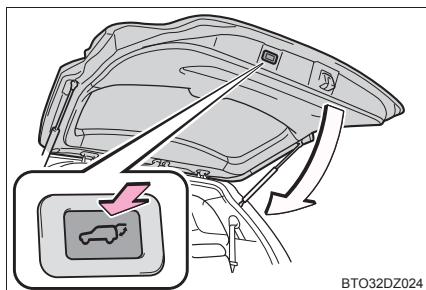
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

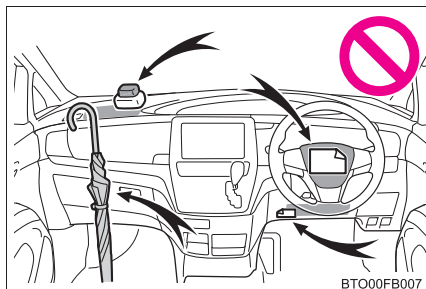
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



BTO32DZ024

➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



BTO00FB007



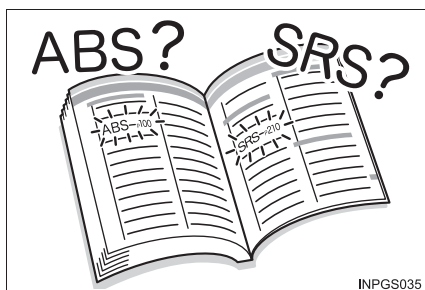
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん394
- ・ アルファベット順
さくいん393



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



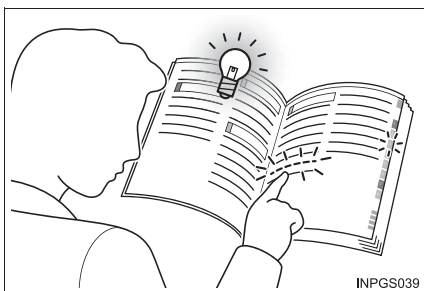
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)388
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)391



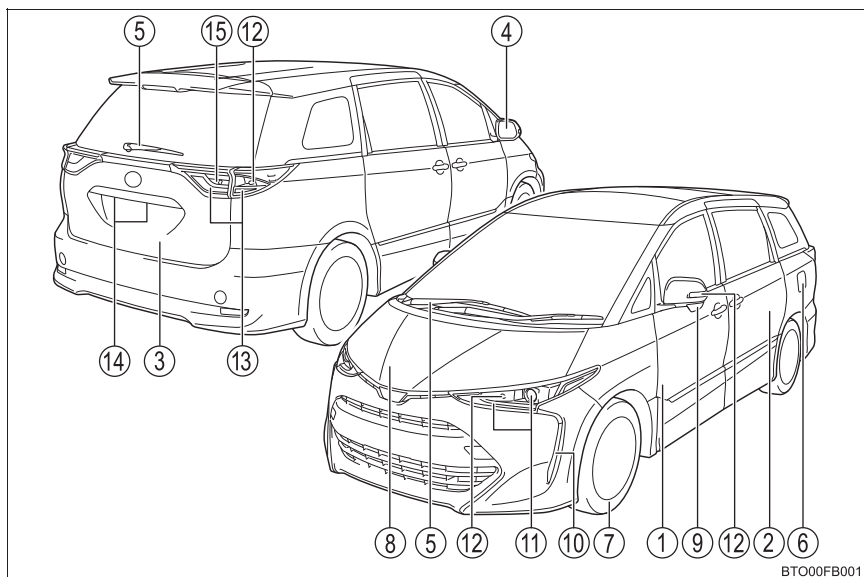
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



① フロントドア	P. 83
施錠／解錠	P. 83
ドアガラスの開閉	P. 153
メカニカルキーでの施錠／解錠	P. 364
警告表示	P. 87
② スライドドア	P. 88
施錠／解錠	P. 88
ドアガラスの開閉	P. 153
警告表示	P. 87
③ バックドア	P. 100
施錠／解錠	P. 100
車内から開ける★	P. 101
車外から開ける	P. 101
警告表示	P. 87

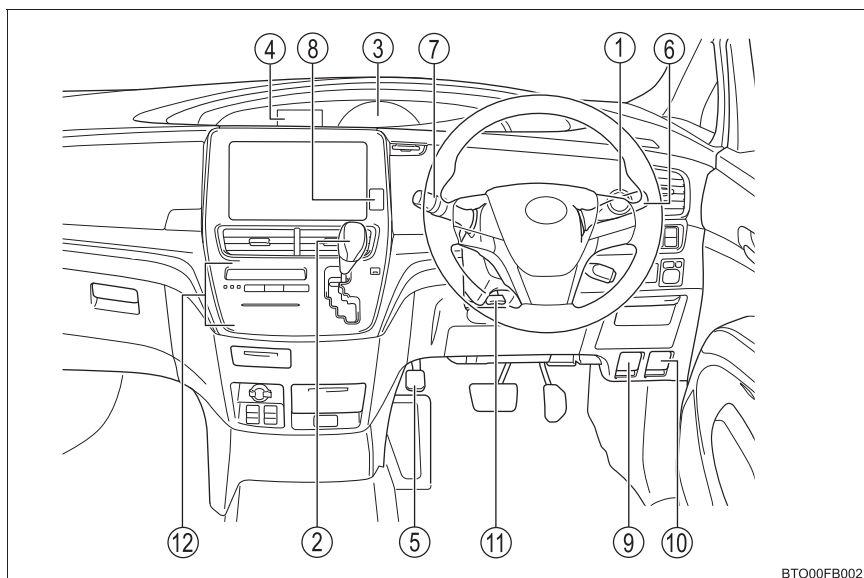
- ④ ドアミラーP. 148
 - 鏡面の角度調整P. 148
 - ミラーの格納P. 148
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★P. 243
- ⑤ ワイパーP. 183, 185
 - 冬季の注意P. 236
 - 凍結防止（熱線式ウインドシールドデアイサー）★P. 243
- ⑥ 給油口P. 187
 - 給油方法P. 187
 - 燃料の種類・燃料タンク容量P. 376
- ⑦ タイヤP. 292
 - サイズ・空気圧P. 380
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 236
 - 点検・ローテーションP. 292
 - パンク時の対処P. 349
- ⑧ ボンネットP. 287
 - 開け方P. 287
 - エンジンオイルP. 376
 - オーバーヒート時の対処P. 370
- ⑨ 補助確認装置P. 152

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 315, ワット数：P. 380）

- ⑩ LED デイライト／薄暮灯P. 180
- ⑪ ヘッドランプ・車幅灯P. 180
- ⑫ 方向指示灯P. 178
- ⑬ 尾灯P. 180
- ⑭ 番号灯P. 180
- ⑮ 後退灯
 - シフトポジションを R にするP. 174

■ インストルメントパネル

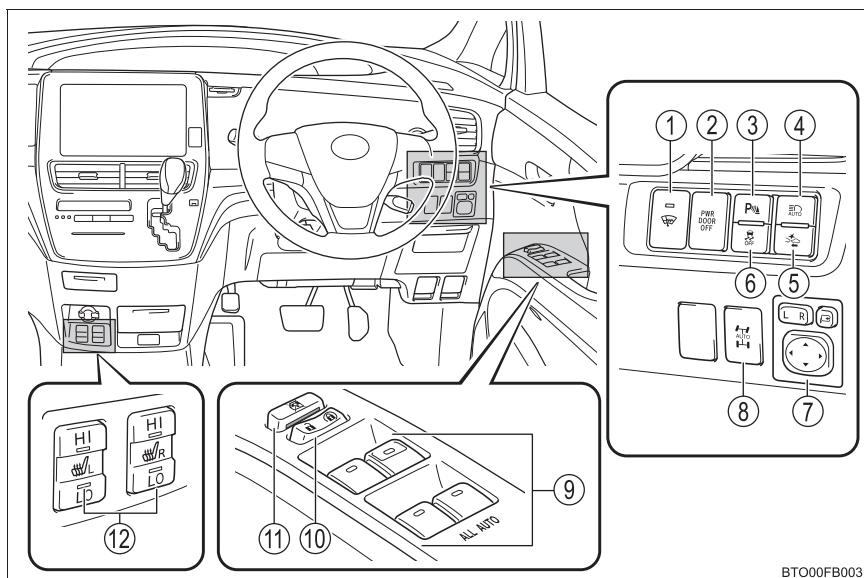


BTO00FB002

- ① エンジンスイッチP. 169
 エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ ..P. 169. 170
 エンジンの緊急停止P. 334
 エンジンが始動できないときの対処.....P. 362
 警告メッセージ.....P. 345
- ② シフトレバーP. 174
 シフトポジションの切りかえ.....P. 174
 けん引時の注意.....P. 340
 シフトレバーが動かないときの対処.....P. 176
- ③ メーター.....P. 68
 見方P. 68
 明るさの調整P. 69
 警告灯／表示灯.....P. 64
 警告灯点灯時の対処P. 341

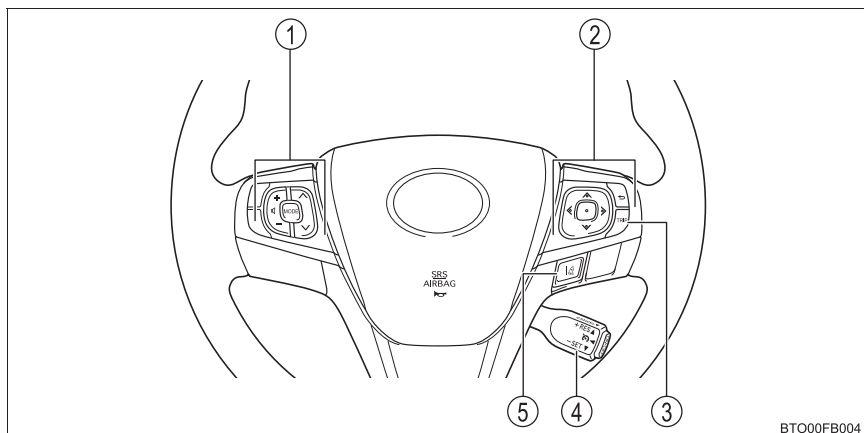
- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 71
 - 表示内容 P. 71
 - 警告メッセージ表示時の対処P. 345
- ⑤ パーキングブレーキP. 179
 - かける・解除するP. 179
 - 冬季の注意P. 236
 - 警告ブザー・警告メッセージP. 179
- ⑥ 方向指示レバーP. 178
 - ランプスイッチP. 180
 - ヘッドランプ・LED デイライト／薄暮灯・車幅灯
・尾灯・番号灯P. 180
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 183, 185
 - 使い方P. 183, 185
 - ウォッシャー液の補充P. 291
- ⑧ 非常点滅灯スイッチP. 331
- ⑨ ボンネット解除レバーP. 287
- ⑩ 給油扉オープナーP. 189
- ⑪ ハンドル位置調整レバーP. 145
 - 調整方法P. 145
- ⑫ フロントエアコンP. 240
 - 調整方法P. 240
 - リヤウインドウガラスの曇り取り
(リヤウインドウデフォグガー)P. 243

■ スイッチ類



BTO00FB003

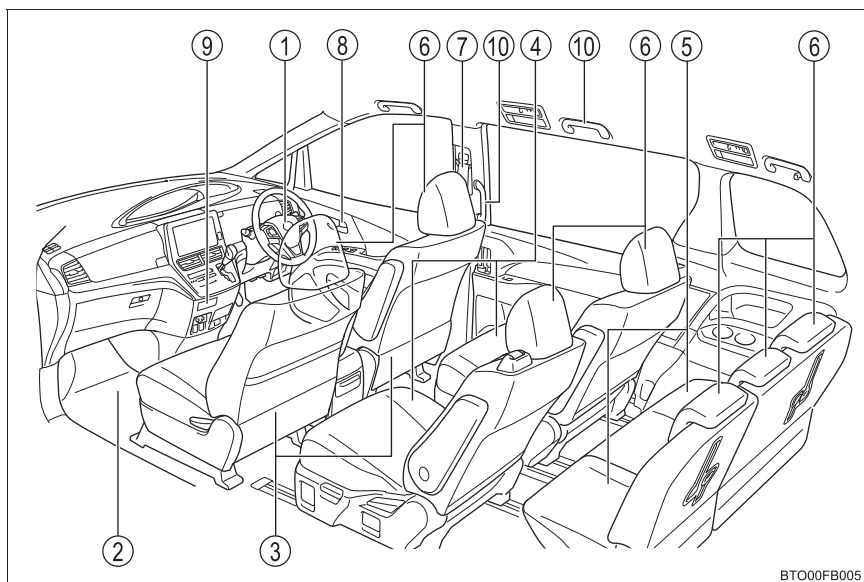
- ① 熱線式ウインドシールドデアイサースイッチ★P. 243
- ② パワースライドドア／パワーバックドアメインスイッチ . P. 90, 102
- ③ クリアランスソナースイッチ★P. 223
- ④ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 213
- ⑤ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチP. 198
- ⑥ VSC OFF スイッチP. 231
- ⑦ ドアミラースイッチP. 148
- ⑧ 4WD オートモードスイッチ★.....P. 219
- ⑨ パワーウインドウスイッチP. 153
- ⑩ ドアロックスイッチP. 85
- ⑪ ウインドウロックスイッチP. 153
- ⑫ シートヒータースイッチ★.....P. 255



BTO00FB004

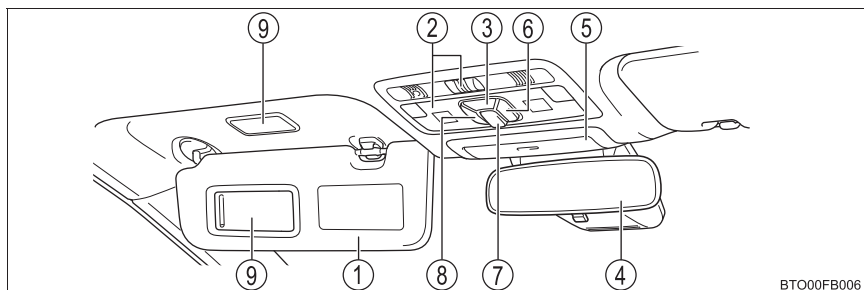
- ① オーディオスイッチP. 278
- ② メーター操作スイッチ.....P. 72
- ③ TRIP スイッチP. 69
- ④ クルーズコントロールスイッチP. 220
- ⑤ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチP. 210

■ 室内



BTO00FB005

- | | |
|-------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 32 |
| ② フロアマット | P. 22 |
| ③ フロントシート | P. 115 |
| ④ セカンドシート | P. 117 |
| ⑤ サードシート | P. 122 |
| ⑥ ヘッドレスト | P. 135 |
| ⑦ シートベルト | P. 26 |
| ⑧ ロックレバー | P. 85 |
| ⑨ カップホルダー | P. 263 |
| ⑩ アシストグリップ | P. 277 |

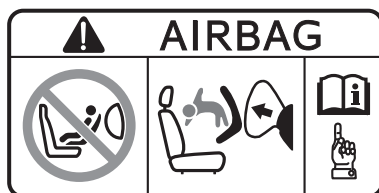


BT000FB006

- ① サンバイザー※P. 270
- ② 室内灯.....P. 258
- ③ パワーバックドアスイッチ★P. 101
- ④ インナーミラー.....P. 147
- ⑤ 後席確認ミラー.....P. 271
- ⑥ 運転席側パワースライドドアスイッチ.....P. 90
- ⑦ リヤサンシェードスイッチ★P. 156
- ⑧ 助手席側パワースライドドアスイッチ.....P. 90
- ⑨ バニティミラー／バニティランプP. 270

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 57)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	32
お子さまの安全のために	41
子供専用シート.....	42
チャイルドシートの 取り付け.....	52
排気ガスに対する注意	59

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム.....	60
オートアラーム.....	61

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

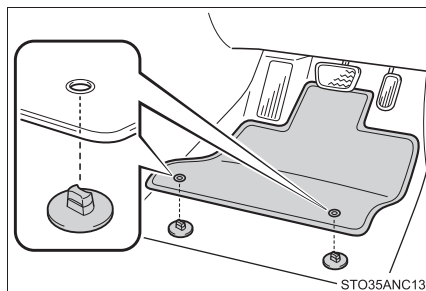
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

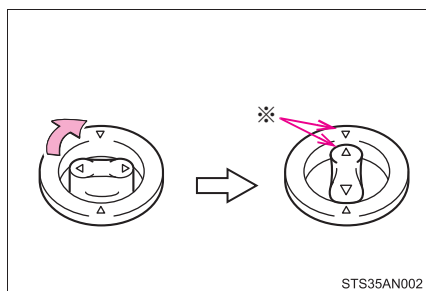
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

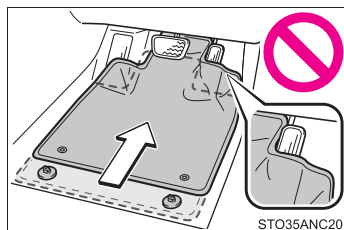
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

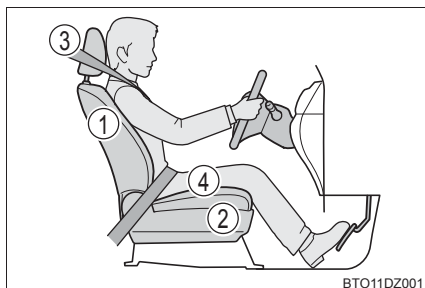


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 115）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 115）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 135）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 147, 148）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

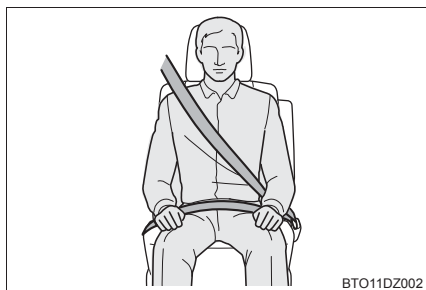
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

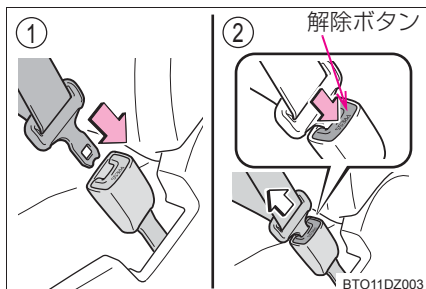
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



BTO11DZ002

3点式シートベルトの着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

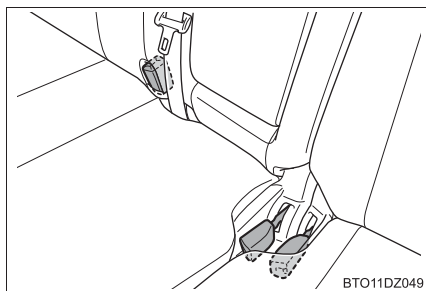
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートを保ックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



BTO11DZ003

■ セカンドシート中央席シートベルトを格納するときは（8人乗り車）

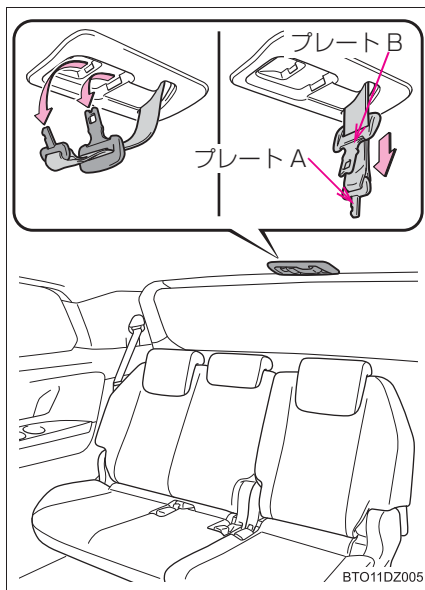
図のようにバックルを格納する



BTO11DZ049

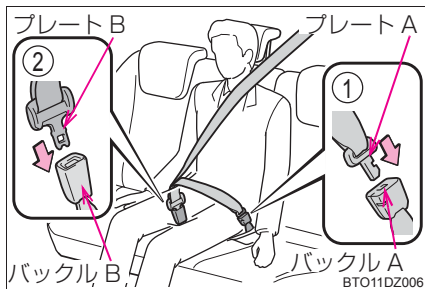
分離格納式シートベルトの着け方（サードシート中央席）

1 プレートを取り出す



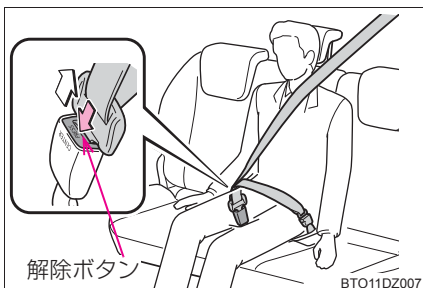
2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

- ① プレート A、バックル A
- ② プレート B、バックル B



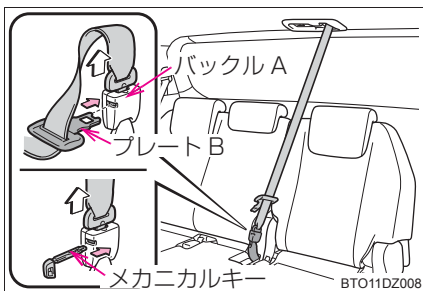
分離格納式シートベルトのはずし方・格納のしかた (サードシート中央席)

- 1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



- 2 バックル A に、プレート B やメカニカルキー (→P. 80) を挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

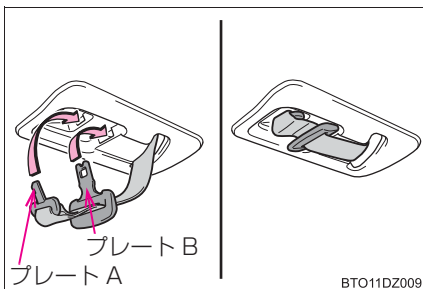


- 3 プレート A、B をホルダーに格納する

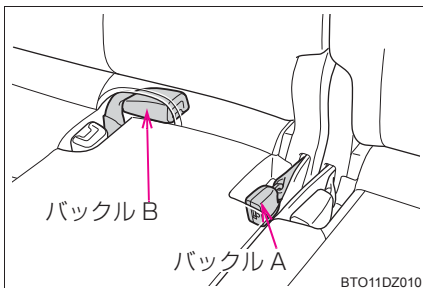
ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

- ・ もとにもどすときは、それぞれのホルダーにプレートを挿し込みます。

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。



- 4 中央席シートベルトのバックル A、バックル B をポケットに格納する



シートベルトの高さ調節（フロント席）

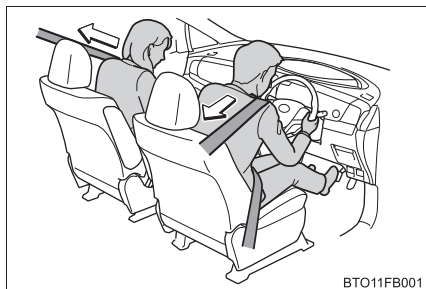
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

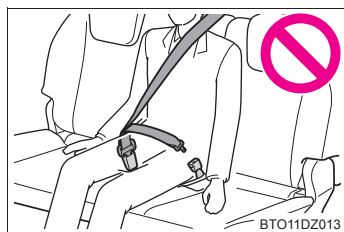
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する

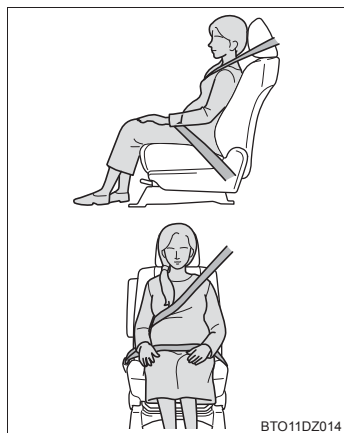


■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席）

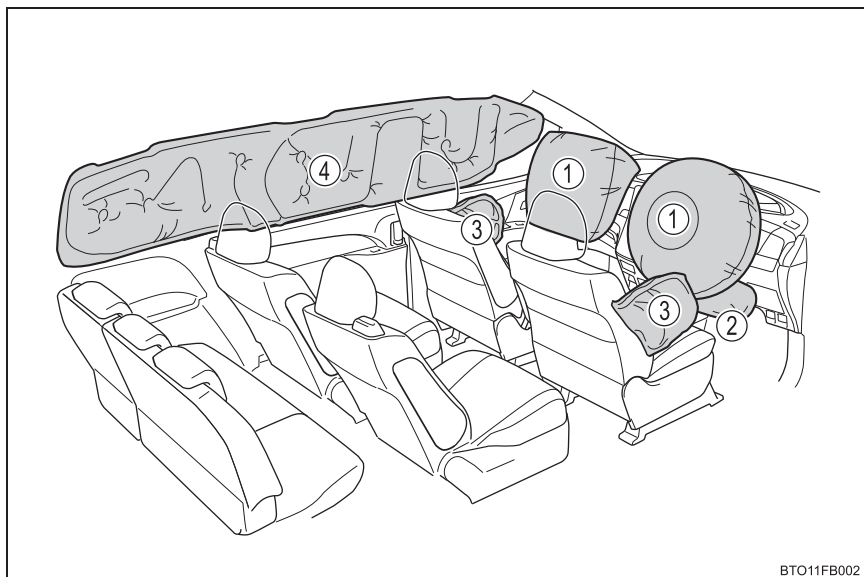
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ★
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ★
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ★
(フロント席とセカンドシート、サードシート外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

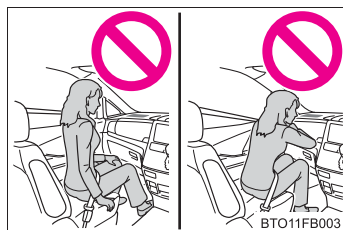
警告

■ SRS エアバッグについて

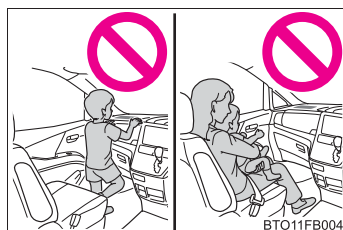
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 42)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



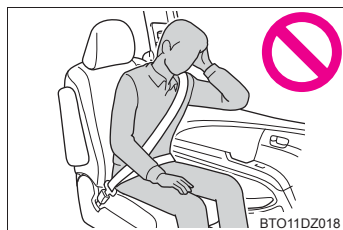
警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

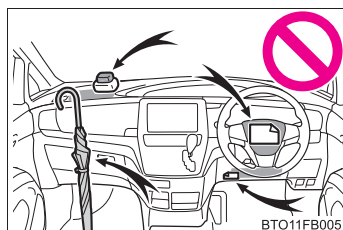
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



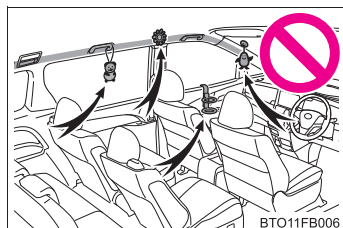
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部（SRS ニーエアバッグ装着車）・アッパーボックスのフタなどには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウィンドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 357)



**警告****■ SRS エアバッグについて**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS ニーエアバッグ装着車：SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告**■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リアピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★）

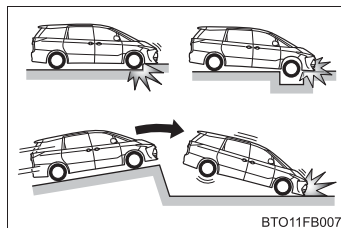
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★が作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

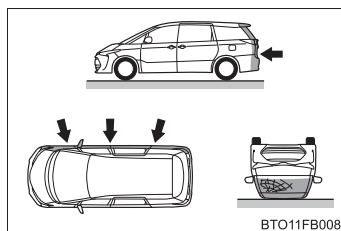


BTO11FB007

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



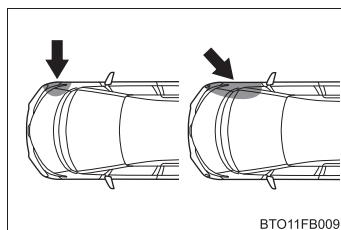
BTO11FB008

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★)

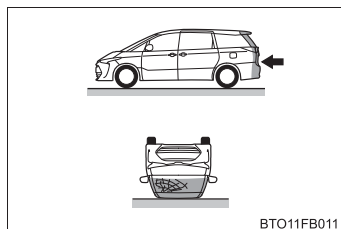
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 後方からの衝突
- 横転

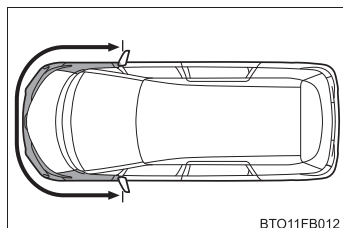


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

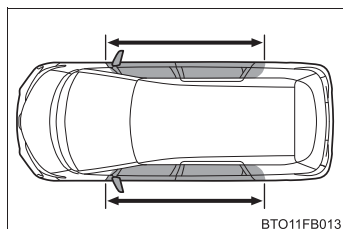
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



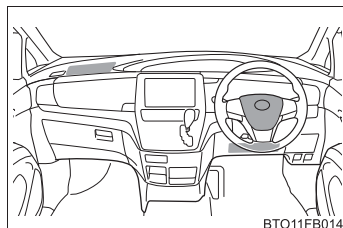
BTO11FB012

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



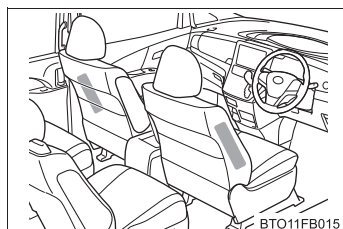
BTO11FB013

- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部（SRS ニーエアバッグ装着車）が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



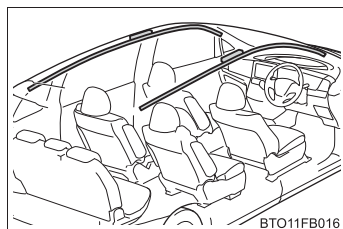
BTO11FB014

- SRS サイドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



BTO11FB015

- SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



BTO11FB016

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウ・リヤサンシェード★を誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 90)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 153)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・大型ムーンルーフ★・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万が一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 52)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0: 10kg まで

グループ0⁺: 13kg まで

グループI: 9 ~ 18kg

グループII: 15 ~ 25kg

グループIII: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

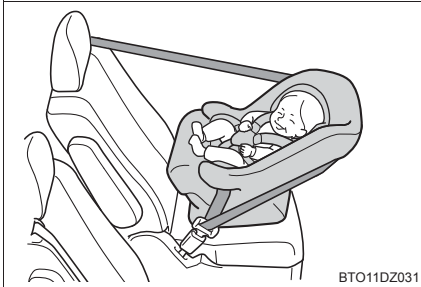
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それとともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、III に相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (シートベルトでの取り付け)

質量グループ	着席位置（または他の位置）					
	フロントシート	セカンドシート			サードシート	
		7人乗り	8人乗り			
	助手席	左右席	左右席	中央席	左右席	中央席
Ⅰ (10kg まで)	×	U※4	U※4	U※4	U※5	×
Ⅰ ⁺ (13kg まで)	×	U※4	U※4	U※4	U※5	×
Ⅱ (9～18kg)	前向き UF※1、2	U※2、4	U※2、4	U※2、4	U※2、5	×
	うしろ向き ×					×
Ⅲ (15～25kg)	UF※1、3	U※3、4	U※3、4	U※3、4	U※3、5	×
Ⅳ (22～36kg)	UF※1、3	U※3、4	U※3、4	U※3、4	U※3、5	×

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

- ※¹ フロントシートの背もたれを直立状態にする。
フロントシートをいちばんうしろに下げる。
- ※² 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストを最上段へ上げる。
- ※³ 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。
- ※⁴ セカンドシートの背もたれを直立状態にする。
セカンドシートをいちばんうしろに下げる。
- ※⁵ サードシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。

チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。

その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート 左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL ※ 1、2
0 + (13kg まで)	E	ISO/R1	IL ※ 1、2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ～ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※ 1
	B1	ISO/F2X	IUF ※ 1
	A	ISO/F3	IUF ※ 1
II (15 ～ 25kg)		(1)	×
III (22 ～ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り付けについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※¹ 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。
セカンドシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。
倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

※² トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby を推奨します。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。

チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。

その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ 等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 44) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 46)を確認して、適切なシートを選択してください。

① お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

② サイズ等級を選択する

手順①で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

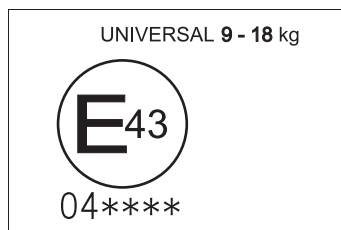
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

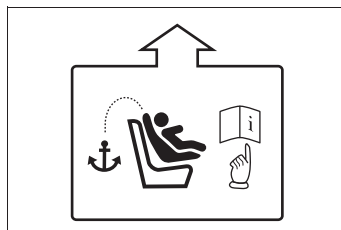


② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの
認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→P. 52）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠
は異なります。



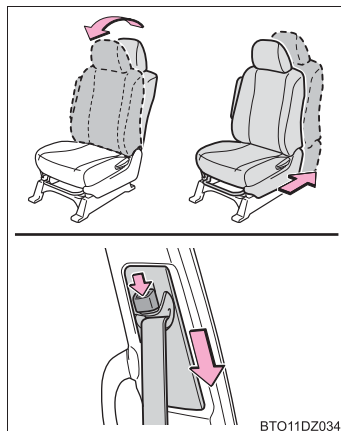
■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、サードシートに取り付けてください。

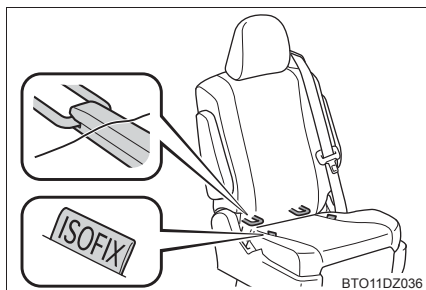
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 53)



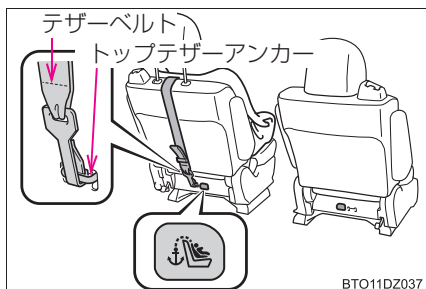
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 54)

セカンドシート左右席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→ P. 55)

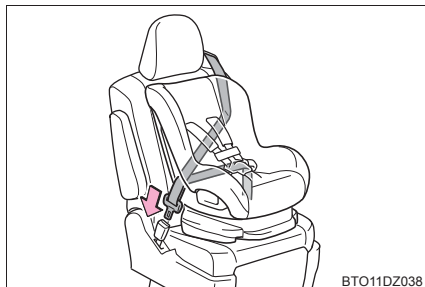
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート左右席に装備されています。



シートベルトで固定する

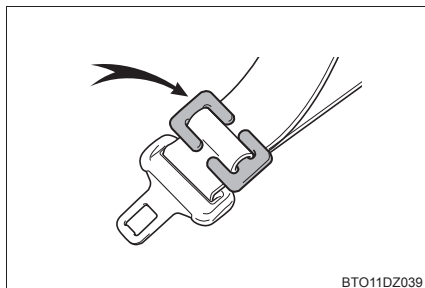
- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

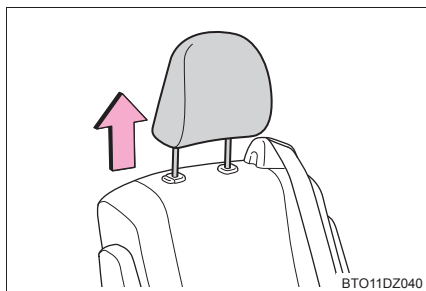
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



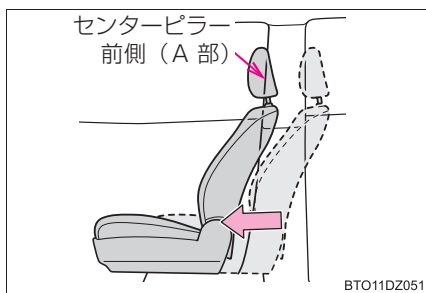
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストを上げる

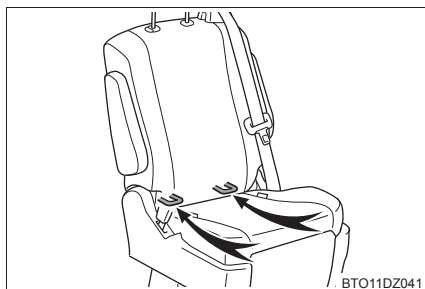


2 フロントシートのヘッドレスト前側がセンターピラー前側（A部）より前になるようにシートの前後位置・リクライニング調整をする（→P. 115）

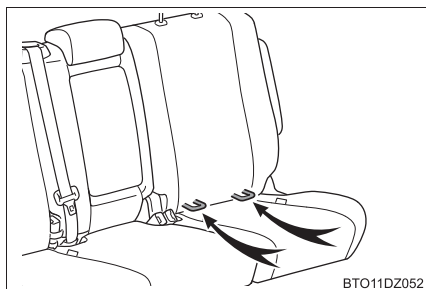


3 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する 固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

▶ 7人乗り車



▶ 8人乗り車

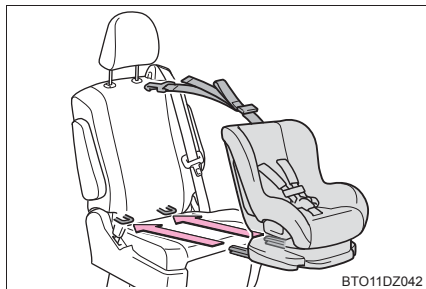


4 子供専用シートが取り付けやすいように、シートの背もたれの角度を調整する（→P. 117）

5 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

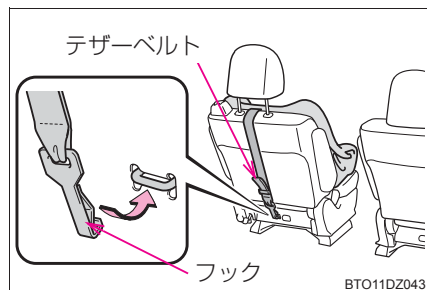
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



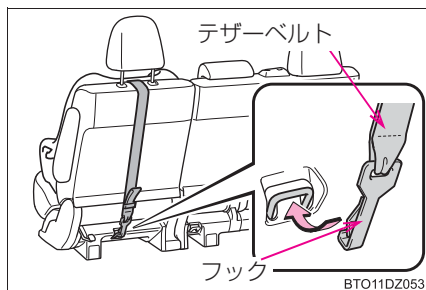
6 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

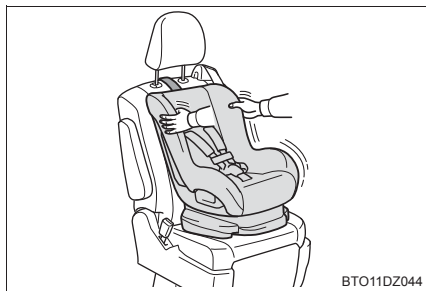
▶ 7人乗り車



▶ 8人乗り車



7 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



 警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシート、サードシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

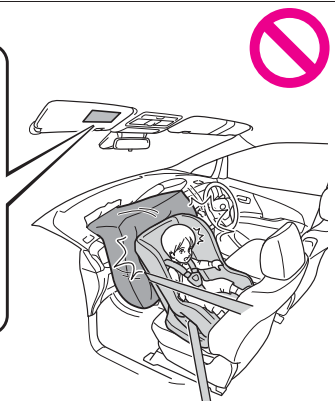
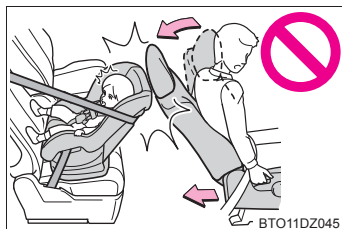
■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

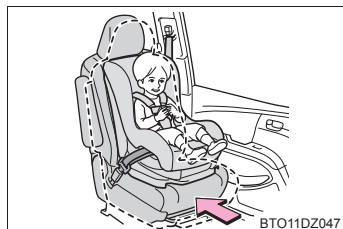


- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

！ 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモバイザーシステム

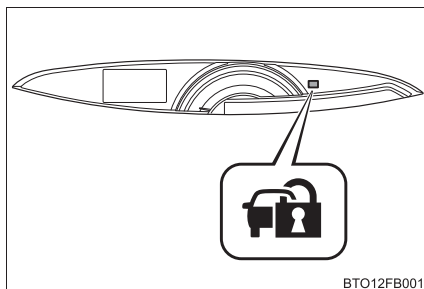
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム★

オートアラームとは

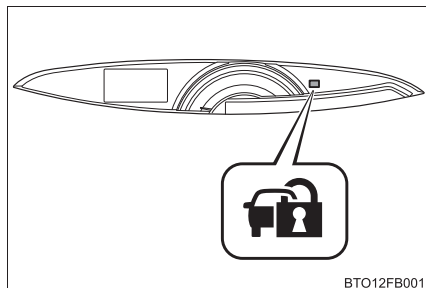
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネットを閉め、すべてのドアを施錠※します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとメーター内のセキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわります。



※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアを施錠する前の確認

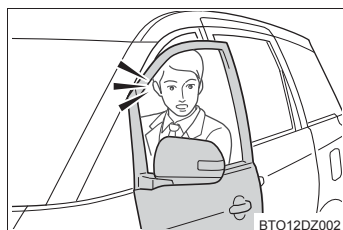
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

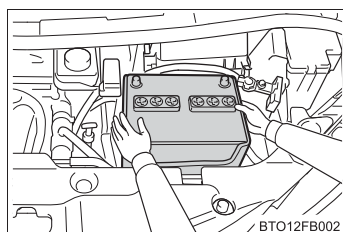
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき
- 車内に残った人が、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 367)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- ドアがキー以外で施錠されオートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中にドアがキー以外で解錠されたとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メーターの見方

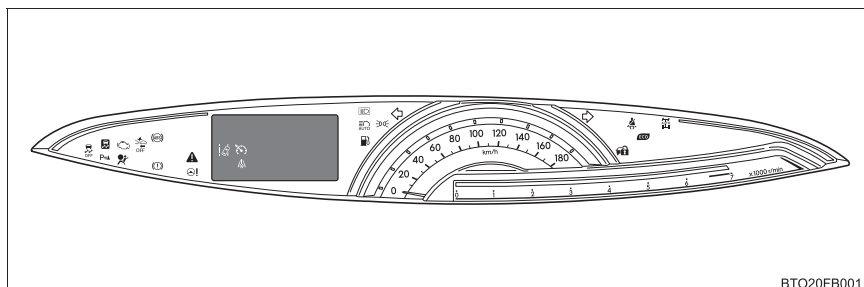
2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯	64
計器類	68
マルチインフォメーション ディスプレイ	71

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



BTO20FB001

警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 341)



高水温警告灯
(→ P. 342)



エンジン警告灯
(→ P. 341)



充電警告灯 (→ P. 342)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯
(→ P. 341)



油圧警告灯 (→ P. 342)



ABS & ブレーキアシスト警
告灯 (→ P. 341)



燃料残量警告灯
(→ P. 342)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 341)



マスターウォーニング
(→ P. 342)



(点滅)

PCS (プリクラッシュセー
フティシステム) 警告灯
(→ P. 342)



(点灯し
たまま)

スリップ表示灯
(→ P. 343)



シートベルト
非着用警告灯 (→ P. 343)

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 178)



※2 クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 220)



尾灯表示灯 (→ P. 180)



※1 スリップ表示灯
(→ P. 231)



※2 LDA (レーンディパー
チャーアラート) 表示灯
(→ P. 210)



※1 VSC OFF 表示灯
(→ P. 232)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 213)



※1 エコドライブインジケー
ターランプ (→ P. 67)



※1, 3 PCS (プリクラッシュセー
フティシステム) 警告灯
(→ P. 198)



セキュリティ表示灯
(→ P. 60, 61)



ハイビーム表示灯
(→ P. 180)



※2, 4 低温表示灯 (→ P. 68)



クリアランスソナー表示灯★
(→ P. 223)



※5 4WD オートモード
作動表示灯★ (→ P. 219)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※5 FF モードのときは、作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。4WD モードのときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯します。
点灯しない場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

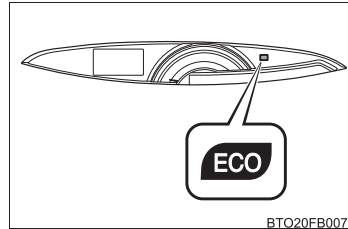
■ エコドライブインジケーターランプについて

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- シフトポジションが D 以外するとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき



■ カスタマイズ機能

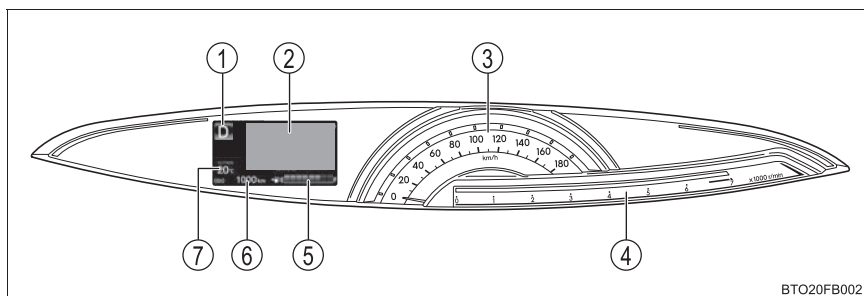
エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。
(→ P. 75)

 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



BTO20FB002

① シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 174)

② マルチインフォメーションディスプレイ

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 71)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 345)

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整：

メーター照度が調整できます。

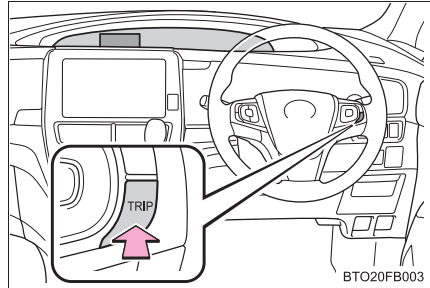
⑦ 外気温表示

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯 (→ P. 66) が点灯します。

表示の切りかえ

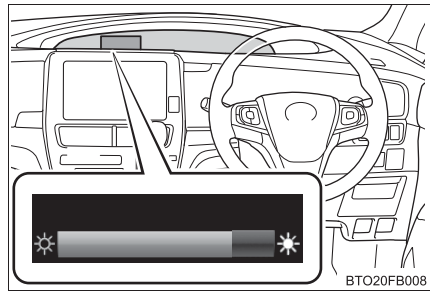
TRIP スイッチを押すごとに表示が ODO → TRIP A → TRIP B → メーター照度調整の順に切りかわります。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



■ メーター照度調整

メーター照度調整を表示中に TRIP スイッチを押し続けることでメーター照度が調整できます。



知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離（→ P. 73）は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 5 そのまま 5 秒間 TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したのち、点灯に変わります。点灯に変われば更新は終了です。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフト変速表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフト変速の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→ P. 345）が表示されます。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 370）

マルチインフォメーションディスプレイ

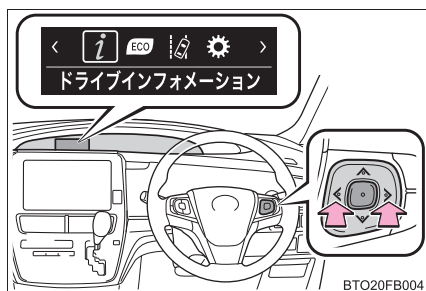
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 72)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



メーター操作スイッチの◀または、▶を押すごとにメニューアイコンが次のように選択できます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 72)



ECO

燃費の情報などを表示します。(→ P. 74)



LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示

LDA (→ P. 210) の作動状況を表示します。



設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→ P. 75)

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

ディスプレイに表示される項目を切りかえるには、ハンドルのメーター操作スイッチを操作します。

① 選択スイッチ

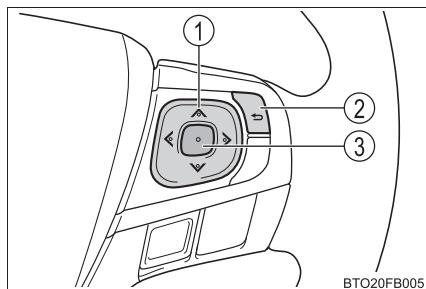
項目や画面を選択／移動します。

② もどるスイッチ

ひとつ前の画面にもどります。

③ 決定スイッチ

決定します。



ドライブインフォメーション

メニューアイコンの **i** を選択します。(→ P. 71)

メーター操作スイッチの **▲** または、**▼** を押して、次の画面が選択できます。

■ ドライブインフォメーション

平均燃費、平均車速、走行時間は、オドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：エンジンを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。(→ P. 69)

表示	項目	内容
 AVG	平均燃費※	平均燃費を表示します。
 TOTAL	走行時間※	走行時間を表示します。

表示	項目	内容
	航続可能距離	現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。 ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。 ・ 燃料給油量が少量（約 5 L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 70）

※ : 設定により平均車速を表示することもできます。（→ P. 76）

■ デジタル車速 + 航続可能距離

デジタルスピードメーターと航続可能距離を表示します。

■ 非表示

ドライブインフォメーションの表示をなしにします。

ECO

メニューアイコンの  を選択します。(→ P. 71)

メーター操作スイッチの  または、 を押して、次の画面が選択できます。

■ 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去3ヶ月分と1年前の同月を表示し、比較することができます。

■ 燃費ランキング

過去の燃費のベスト3と現在の順位を表示します。

- オドメーター表示時：エンジンを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。
 - ・ リセットを行うたびにランキングが追加されます

順位は100位までを表示し、以降はランク外として表示されます。

エンジンを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

■ 5分間燃費 + 瞬間燃費

エンジンを始動してからの燃費履歴を5分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、30分前までの燃費と比較することができます。

◆ 履歴の消去

燃費履歴・燃費ランキングの履歴を消去することができます。

- 1 消去したい履歴画面を表示しているときにメーター操作スイッチの  を長押しすると、履歴リセット画面を表示します。
- 2 メーター操作スイッチの  または、 を押して「はい」を選択し、 を押すと、履歴が消去されます。

◆ 燃費時間の切りかえ

燃費時間を5分刻み、または1分刻みで表示することができます。

- 1 5分間燃費 + 瞬間燃費画面を表示しているときにメーター操作スイッチの  を長押しすると、燃費時間画面を表示します。
- 2 メーター操作スイッチの  または、 で項目を選択し、 を押します。

設定

メニューアイコンの  を選択します。(→ P. 71)

各装備の機能の ON / OFF や設定変更などができます。

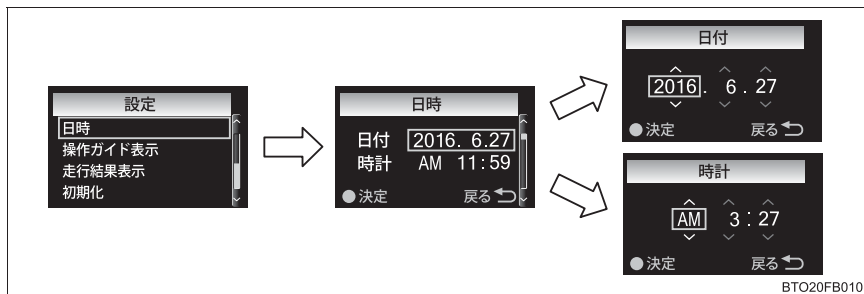
■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または、 を操作して設定変更したい項目を選択し、 を押す
- 2 表示内容に従ってメーター操作スイッチの 、 または、、 を操作し、設定内容を選択して  を押す

項目	設定内容	設定結果
LDA	高い	LDA (レーンディパーチャアラート) 警報感度を調整できます。(→ P. 212)
	普通	
先行車発進	告知設定	先行車発進の告知設定の ON / OFF 切りかえができます。(→ P. 218)
	ON	
	OFF	
	告知タイミング	先行車発進の告知タイミングを調整できます。(→ P. 218)
	早い	
	普通	
 表示	遅い	エコドライブインジケータランプを ON / OFF できます。(→ P. 67)
	ON	
	OFF	

項目	設定内容	設定結果
ドライブインフォメーション	1 行目	ドライブインフォメーション画面の 1 行目と 2 行目の項目を「平均車速」・ 「平均燃費」・「走行時間」から選択で きます。
	平均車速	
	平均燃費	
	走行時間	
	2 行目	
	平均車速	
	平均燃費	
	走行時間	
日時	→ P. 77	日付・時計の調整ができます。
操作ガイド表示	ON	メニューアイコン (→ P. 71) の ON ／ OFF 切りかえができます。
	OFF	
走行結果表示	ON	走行結果表示 (→ P. 78) の ON ／ OFF 切りかえができます。
	OFF	
初期化	はい	次の表示設定を工場出荷時の状態に もどすことができます。 ・ ECO 表示 ・ 走行結果表示 ・ 操作ガイド表示 ・ ドライブインフォメーション
	いいえ	

◆ 日時



- 1 メーター操作スイッチの▲または、▼で「日付」または、「時計」を選択し、⓪を押す。
 - ▶ 日付
- 2 メーター操作スイッチの◀または、▶で年／月／日を選択し、▲または、▼で数値を設定し、⓪を押す
 - ▶ 時計
- 2 メーター操作スイッチの◀または、▶でAMまたはPM／時／分を選択し、▲または、▼でAM または PM、数値を設定し、⓪を押す

□ 知識

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時的に中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき（LDA 設定を除く）

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- 燃費ランキング（4 位以下）
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- 走行時間

■ 液晶ディスプレイについて

→ P. 69

■ 今回の走行結果表示について

エンジンを停止すると、エンジンを始動したときからの走行データを一覧で表示します。

ドアをロックすると表示は消えます。

今回の走行	
走行距離	100.0 km
走行時間	2 h 30 m
燃費	10.0 km/L

BTO20EP030

⚠ 警告

■ 走行中の警告

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作**3**

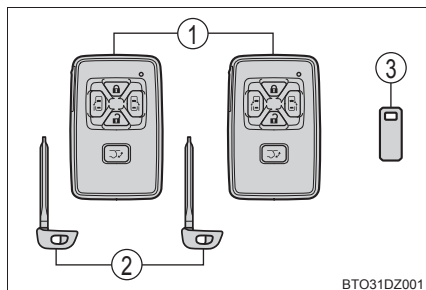
3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
フロントドア	83
スライドドア	88
バックドア	100
スマートエントリー& スタートシステム	110
3-3. シートの調整	
フロントシート	115
セカンドシート	117
サードシート	122
ヘッドレスト	135
シートアレンジ	139
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	145
インナーミラー	147
ドアミラー	148
補助確認装置	152
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開閉	
パワーウインドウ	153
大型ムーンルーフ	156

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

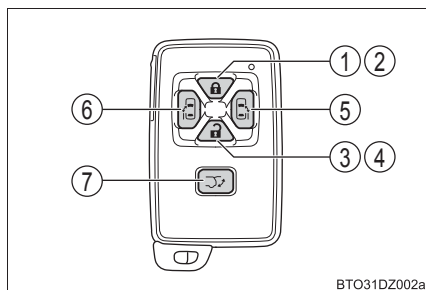
- ① 電子キー
 - ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 110)
 - ・ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



BTO31DZ001

ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 83)
 - ② ドアガラスを閉める※ (→ P. 83)
 - ③ ドアの解錠 (→ P. 83)
 - ④ ドアガラスを開く※ (→ P. 83)
 - ⑤ 運転席側パワースライドドアの開閉 (→ P. 89)
 - ⑥ 助手席側パワースライドドアの開閉 (→ P. 89)
 - ⑦ パワーバックドア★を開閉する (→ P. 100)
- ※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 383)

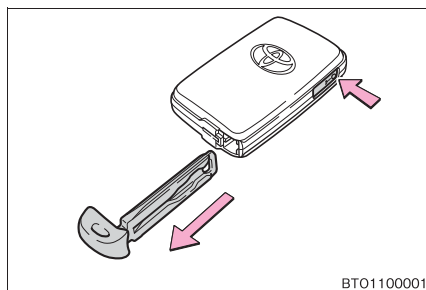


BTO31DZ002a

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 364)



BTO1100001

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ キーを紛失したとき**

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 111）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「キーバッテリー残りわずか」が表示されたときは

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
(→ P. 310)

■ 電池の交換方法

→ P. 310

■ 不正キーの使用について（オートアラーム装着車）

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは約 10cm 以上離して携帯してください。
約 10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。
車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

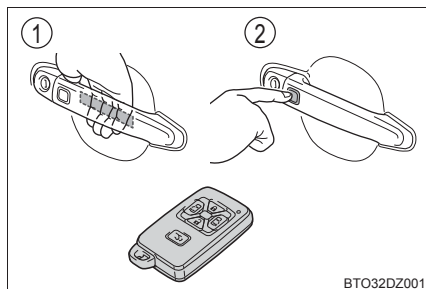
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 383)



BTO32DZ001

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

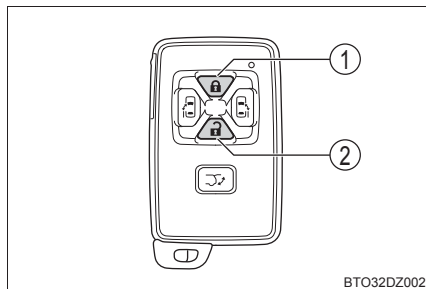
必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 383)



BTO32DZ002

◆ キー

→ P. 364

 知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラーム★の設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 61)

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

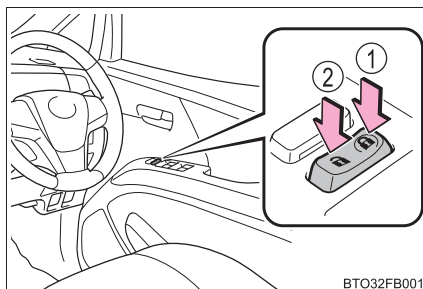
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 364)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 310)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

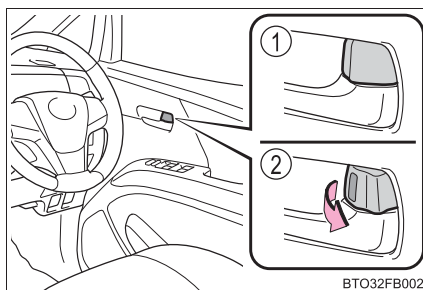


BTO32FB001

◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



BTO32FB002

キーを使わずに外側からフロント席を施錠

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感应オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーを P から P 以外に動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、シフトレバーを P 以外から P に入れると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

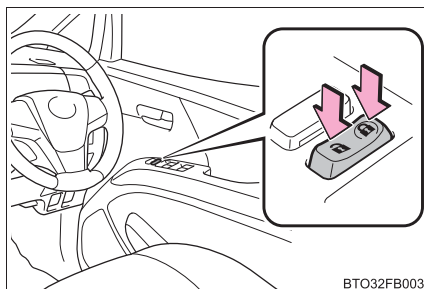
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 10 秒以内に **2** を行う）

- 2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押し続けて離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



BTO32FB003

機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック※	P	
シフト操作連動アンロック		
車速感应オートドアロック	P 以外	

※ シフト操作連動ドアロックは、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 364）

■半ドア警告表示

いずれかのドア、またはボンネット★が確実に閉まっていないとき、開いているドア、またはボンネット★がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア、またはボンネット★が確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 112

■カスタマイズ機能

スマートエントリー & スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 382)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■スマートエントリー&スタートシステムや、ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、スマートエントリー&スタートシステムや、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 83

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 83

車内からの解錠・施錠

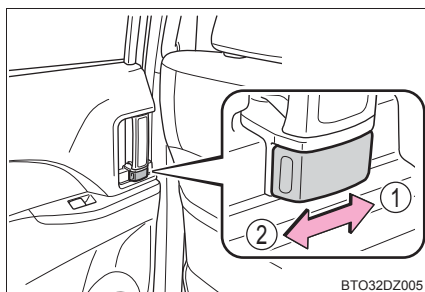
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 85

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠

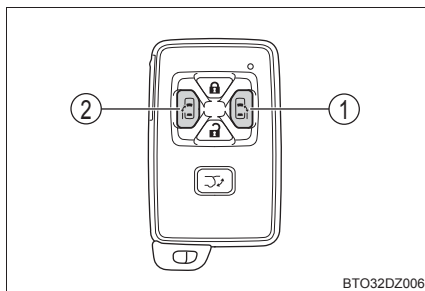


車外からスライドドアを開閉する

◆ ワイヤレスリモコン

- ① 運転席側パワースライドドアを開閉する（長押し）※
- ② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）※

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 383）

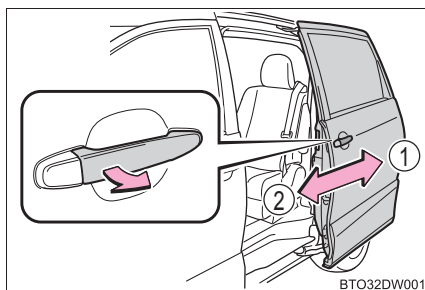


BTO32DZ006

◆ スライドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

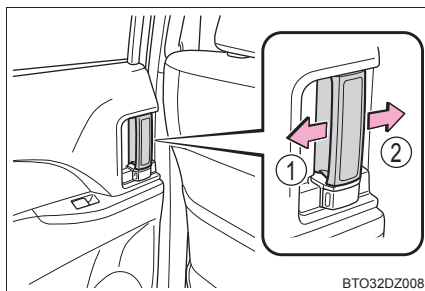


BTO32DW001

車内からスライドドアを開閉する

◆ インサイドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる



BTO32DZ008

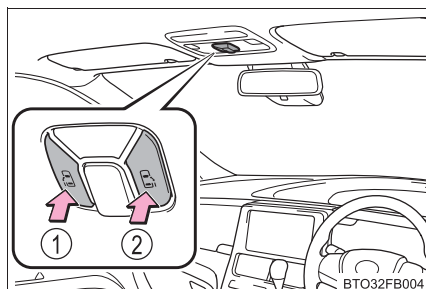
◆ パワースライドドアスイッチ

① 助手席側（約 1 秒長押し）

② 運転席側（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、
反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転
作動に切りかわりません。



BTO32FB004

パワースライドドアを使用するときは

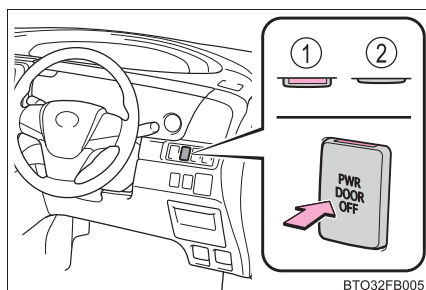
パワースライドドアメインスイッチを ON にする

OFF にするとパワーバックドア★も使用できなくなります。

① ON

② OFF

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。



BTO32FB005

チャイルドプロテクター

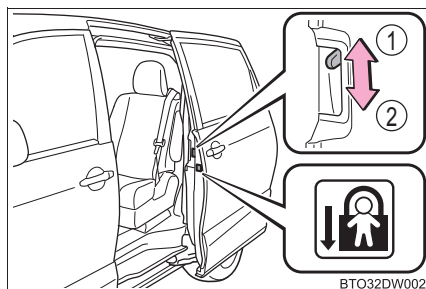
施錠側になると、スライドドアが車
内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開
けられないようにできます。

両側のスライドドアを施錠側にしてく
ださい。



BTO32DW002

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■作動の合図（パワースライドドア使用時）**

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■中間ストッパー（パワースライドドアメインスイッチ OFF 時）

- スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
- 中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、ドアガラスおよび給油扉を閉じ再度スライドドアを開けてください。

■イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている
- 給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。
 - ・シフトレバーが P のとき
 - ・パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき

作動可能条件を満たしていないとき（給油扉が開いているときを除く）に、手動でスライドドアを閉める（開ける）と約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します。

■パワースライドドアの作動について

- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。
- 給油扉が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。
- 助手席側パワースライドドア開閉中に給油扉を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。
- 連続して 2 回以上異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。
- バッテリーの電圧が低下しているときは、パワースライドドアが作動しない場合があります。
- パワースライドドアが作動中に次の操作が 3 回行われると、ブザーが鳴り、作動を停止（約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制）し、手動操作に切り替わります。
 - ・車内のパワースライドドアスイッチを押した
 - ・ワイヤレスリモコンのパワースライドドアスイッチを押した
 - ・車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作した

■中間ストッパー（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

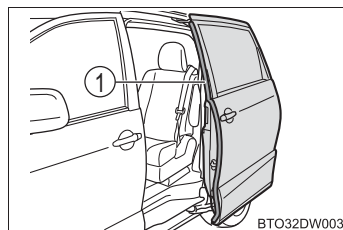
- パワースライドドアのドアガラスが大きく開いているときに、パワースライドドアを自動で開作動させるとパワースライドドアは中間ストッパー位置で停止し、その位置で保持されます。
- 中間ストッパー位置でパワースライドドアが停止しているときに、パワースライドドアスイッチ、スライドドアハンドル、ワイヤレスリモコンのいずれかを操作するとスライドドアは閉作動します。
- 中間ストッパー位置でのパワースライドドア停止後は、約 30 分間スライドドアを保持します。その後、約 8 秒間で徐々にその保持を解除し、下り坂などでドアが急に動き出すのを防ぎます。

■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定として車外のスライドドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。スライドドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からスライドドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

■ 半ドア走行時警告ブザー

→P. 84

■ カスタマイズ機能

パワースライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 384)

 警告**■走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドア：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)

■スライドドアの操作にあたって

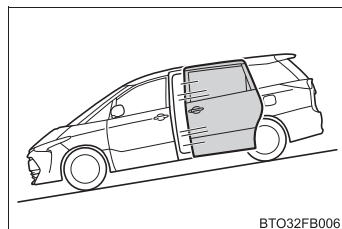
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

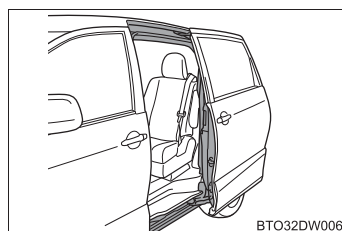
- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

警告**■スライドドアの操作にあたって**

- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアが給油扉ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



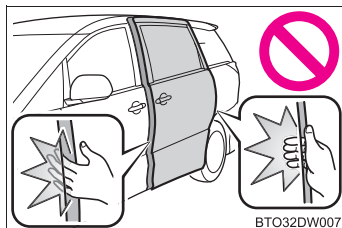
- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



警告

■ イージークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→ P. 91)

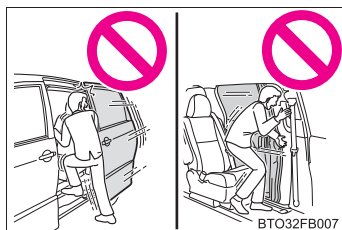


- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

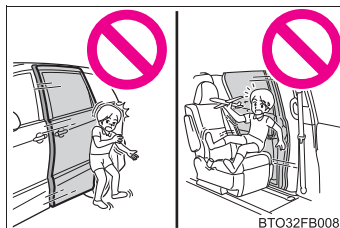
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告**■ パワースライドドアについて**

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

 警告**■ パワースライドドアについて**

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤作動防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

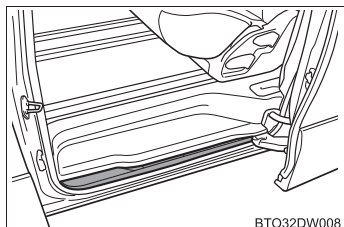
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

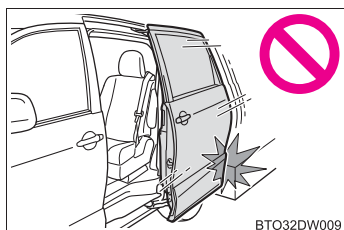
- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ スライドドアについて**

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



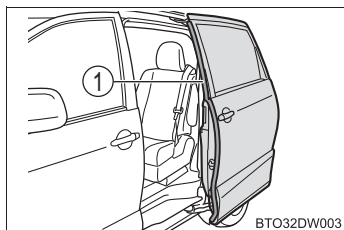
- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

**■ イージークローザーについて**

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー(①)を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

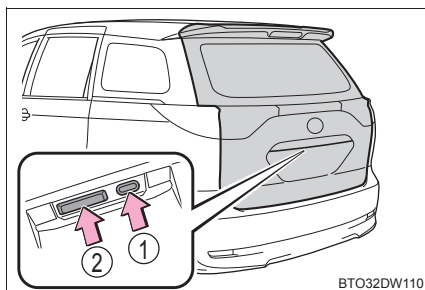
電子キーを携帯して操作します。

① 施錠

必ず施錠されたことを確認してください。

② 解錠

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 83

◆ ドアロックスイッチ

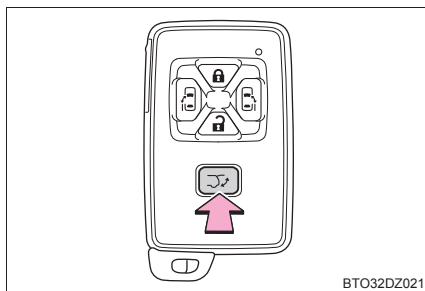
→ P. 85

ワイヤレスリモコンでのバックドアの開閉（パワーバックドア装着車）

スイッチを押し続ける※

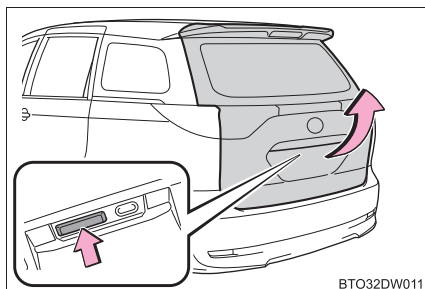
バックドア解錠時に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 383）



車外からバックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

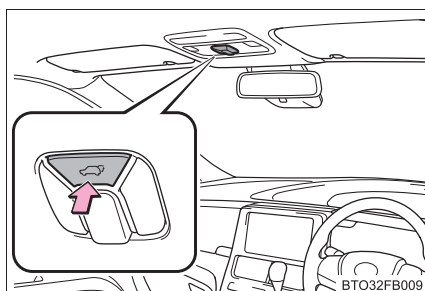
**車内からバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）**

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

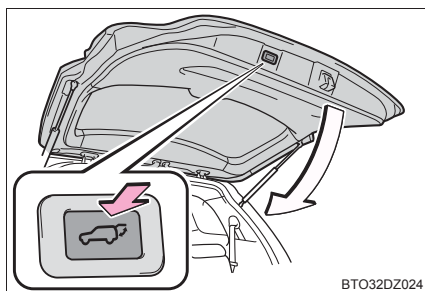
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

**車外からバックドアを閉じるには（パワーバックドア装着車）**

スイッチを押す

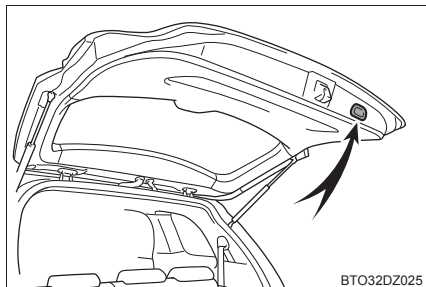
ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び自動で開きます。



バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



BTO32DZ025

パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

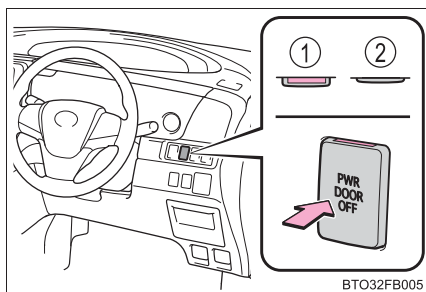
パワーバックドアメインスイッチを ON にする

パワーバックドアメインスイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 90）と兼用のため、OFF にするとパワースライドドアも使用できなくなります。

① ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表示されます。

② OFF



BTO32FB005



知識

■ 作動の合図（パワーバックドア装着車）

非常点滅灯の点滅で知らせます。（作動開始時に 2 回）

■ パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

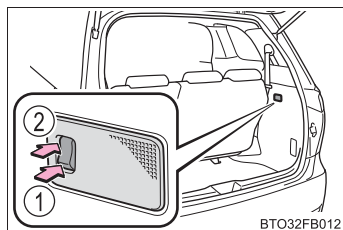
パワーバックドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- バックドアが解錠されている
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 5km/h 未満で、シフトレバーが P になっていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

- ① ON
- ② OFF



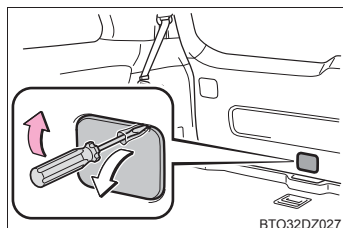
BTO32FB012

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

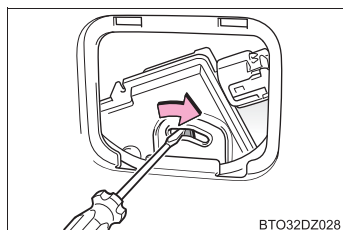


BTO32DZ027

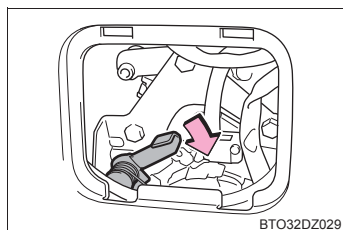
2 レバーを押す

▶ パワーバックドア非装着車

▶ パワーバックドア装着車



BTO32DZ028



BTO32DZ029

■イージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

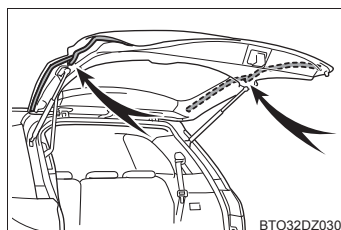
- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワーバックドアメインスイッチがOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動作動に切りかわります。
- パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的に反対方向に動きます。
- 連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

**■半ドア走行時警告ブザー**

→ P. 84

■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 384)

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワーバックドア装着車はパワーバックドアメインスイッチを OFF にすることでパワーバックドアは作動しません)

警告

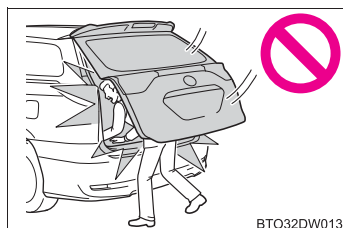
■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

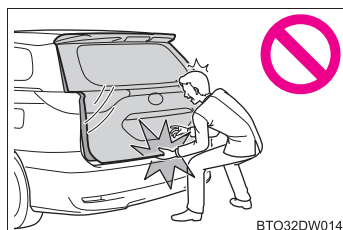
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



BTO32DW013

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



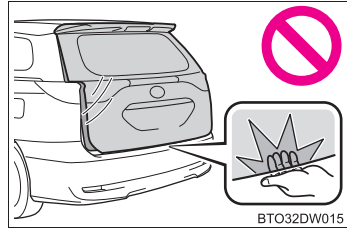
BTO32DW014

- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■ イージークローザーについて（パワーバックドア装着車）

- バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

⚠ 警告

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。

バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

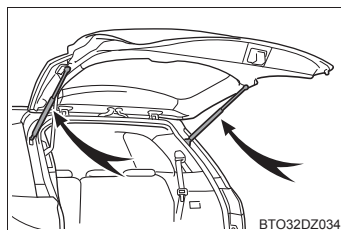
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ イージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。
- バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

 注意**■ パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→ P. 104）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム

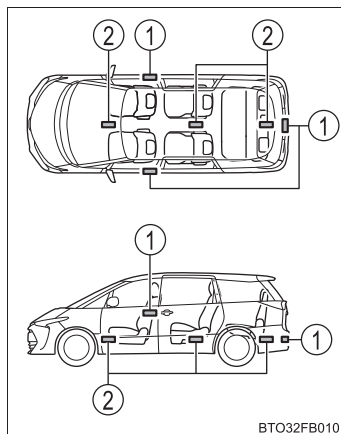
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 83)
- バックドアを施錠・解錠する (→ P. 100)
- エンジンを始動する (→ P. 169)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 室内アンテナ



BTO32FB010

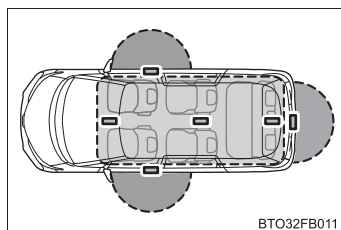
■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

- : ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内に電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- : エンジン始動時またはエンジンスイッチのモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



BTO32FB011

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と2秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした(アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■エンジンスイッチの作動表示灯(→P. 169)が橙色で点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

- ・ 車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
- ・ 5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠・解錠ができなくなります。この場合は、運転席ドアハンドル上のロックスイッチを押して施錠する、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで施錠・解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 364)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属またはメッキ処理のしたあるキーカバー
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・バックドアを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・エンジン始動時やエンジンスイッチのモード切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠しないことがあります。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 111）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの解錠・施錠：→ P. 364
- エンジンの始動：→ P. 364

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 382)

■販売店でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→ P. 83, 364)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 364
- エンジンの停止：→ P. 170

**警告****■電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ(→ P. 110) から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

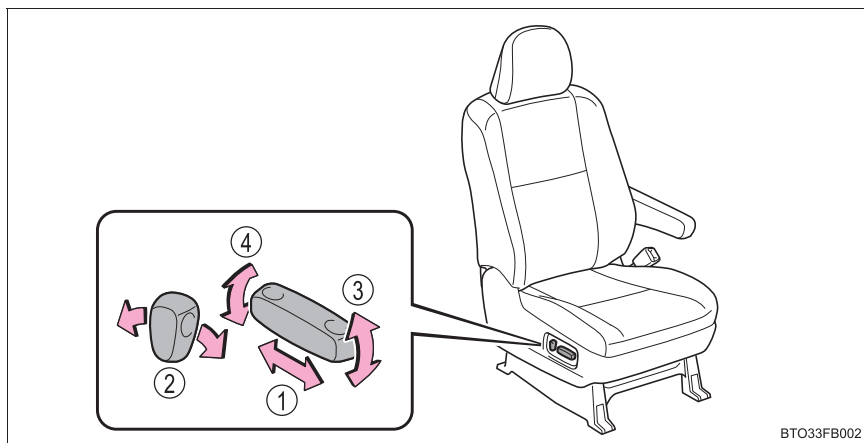
調整のしかた

▶ マニュアルシート



- ① 前後位置調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- ② リクライニング調整
- ④ クッション前端の上下調整
(運転席のみ)

▶ 運転席パワーシート（運転席パワーシート装着車）



- ① 前後位置調整
- ③ クッション前端の上下調整
- ② リクライニング調整
- ④ シート全体上下調整

 警告**■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。
(マニュアルシート)

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

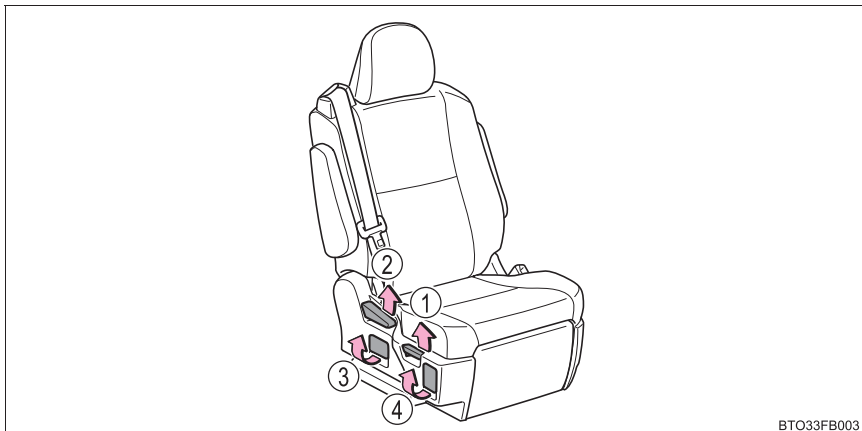
■ 前後位置調整をするとき（7人乗り車）

フロントシートの前後位置調整をするときに、セカンドシートでオットマン(→ P. 119)を使用しているときは、セカンドシートの乗員がフロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう十分注意してください。

セカンドシート

調整のしかた

▶ 7 人乗り車



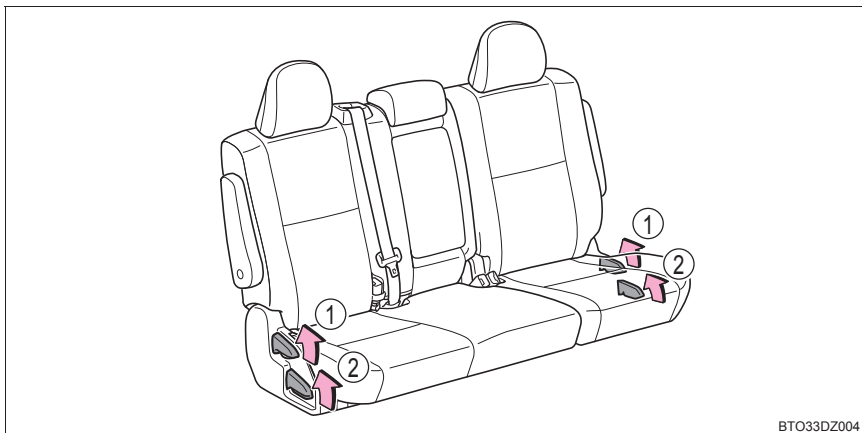
① 前後位置調整

③ 左右位置調整

② リクライニング調整

④ オットマン角度調整・格納

▶ 8 人乗り車

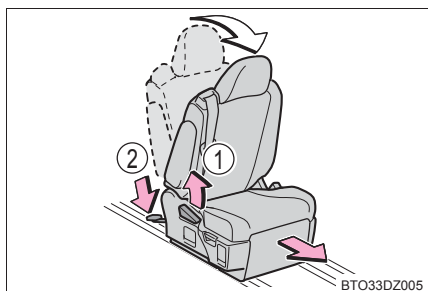


① リクライニング調整

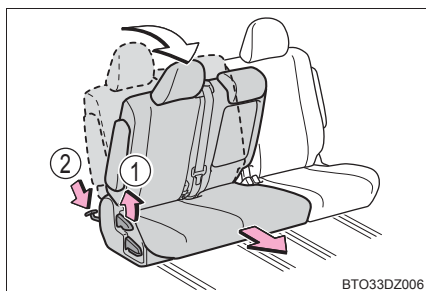
② 前後位置調整

サードシートへの乗り降り

▶ 7人乗り車



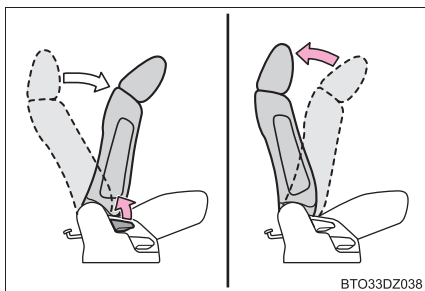
▶ 8人乗り車



リクライニングレバー（①）を引く、または前倒しペダル（②）を踏む
背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

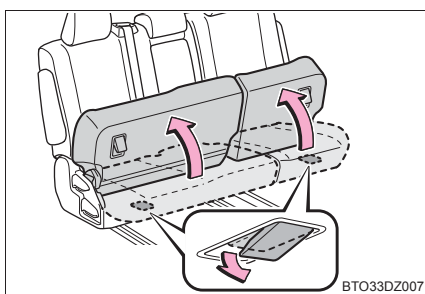
セカンドシートをチップアップするには（8人乗り車）

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 シートベルトのバックルを格納する（→ P. 26）
- 3 背もたれを一度前方に倒し、音がするまで少し後方にもどす



- 4 シートクッション下部のチップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げる

持ち上げたあと、クッションを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

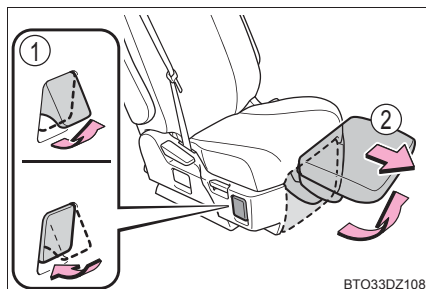


オットマンを使うには（7人乗り車）

■ 取り出したかた

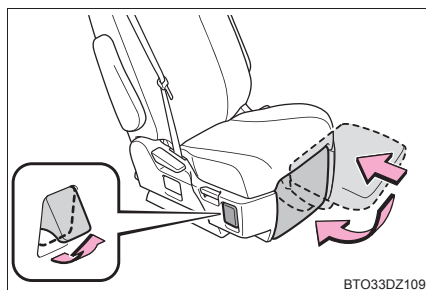
オットマン角度調整・格納レバー（①）を引きながら、角度を調整し、レバーをもどしてオットマンを固定する

必要に応じてオットマンのクッション部（②）を前方にスライドします。



■ 格納のしかた

オットマンのクッション部をもどしてから、オットマン角度調整・格納レバーを引きながらオットマンを格納する



知識

■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートには、オットマンは装着されません。

警告

■ シート調整について

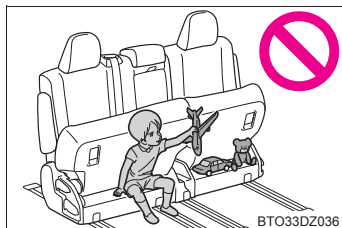
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ サードシートへの乗り降りについて

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

警告**■セカンドシートをチップアップしたときは（8人乗り車）**

セカンドシートをチップアップさせているときに、シートベース部に座ったり、ものを置いたりしないでください。シートクッションとシートベース部の間に挟まれるおそれがあります。

**■前後調整やオットマンの操作をするときは（7人乗り車）**

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマンの使用について（7人乗り車）

- 走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

 注意**■ 背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。
(→ P. 26)

■ 左右位置調整をするときは（7人乗り車）

必ず右側いっぱいか、左側いっぱいまでスライドさせてください。中間位置では左右位置を固定することはできません。

■ サードシートへの乗り降りについて（8人乗り車）

シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

■ オットマンの故障を防ぐために（7人乗り車）

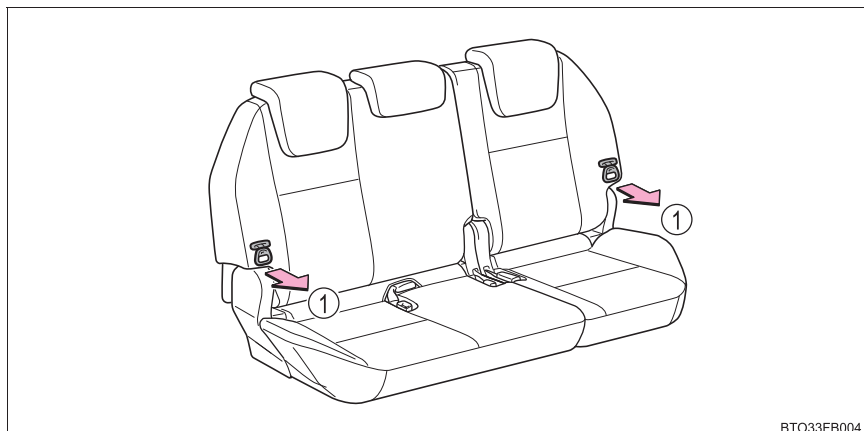
- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- オットマンを格納するときは、オットマンのクッション部をいちばんうしろに戻してから格納してください。いちばんうしろに戻さずに格納すると、オットマンが床面にあたりオットマンが損傷するおそれがあります。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

サードシート

リクライニング調整・背もたれの前倒し／格納のしかた

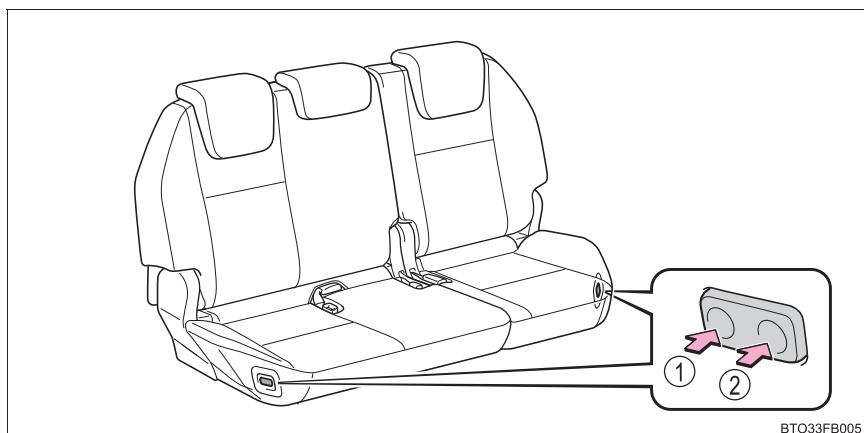
■ リクライニング調整

▶ 手動格納式



① リクライニングレバー

▶ 電動格納式

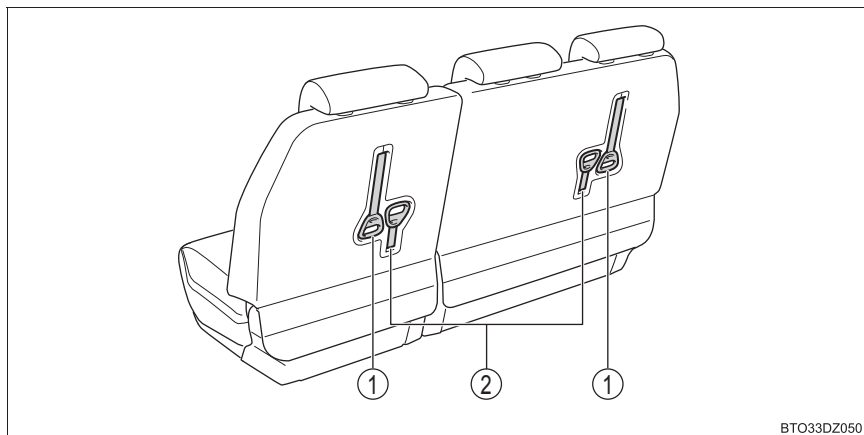


① リクライニングスイッチ（うしろ側へリクライニングする）

② リクライニングスイッチ（前側へリクライニングする）

■ 背もたれの前倒し／格納

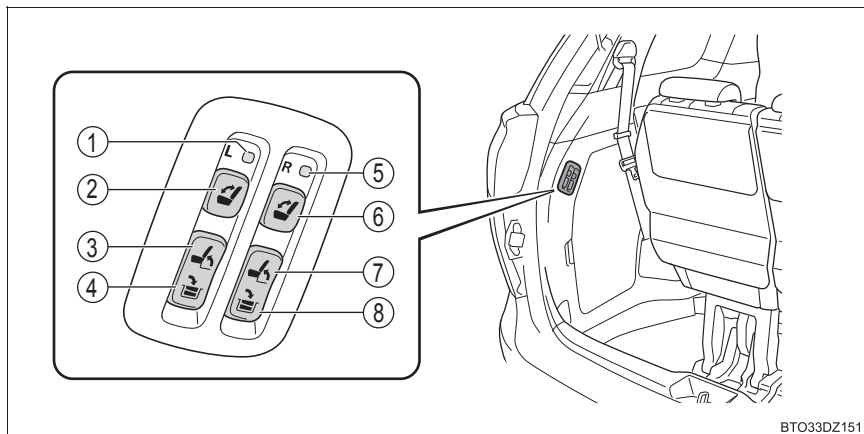
▶ 手動格納式



① ハンドル A

② ハンドル B

▶ 電動格納式



① 作動表示灯（助手席側）

⑤ 作動表示灯（運転席側）

② テーブルスイッチ（助手席側）

⑥ テーブルスイッチ（運転席側）

③ 着座スイッチ（助手席側）

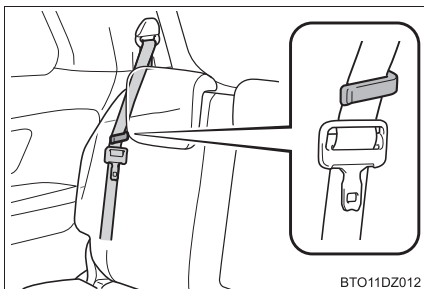
⑦ 着座スイッチ（運転席側）

④ 格納スイッチ（助手席側）

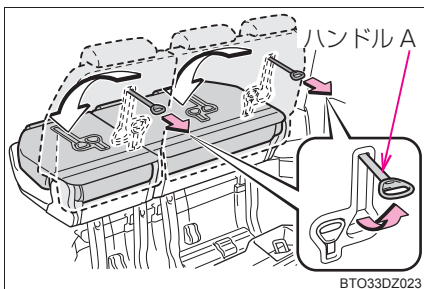
⑧ 格納スイッチ（運転席側）

サードシートをテーブル状態にするには (手動格納式サードシート装着車)

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 バックドアを開ける (→ P. 100)
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。
- 3 デッキフックを格納する (→ P. 267)
- 4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 136)
- 5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む

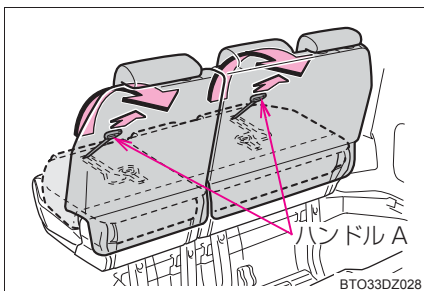


- 6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→ P. 28)
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。
- 7 セカンドシートを前方へ移動する (→ P. 117)
- 8 ハンドル A を引きながら、背もたれを前倒しさせ、ロックさせる



■ もとに戻すときは

背もたれに手をそえて、ハンドル A を引きながら、背もたれを起こしロックさせる

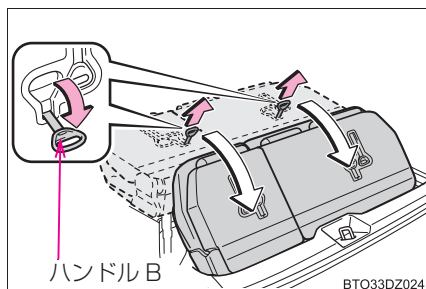


サードシートを格納するには（手動格納式サードシート装着車）

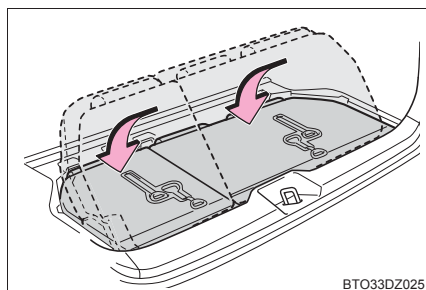
- 1 サードシートをテーブル状態にする（→ P. 124）
- 2 デッキボード装着車は、デッキボードをはずす（→ P. 269）

- 3 ハンドル B を引きながら、シート全体を後方へ引き上げる

シート後端がシート格納部の後端に当るまで引き上げます。



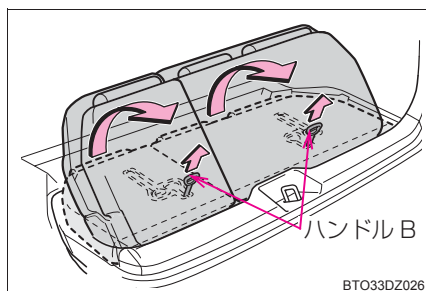
- 4 背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックさせる



■ もとに戻るときは

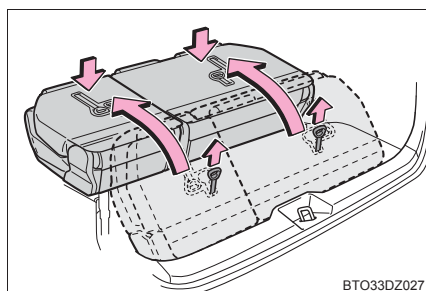
- 1 ハンドル B を引きながら、シート全体を引き上げる

シート後端がシート格納部の後端に当る位置でいったん止まります。

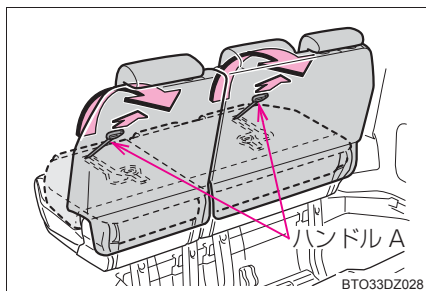


- 2 シート全体を前方に押し出し、背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックさせる

シート全体を押し下げてロックさせるときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。



- 3 背もたれに手をそえて、ハンドル A を引きながら、背もたれを起こしロックさせる

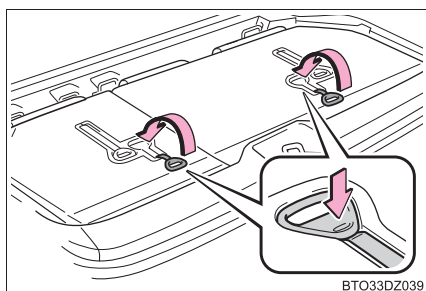


- 4 デッキボード装着車は、デッキボードを取り付ける

■ 背もたれうしろ側のハンドルを使ったあとは

それぞれもとの位置に戻す

“カチッ” と音がするまでハンドルを押し、固定します。



**サードシートをテーブル状態にするには
(電動格納式サードシート装着車)**

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

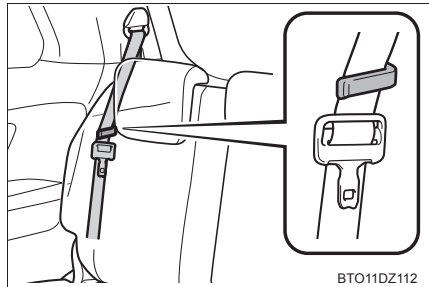
2 バックドアを開ける (→ P. 100)

シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

3 デッキフックを格納する (→ P. 267)

4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 136)

5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む



6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→ P. 28)

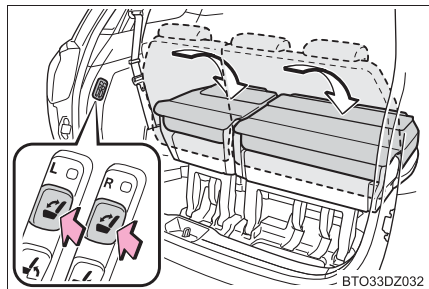
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。

7 セカンドシートを前方へ移動する (→ P. 117)

8 サードシートのクッションが固定されていることを確認する

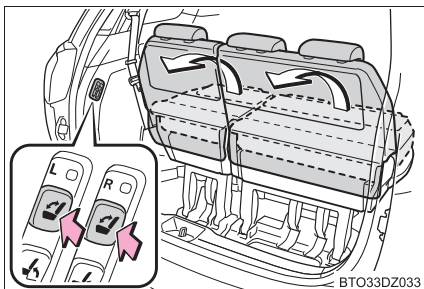
シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

9 テーブルスイッチを押す



■ もとに戻すときは

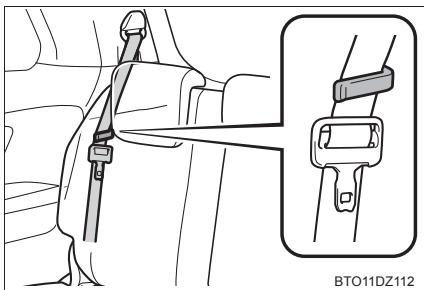
- 1 サードシートのクッションが固定されていることを確認する
シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。
- 2 テーブルスイッチまたは、リクライニングスイッチ (→ P. 122) を押す



BTO33DZ033

サードシートを格納するには (電動格納式サードシート装着車)

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 バックドアを開ける (→ P. 100)
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。
- 3 デッキフックを格納する (→ P. 267)
- 4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 136)
- 5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む

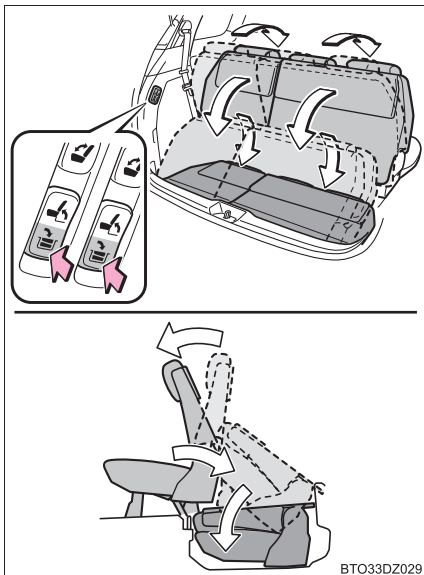
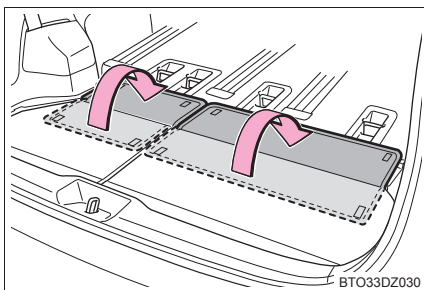


BTO11DZ112

- 6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→ P. 28)
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。
- 7 セカンドシートを前方へ移動する (→ P. 117)

8 格納スイッチを押し続ける

- ・ 作動開始時、ブザーが 2 回鳴り、背もたれが倒れ、シート全体が後方へ格納されます。
- ・ 作動終了時、再度ブザーが 2 回鳴ります。

**9** 背もたれにあるカバーを起こす

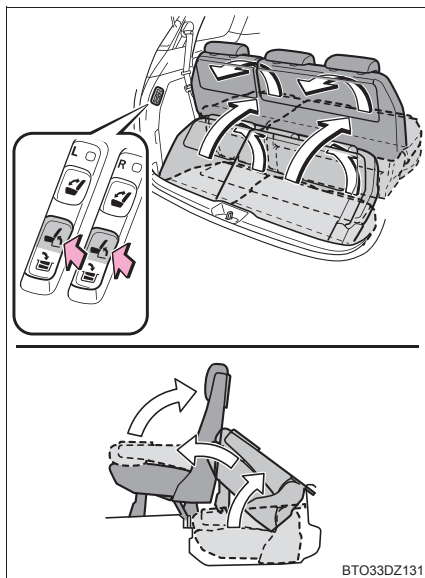
■ もとに戻すときは

着座スイッチを押し続ける

作動開始時、ブザーが2回鳴り、シート全体が前方にもどります。

シート全体が前方にもどり床面に固定されると、再度ブザーが2回鳴り、背もたれが後方にもどりはじめます。

- ・ エンジンスイッチをOFFにしていない、またはシフトレバーをPの位置にしていなときは、スイッチを押しているあいだ作動表示灯が点滅し、作動できないことをお知らせします。
- ・ 背もたれが後方にもどりはじめてからは、着座スイッチから手を離しても、作動は継続されます。



BT033DZ131

□ 知識

■ 作動条件について（電動格納式サードシート装着車）

エンジンスイッチがOFF、またはシフトレバーがPの位置にあるとき

■ サードシートを格納するときは（手動格納式サードシート装着車）

サードシートをテーブル状態にしたときに、背もたれがしっかりとロックされていない状態で、サードシートの格納手順 [3] のハンドル B を引かないでください。安全機構が働き手順 [3] ができなくなる場合があります。

この場合、いったん背もたれをもとの位置まで起こし、テーブル状態で背もたれがしっかりとロックされていることを確認してください。

■ サードシートの格納をもとに戻すときに、ハンドル A を引きながら、ハンドル B を引かないでください（手動格納式サードシート装着車）

ハンドル B を引いてもシート全体が引き上げられないときは、シートが格納された状態で、「サードシートをテーブル状態にするには」（→ P. 124）の手順 [8] を行い、背もたれを確実にロックさせてから、再度ハンドル B を引いてください。

■ サードシートのテーブル状態の作動／復帰作動について (電動格納式サードシート装着車)

- サードシートのテーブル作動／復帰作動中に、同じサードシートの他のスイッチを押した場合、テーブル作動・復帰作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、ブザーが約 10 秒間鳴ります。
テーブル作動・復帰作動が再開されると、スイッチの作動表示灯は消灯します。
- サードシートのテーブル作動／復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅しブザーが約 10 秒間鳴り、テーブル作動・復帰作動が中断されます。
テーブル作動／復帰作動が再開されると、スイッチの作動表示灯は消灯します。

■ サードシートの格納について (電動格納式サードシート装着車)

- サードシートの格納作動中に、次のことをした場合、格納作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、ブザーが約 10 秒間鳴り格納操作が中断されます。エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd Seat」と表示されます。
 - ・ 格納スイッチから手を離した
 - ・ 格納作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押した
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときで、シフトレバーを P から P 以外に動かした上記の条件を解消し、作動を再開させたときにスイッチの作動表示灯は消灯します。
- サードシートの格納作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅し、ブザーが約 10 秒間鳴り格納作動が中断されます。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd Seat」と表示されます。
作動が再開されたとき、スイッチの作動表示灯・マルチインフォメーションディスプレイの「3rd Seat」は消灯します。

■ サードシートの格納をもどすときについて（電動格納式サードシート装着車）

- サードシートの復帰作動中に、次のことをした場合、復帰作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、ブザーが約 10 秒間鳴り復帰操作が中断されます。エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd Seat」と表示されます。

- ・ 着座スイッチから手を離れた
- ・ 復帰作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押した
- ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときで、シフトレバーを P から P 以外に動かした

上記の条件を解消し、作動を再開させたときにスイッチの作動表示灯は消灯します。

- サードシートの復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅し、ブザーが約 10 秒間鳴り格納作動が中断されます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd Seat」と表示されます。

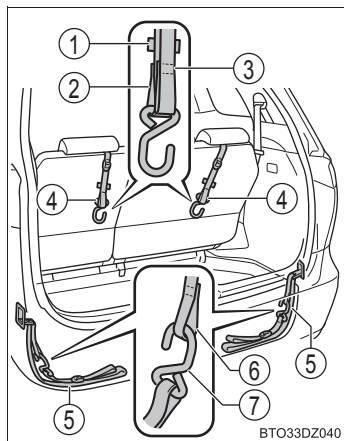
作動が再開されたとき、スイッチの作動表示灯・マルチインフォメーションディスプレイの「3rd Seat」は消灯します。

■ 車いす固定ベルト装着車のサードシートの格納について

サードシートの格納をする前に次の準備をして、車いす固定ベルトがサードシートに挟み込まないようにしてください。

- ラゲージルーム側の車いす固定ベルトは、ベルトの付け根のリングにフックを引っ掛けておく
- 背もたれ側の車いす固定ベルトは、手前側と奥側のベルトの長さを同じくらいに調整し、重ねて面ファスナーで背もたれに貼り付けておく

- ① 面ファスナー
- ② 奥側のベルト
- ③ 手前側のベルト
- ④ 背もたれ側のベルト
- ⑤ ラゲージルーム側のベルト
- ⑥ リング
- ⑦ フック

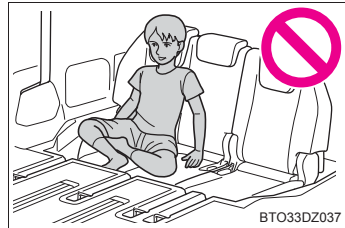


BTO33DZ040

警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。(手動格納式サードシート装着車)
- シートを格納するときは、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床面の間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。(手動格納式サードシート装着車)
- 助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対に座らないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを格納するとき、またはもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- サードシートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する(手動格納式サードシート装着車)
- シートベルトを挟み込まないようにする

 注意**■ リクライニング調整をするときは**

リクライニング調整をするときは、背もたれをバックドアに当てないように注意してください。バックドアなどを損傷するおそれがあります。

■ サードシートをテーブル状態／格納するときは

必ずシートベルトとバックルを格納してください。(→ P. 28)
シートベルトやシートを損傷するおそれがあります。

■ サードシートの格納について（手動格納式サードシート装着車）

格納状態からもどす操作（→ P. 125）の手順 **[2]** で、シートを前方に押し出している途中にシートを押し下げないでください。

途中でシートを押し下げると、シートの脚部で床面を損傷する恐れがあります。シートをロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してからシートを押し下げてください。

■ 損傷を防ぐために

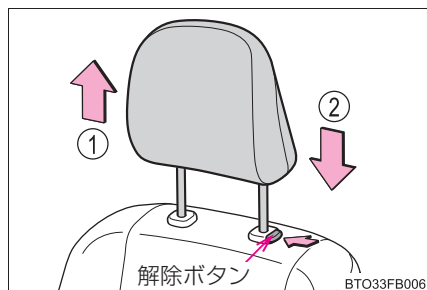
- シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、サードシートを格納、またはテーブル状態にしないでください。荷物や座布団などを挟んでしまうと、シートを損傷するおそれがあります。
- サードシートを格納するときはサードシート格納部に物がないことを確認してください。物がある状態でサードシートを格納すると、シートが損傷するおそれがあります。
- サードシートをもどすときは、床面に物がないことを確認してください。物がある状態でサードシートをもとにもどすと、シート固定部などを損傷するおそれがあります。
- 販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車（→ P. 302）は、サードシート格納スペースにスペアタイヤが搭載されるため、サードシートの格納ができません。
無理にサードシートの格納操作を行うとサードシートを損傷するおそれがあります。

ヘッドレスト

フロントシート

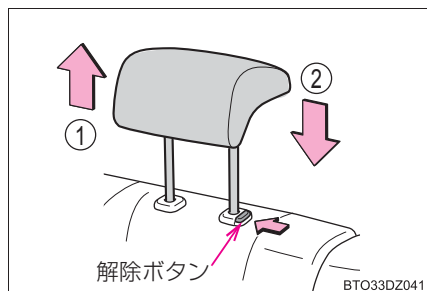
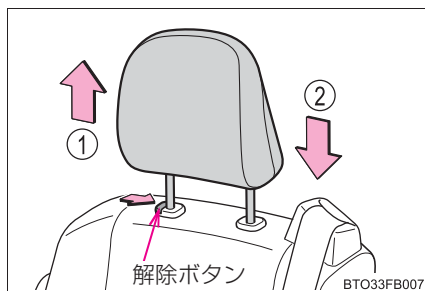
- ① 上げる
- ② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



セカンドシート

- ▶ 7人乗り車／8人乗り車(左右席) ▶ 8人乗り車（中央席）

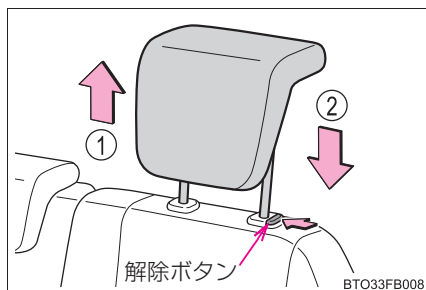


- ① 上げる
- ② 下げる※

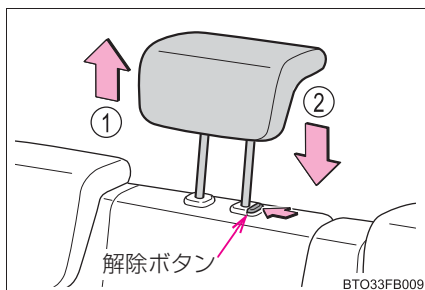
※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

サードシート

▶ 左右席



▶ 中央席



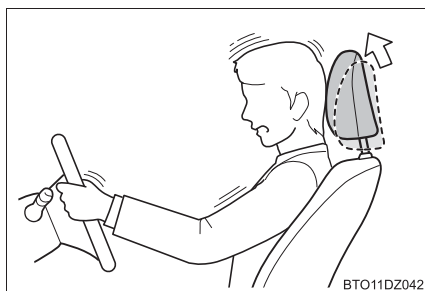
① 上げる

② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

アクティブヘッドレスト（フロントシート）

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむちうちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

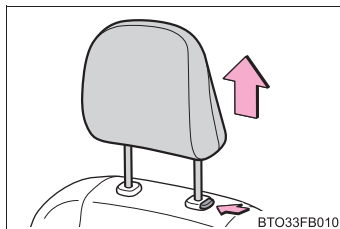


 知識

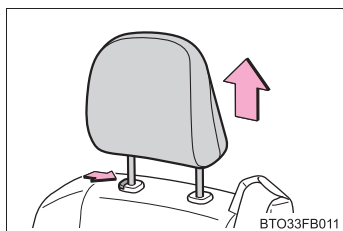
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます

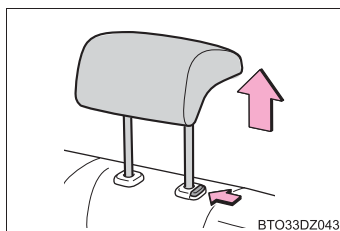
▶ フロントシート



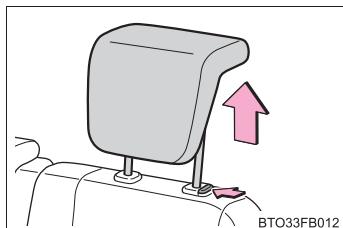
▶ 7人乗りセカンドシート／8人乗りセカンドシート（左右席）



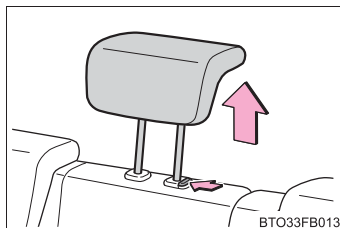
▶ 8人乗りセカンドシート（中央席）



▶ サードシート（左右席）

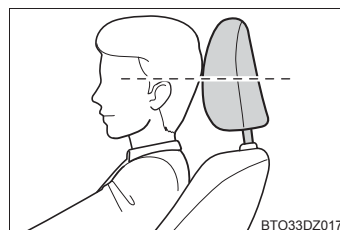


▶ サードシート（中央席）



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ 8人乗りセカンドシート（中央席）／サードシートについて

使用するときは、常に格納位置から上げた位置にしてください。

■ アクティブヘッドレストについて（フロントシート）

- 背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。
- 解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

⚠ 警告**■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

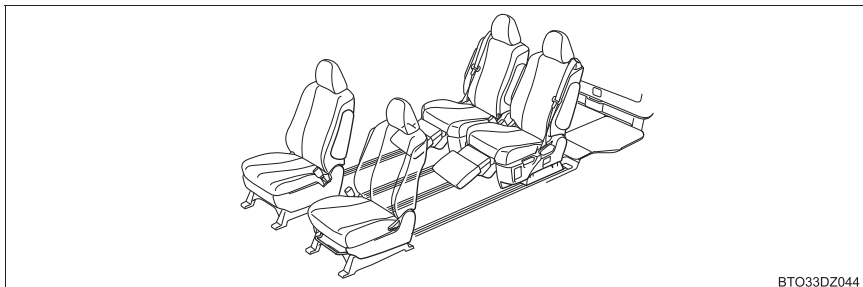
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

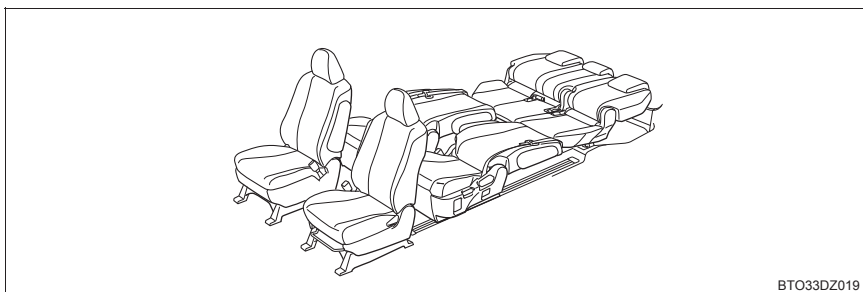
◆ スーパーリラックスモード (7人乗り車)

→ P. 140



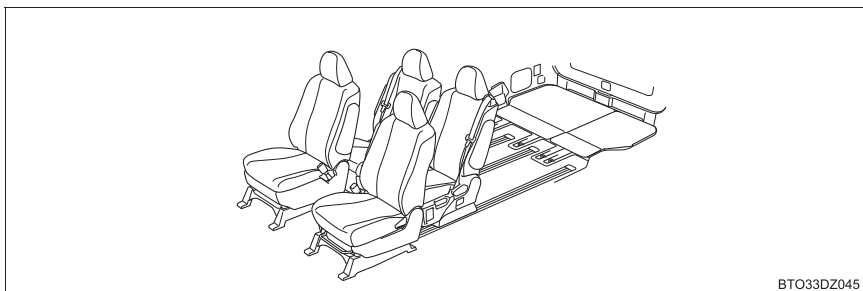
◆ セカンドシート・サードシートフラットモード

→ P. 141



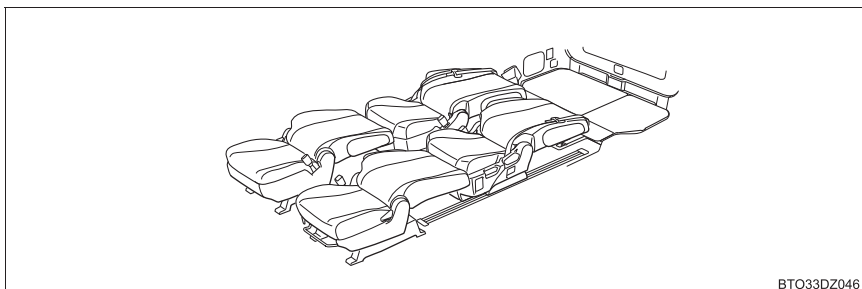
◆ フラットラゲージモード

→ P. 142



◆ フロントシート・セカンドシートフラットモード (サードシート床下収納)

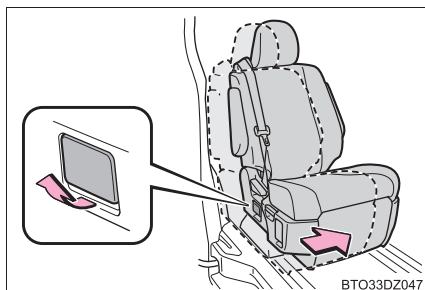
→ P. 142



BTO33DZ046

スーパーリラックスモードにするには (7人乗り車)

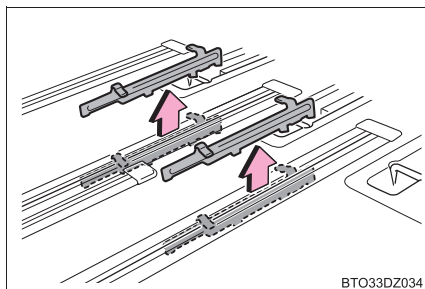
- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 サードシートを格納する (→ P. 125, 128)
- 3 セカンドシートの左右位置調整レバーを引いてセカンドシートを中央いっぱいまでスライドする



BTO33DZ047

- 4 スライドストッパーを取りはずす

セカンドシート後方のシートレールから、スライドストッパー (2 本) を取りはずします。



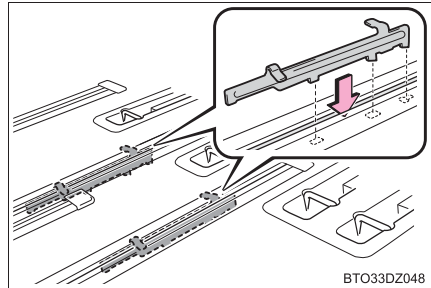
BTO33DZ034

- 5 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを後方へスライドする (→ P. 117)
- 6 オットマン角度調整・格納レバーを引いて、オットマンを引き起こす (→ P. 117)

必要に応じてオットマンのクッション部を前方へスライドします。(→ P. 119)

■ スライドストッパーを取り付けるときは

スライドストッパーを取り付けるときは、シートレール内の穴（3カ所）にスライドストッパーのツメを差し込む



セカンドシート・サードシートフラットモードにするには

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする（→ P. 265）
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする（→ P. 117）
- 4 7人乗り車は、セカンドシート左右位置を中央に移動させる（→ P. 117）
- 5 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 135）
- 6 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 117）
- 7 サードシートのヘッドレストを下げる（→ P. 136）
- 8 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 122）

フラットラゲージモードにするには

▶ 7 人乗り車

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする (→ P. 265)
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする (→ P. 117)
- 4 サードシートを格納する (→ P. 125, 128)

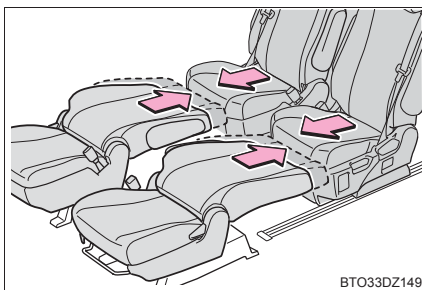
▶ 8 人乗り車

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 セカンドシートをチップアップする (→ P. 118)
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする (→ P. 117)
- 4 サードシートを格納する (→ P. 125, 128)

フロントシート・セカンドシートフラットモード (サードシート床下収納) にするには

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 サードシートを格納する (→ P. 125, 128)
- 3 フロントシートを前方いっぱいまでスライドする (→ P. 115)
- 4 フロントシートのヘッドレストをはずす (→ P. 135)
- 5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→ P. 115)
- 6 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする (→ P. 265)
- 7 7 人乗り車は、セカンドシート左右位置を中央に移動させる (→ P. 117)
- 8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるように必要に応じてシートを移動させる (→ P. 115, 117)

セカンドシートのクッションとフロントシートの背もたれがフラットになるようにフロントシートのリクライニング位置を調整します。



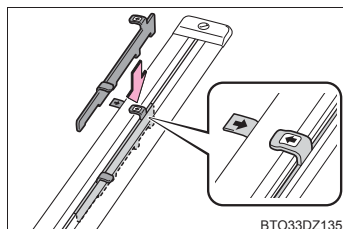
BTO33DZ149

- 9 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→ P. 117)

知識

■ スライドストッパーについて（7人乗り車）

- セカンドシート後方のスライドレールにスライドストッパー（2本）があります。これはセカンドシートを後方へスライドさせたとき、セカンドシートの後端とサードシートのクッションの間に、サードシートの乗員が足を挟まないようにするためのものです。サードシートに人が乗っているときは、取り付けた状態にしておいてください。
- 販売店装着オプションのフロアマットを装着した場合、フロアマットに表示されている矢印と、スライドストッパー取っ手部の矢印をあわせてスライドストッパーを取り付けてください。



- スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋（→ P. 295）に入れておくことをおすすめします。

■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

警告

■ シートアレンジについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■ セカンドシートをチップアップしたときは（8人乗り車）

→ P. 120

警告**■ サードシートを格納したときは**

→ P. 133

■ フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

注意**■ シートアレンジについて**

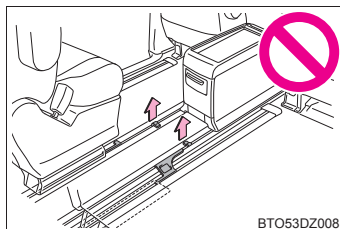
シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■ フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

■ スライドストッパーについて（7人乗り車）

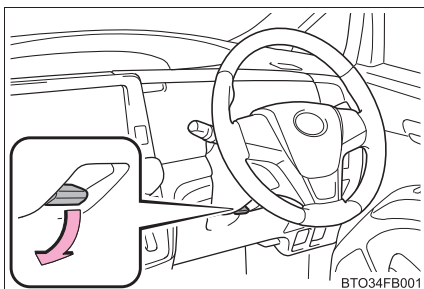
セカンドシート前側のストッパーは、取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると、レール部やストッパーなどが破損し、もとに戻せなくなるおそれがあります。



ハンドル

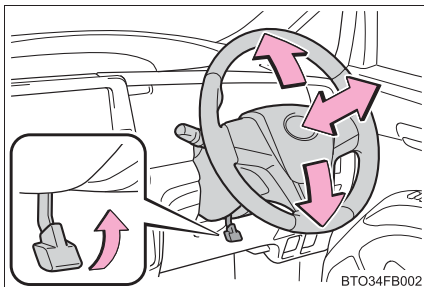
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



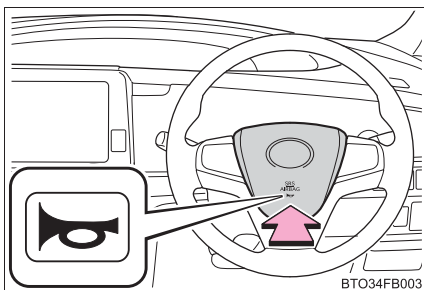
- 2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 警告**■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

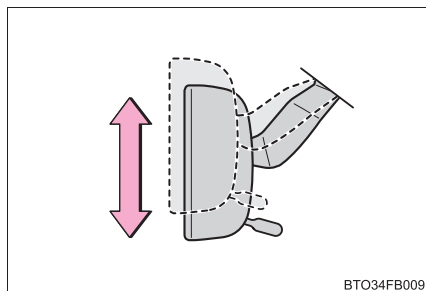
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

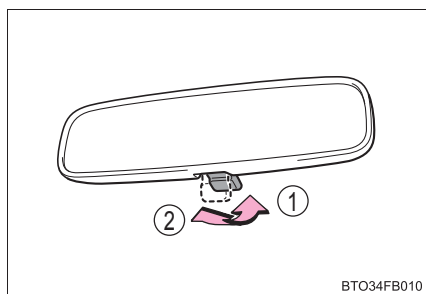
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

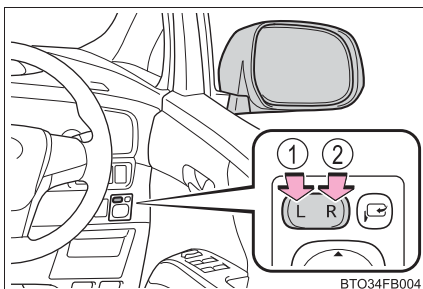
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

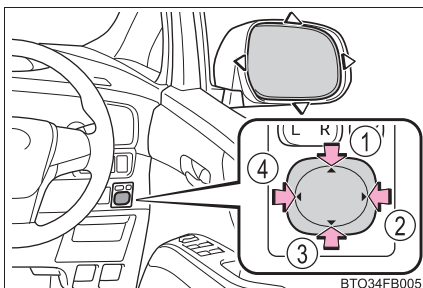
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左

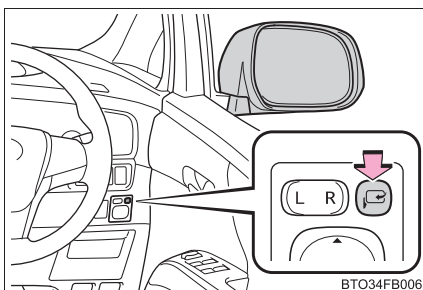


ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



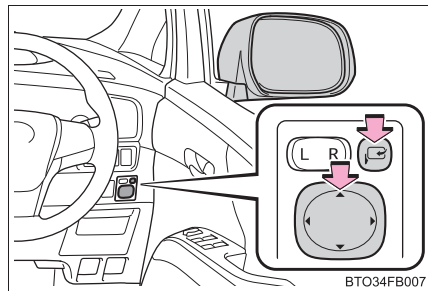
■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。また、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすることにより、復帰させることができます。

オート電動格納機能の ON（作動）・OFF（非作動）切りかえ

次の手順で機能の ON（作動）・OFF（非作動）が交互に切りかわります。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ミラー格納スイッチと鏡面調整スイッチの ▲ を、同時に約 2 秒以上押す



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリーを脱着したとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ON（作動）の状態にもどります。機能を OFF（非作動）にするときは、再度、オート電動格納機能の ON（作動）・OFF（非作動）切りかえを行ってください。

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 243）

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 281）を行ってください。

■寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用するとき

寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないときがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、スイッチを押してドアミラーを格納・復帰（→ P. 148）させるか、手で動かしてください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

 注意**■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

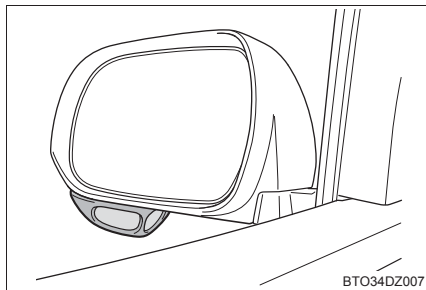
親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。撥水剤が付着した場合、速やかに水を含ませたスポンジに重曹をつけてふき取ってください。また、ふき取ったあとの重曹は十分に水で洗い流してください。重曹が残っていると、乾燥したときに鏡面が白くなり取れなくなる場合があります。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーター★を作動させるなどして解氷してください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

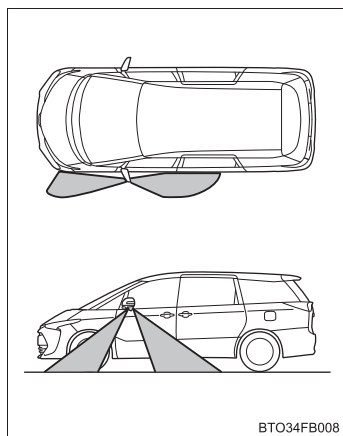


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウィンドウ

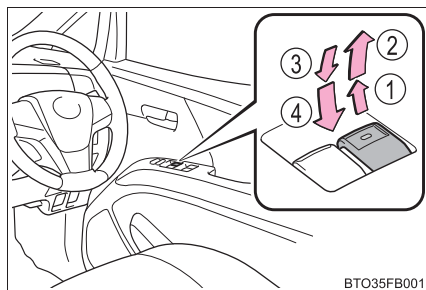
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

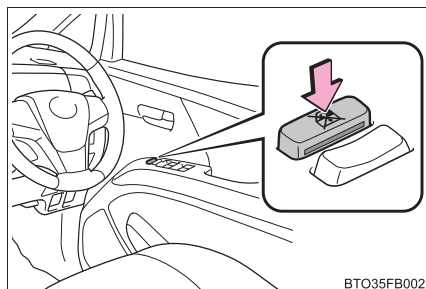


BTO35FB001

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスとリヤサンシェード★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスや、リヤサンシェード★を開閉することを防止できます。



BTO35FB002

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 43 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアガラスを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- ② パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒間引き続ける
- ③ パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 2 秒間押し続ける
- ④ 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 364）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 80）
- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉めることができます。＊（→ P. 83）

＊ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 383）

■ 窓開警告表示

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「窓が開いています」が表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 383）

警告

次のことを必ずお守りください。

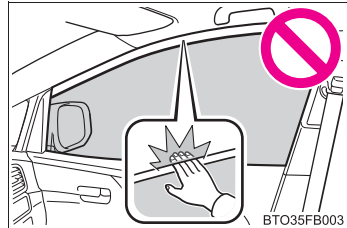
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 153)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステム・メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

またお子さまには、ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステム・メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

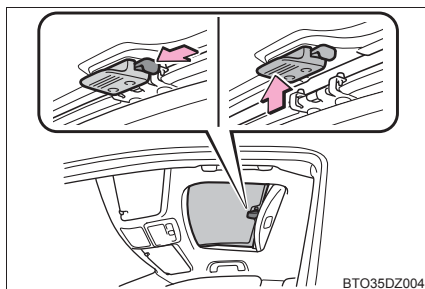
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

大型ムーンルーフ★

フロントムーンルーフをチルトアップする

ボタンを押しながらハンドルを押上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。

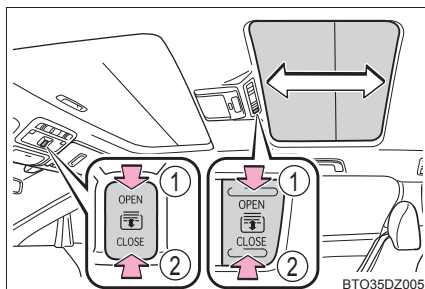


リヤサンシェードを開閉する

① 開ける※

② 閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



知識

■ リヤサンシェードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき※

※ ただし、ウインドウロックスイッチが ON になっているときは作動しません。
(→ P. 153)

■ フロントサンシェードについて

手動で開閉できます。

■ 挟み込み防止機能（リヤサンシェード）

リヤサンシェードを閉めるときに、窓枠とシェードの間に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、挟み込み防止機能が作動することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

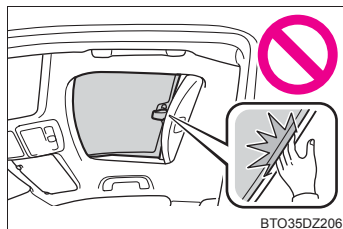
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントムーンルーフをチルトアップしているとき

走行中はルーフから手を出さないでください。

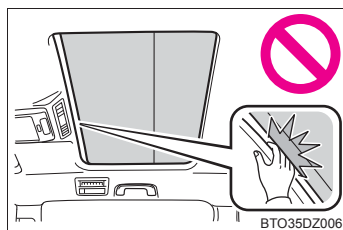
■フロントムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、フロントムーンルーフ開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはフロントムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がフロントムーンルーフに挟まれたりするおそれがあります。
- フロントムーンルーフを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだりしないように注意してください。

**■リヤサンシェードを開閉するときは**

- 運転者は、リヤサンシェード開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはリヤサンシェードの操作をさせないでください。お子さまや他の人がリヤサンシェードに挟まれたり、巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 153)

- リヤサンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■ やけどやけがを防ぐために**

ルーフの下側とリヤサンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

■ 挟み込み防止機能（リヤサンシェード）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、リヤサンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ 損傷を防ぐために**

- フロントムーンルーフを開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- ルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。
- リヤサンシェードが全開・全閉したあとにスイッチを押し続けしないでください。

■ 洗車後や雨が降ったあとなどは

フロントムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	160
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	169
オートマチック トランスミッション	174
方向指示レバー	178
パーキングブレーキ	179

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	180
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	183
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	185

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	187
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	190
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	195
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報） ..	208
オートマチックハイビーム ...	213
先行車発進告知機能	217

4-6. 運転支援装置について

4WD オートモード	219
クルーズコントロール	220
クリアランスソナー	223
運転を補助する装置	230

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	236
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→ P. 169

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 174)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 179)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 174)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 179)、シフトレバーを P にする (→ P. 174)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 230)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなった
りするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルや
ブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため
で、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 駆動力の抑制について

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制す
る場合があります。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に
取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作用補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 334を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 174)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。

本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロード走行をするときは、慎重に運転してください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **停車するとき**

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 349 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やセカンドシートまたはサードシート（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

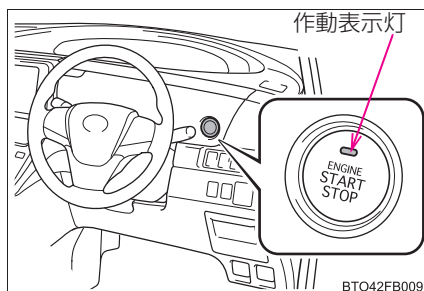
電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンはかかりません。



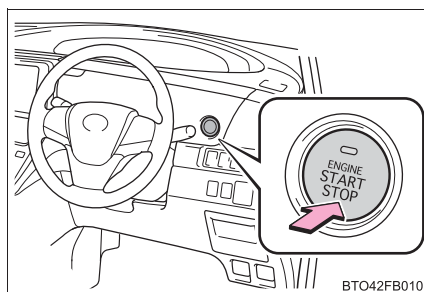
- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 170）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて (→ P. 179)、シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジンスイッチを押す
- ④ ブレーキペダルから足を離れた状態にして、エンジンスイッチの作動表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、エンジンスイッチのモードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにエンジンスイッチのモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

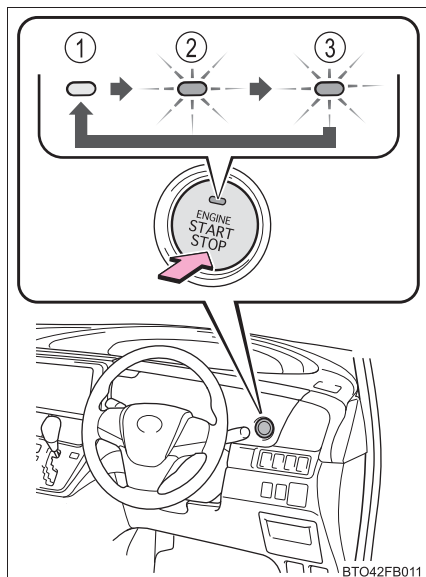
アクセサリースOCKETなどの電装品が使用できます。

エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチを 2 回押す
- 4 エンジンスイッチの作動表示灯が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードにしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 81

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 112

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 113

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモバイザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 60)
トヨタ販売店へご連絡ください。

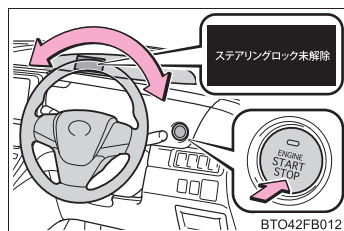
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

■ ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点滅したときは

→ P. 111

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 310

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、エンジンスイッチのモードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 364

 警告**■ エンジンを開始するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 334)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯しているときは、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを開始するとき

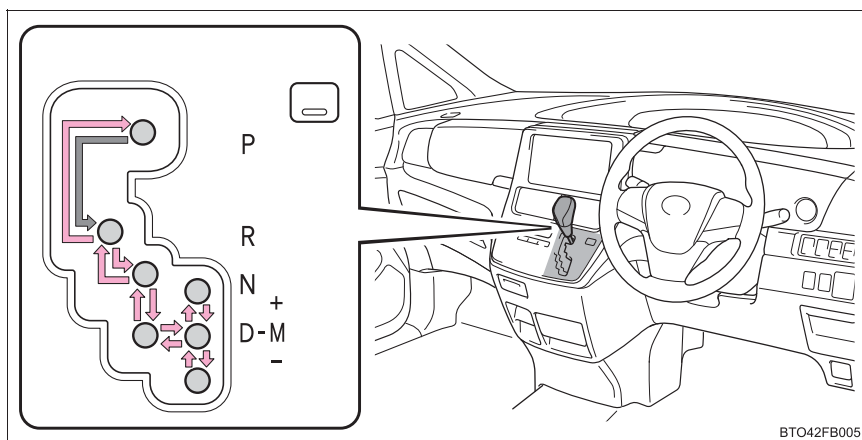
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



BTO42FB005

← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→ P. 175)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

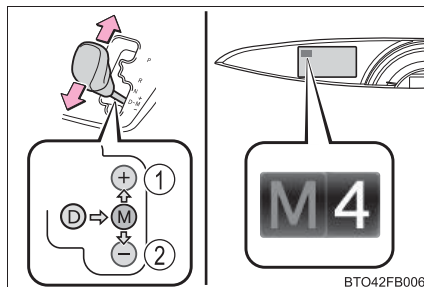
シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作することにより 1 速ずつ変速します。

1～7 のあいだで選択されている変速段がマルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。



BTO42FB006

知識

■ 7速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

(7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に 7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 へシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→ P. 222)

■ シフトレバーを M にしても、シフトポジション表示が M にならないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ M ポジションで走行中に停車したときは

(7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時)

- 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- 停止後は M1 に固定されます。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだ状態であれば、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

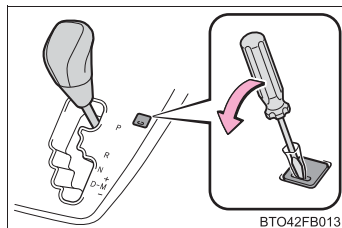
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチをOFFにする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

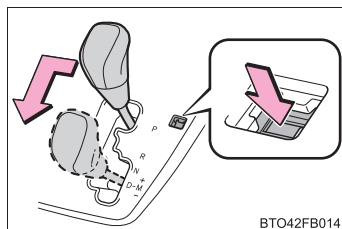
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

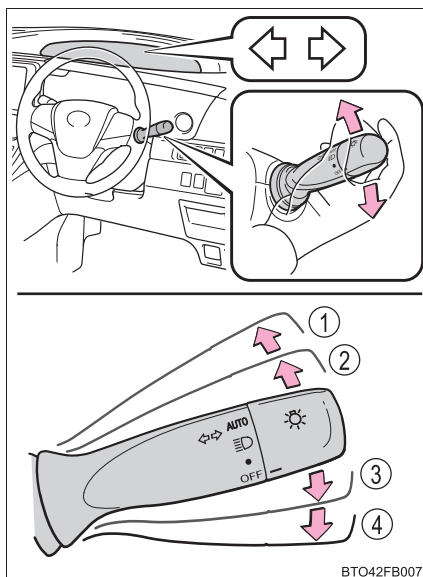
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



BTO42FB007

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

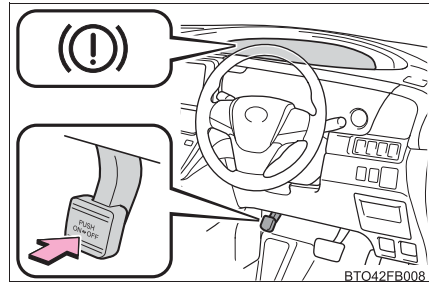
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む
(再度踏み込むと解除される)



知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 237

■ 駐車するとき

→ P. 160

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキが解除されず車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

注意

■ 走行前の注意

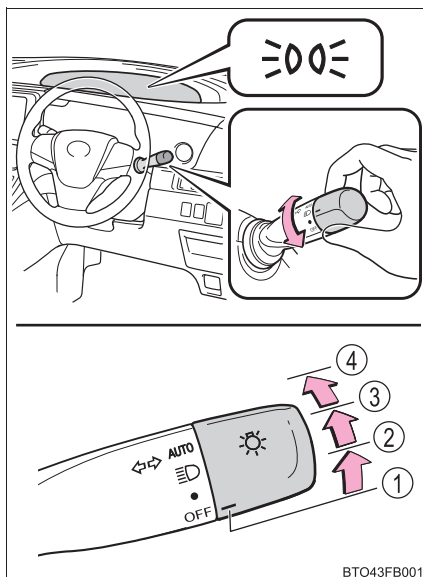
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

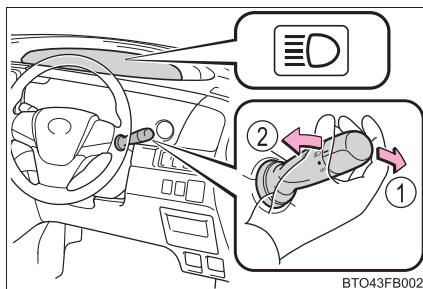
- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・薄暮灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ AUTO ヘッドランプ・LED デイライト (→ P. 181)・薄暮灯・車幅灯などを自動点灯・消灯 (エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)



BTO43FB001

ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



BTO43FB002

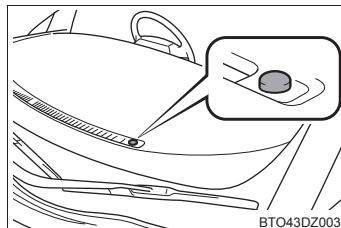
 知識

■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを **AUTO** にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態でフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを **AUTO** または OFF の位置にもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「ライトが点灯しています」が表示されます。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 384)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

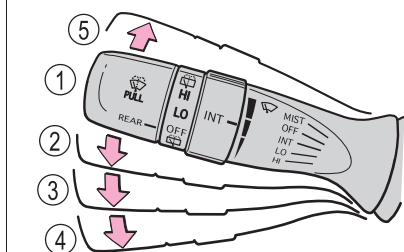
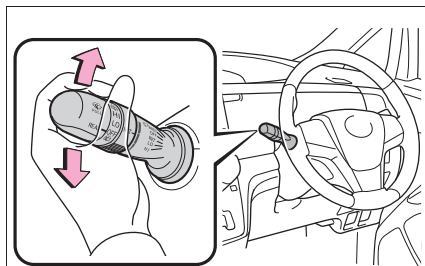
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

“INT” を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

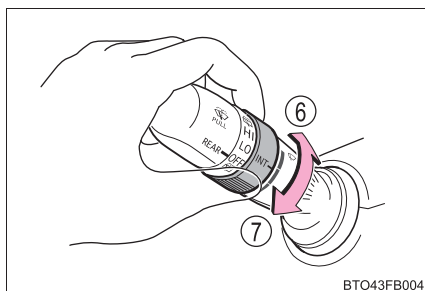
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

- ① OFF 停止
- ② INT 間欠作動
- ③ LO 低速作動
- ④ HI 高速作動
- ⑤ MIST 一時作動



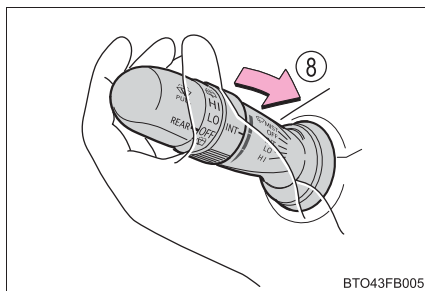
BTO43FB003

- ⑥ 間欠時間（長）
- ⑦ 間欠時間（短）



BTO43FB004

- ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

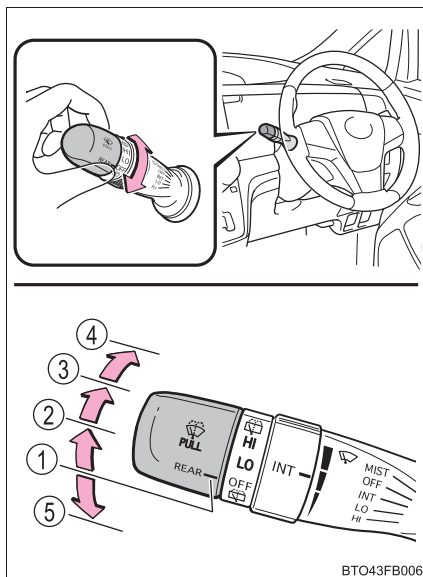
■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① OFF 停止
- ② LO 間欠作動
- ③ HI 連続作動
- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ⑤  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

■ 助手席側スライドドアが全開にならない状況

給油扉が開いていると、助手席側スライドドアは途中までしか開きません。
(→ P. 91)

 警告**■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

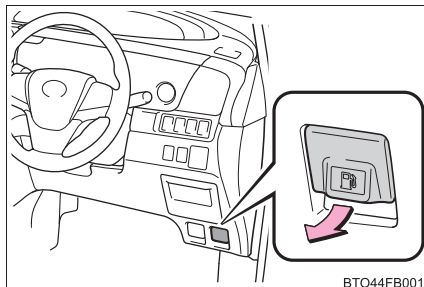
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

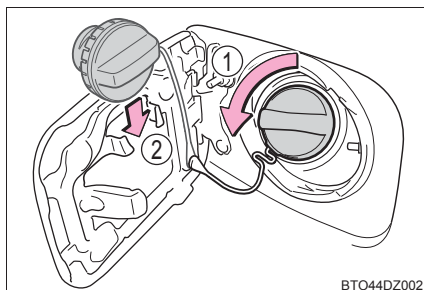
給油口の開け方

- 1 給油扉オープナーを引いて、給油扉を開ける



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

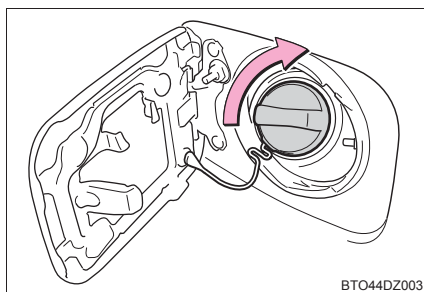
- ① まわす
- ② はめ込む



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 195

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 208

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 213

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 217

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムは 認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

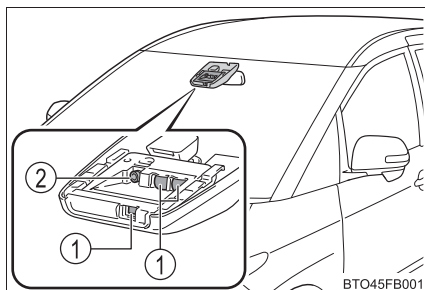
- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある２種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 単眼カメラ



警告

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007

Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平×垂直）：28° × 12°

警告

■前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

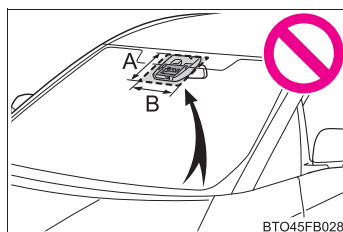
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼りつけない

A: フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

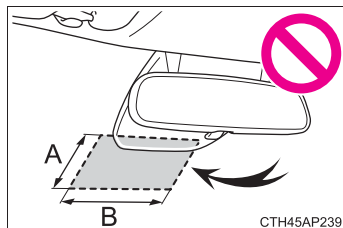
B: 約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



- フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A: 前方センサー下端から下約 10cm まで

B: 約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



- 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロッスターで曇りなどを取り除いてください。（→ P. 243）

- 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
- フロントウインドウガラスの前方センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

 警告

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず
に交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズ
に付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラー・サンバイザーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさ
えぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサー
の視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

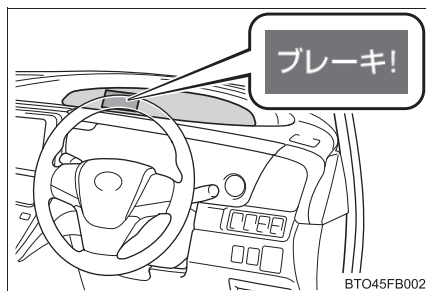
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 198）

◆ 衝突警報

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突の回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 200
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 204
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約2秒後に解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→ P. 199)
 - ・ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする (→ P. 198)

 警告**■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき (→ P. 292, 305)
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- スペアタイヤ[※]やタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

※ 販売店装着オプション

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF を変更する

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティシステムは ON になります。



BTO45FB004

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

いったん警報タイミングを変更すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

① 遠い

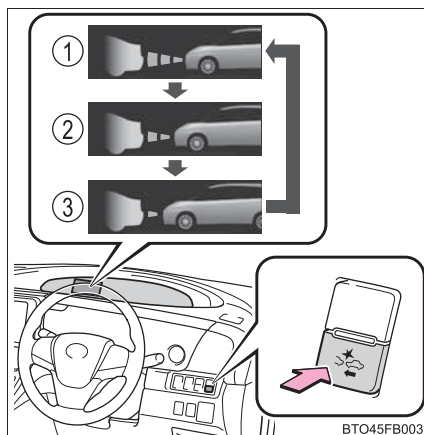
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



BTO45FB003

 知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 15km/h ～ 140km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

● バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

● シフトレバーが R のとき

● VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

● PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■ プリクラッシュブレーキの作動解除

● プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む※
- ・ ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

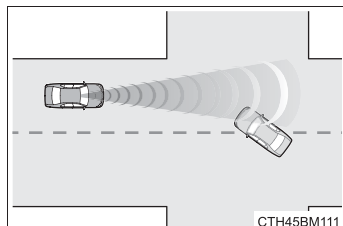
※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

● プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

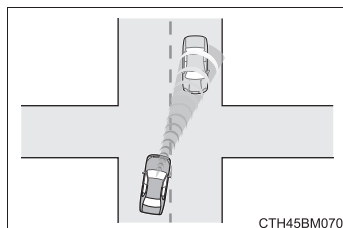
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

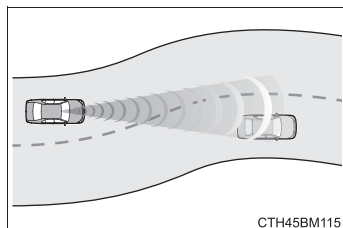
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



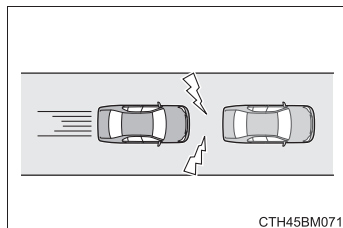
- ・ 右左折時に対向車とすれ違ったとき



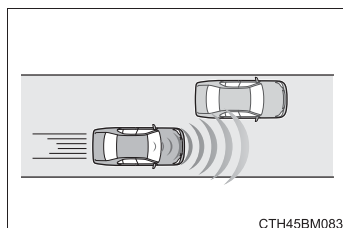
- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道(曲がりくねった道など)を走行するとき



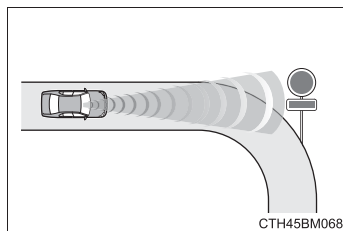
- ・ 先行車に急速に接近したとき



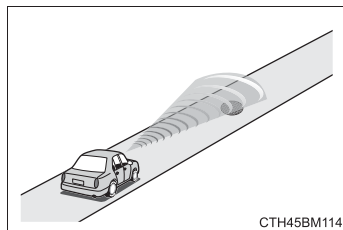
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 車両や構造物のすぐそばを通過するとき



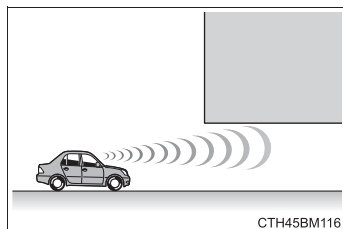
- ・カーブの入り口の道路脇に車両・構造物が存在するとき



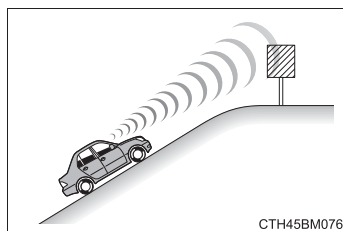
- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に反射物（マンホール・鉄板など）・段差・くぼみ・突起物があるとき



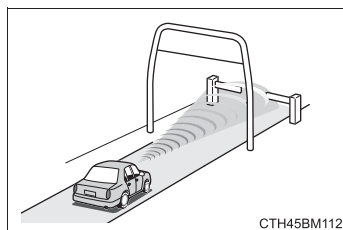
- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



- ・上り坂で進行方向の道路上方に構造物（立体交差・道路標識・看板・街灯など）があるとき

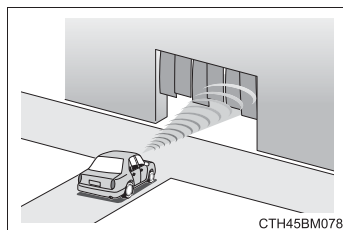


- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき

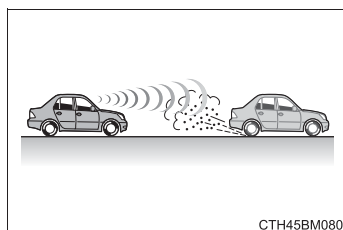


- ・洗車機を使用するとき

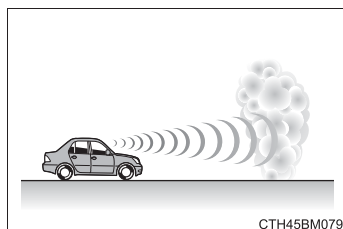
- ・ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝・生い茂った草など）がある場所を走行するとき



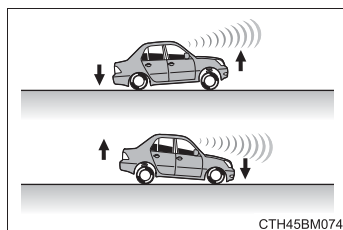
- ・ 前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき



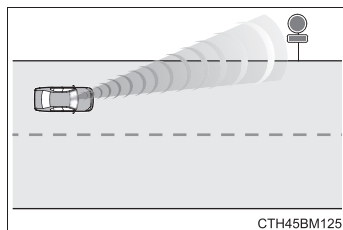
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき



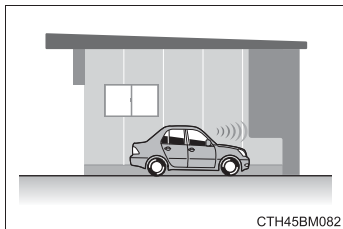
- ・ 路面または壁面に車両との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



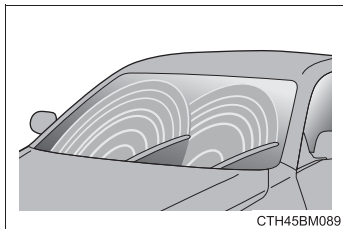
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



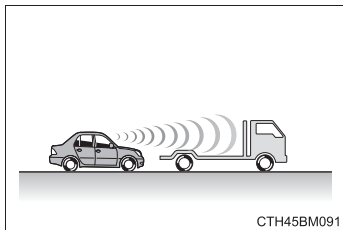
- ・ フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



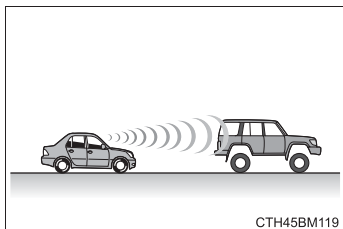
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

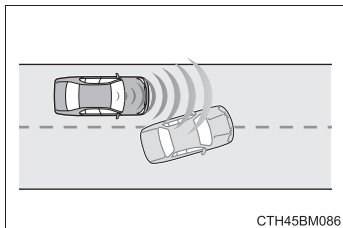
- ・ 前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・ 前方車両が横向き、自車向きするとき
- ・ 先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

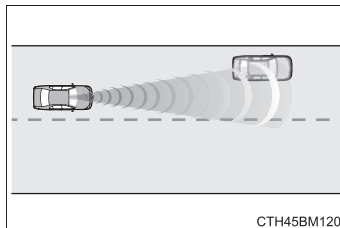


- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

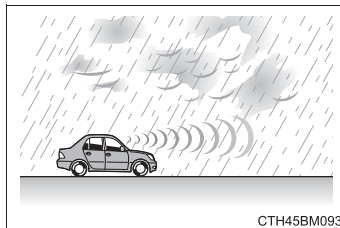


- ・ 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき

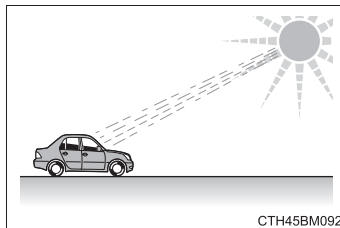
- ・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



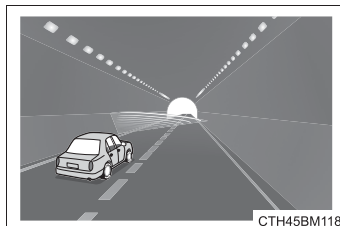
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



- ・ 前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 水蒸気や煙などで前方車両が見えないとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

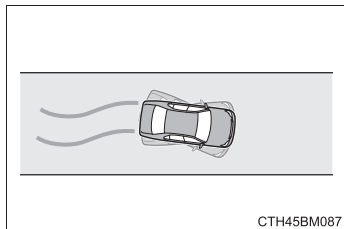


- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内

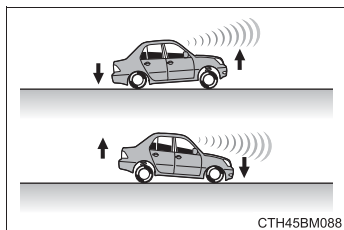


- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間

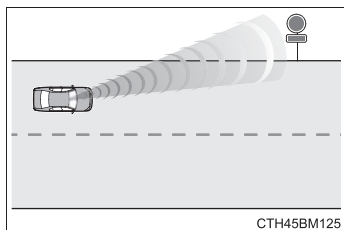
- ・ 自車が横すべりしているとき



- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方センサーの視界をさえぎっているとき
- ・ ふらつき運転をしているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 先行車がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

■ PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

● 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

- ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
- ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき (→ P. 243)
- ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方センサー付近にシールが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき

● PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

● TRC と VSC の作動を停止 (→ P. 232) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

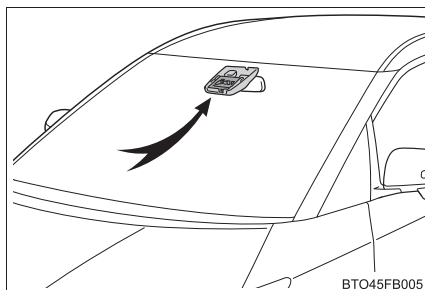
● PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

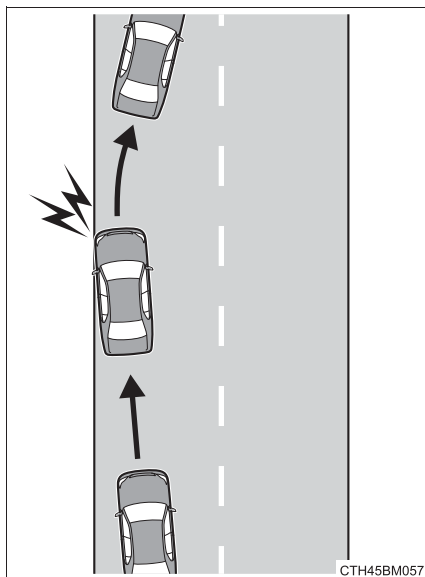
LDA は、フロントウインドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF してください。

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

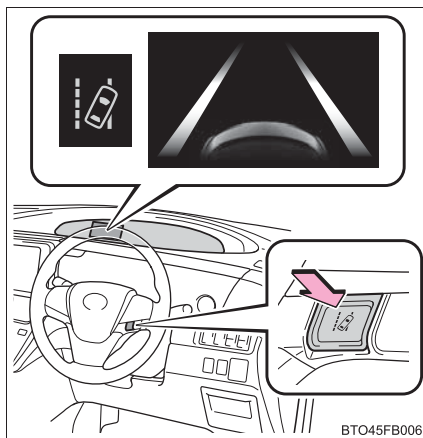
設定のしかた

LDAを使用するにはLDAスイッチを押す

メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFFにするには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



BTO45FB006

マルチインフォメーションディスプレイ表示



BTO45FB007

白線表示の内側が白いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。



BTO45FB009

白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 345）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 211）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 191）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→P. 345）

警告メッセージが表示されても、通常の走行に支障はありません。

■カスタマイズ機能

→ P. 75

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

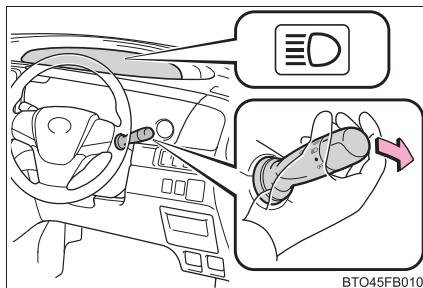
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

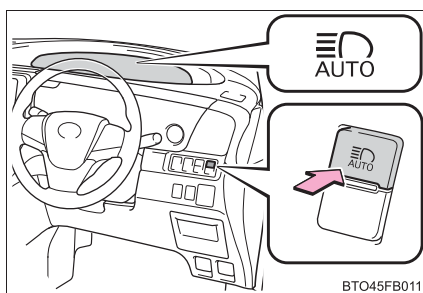
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチをAUTOまたは  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



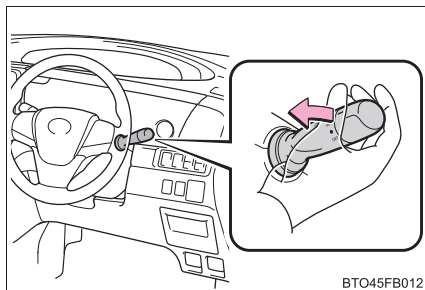
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。



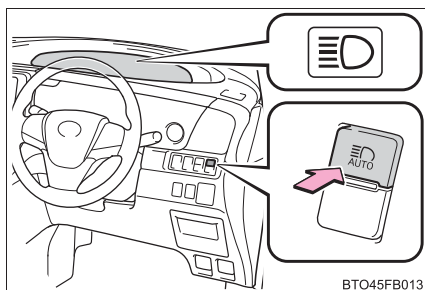
BTO45FB012

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



BTO45FB013

 知識**■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

■ 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

● 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方センサーの検知について

● 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

● ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

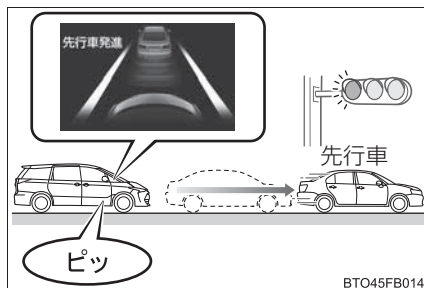
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき

■ 先行車が発進していても先行車発進告知機能が作動しないおそれのある状況

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、先行車発進告知機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ブリクラッシュセーフティシステムが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅しているとき
- ハンドルを大きくきっているとき

■ 先行車が発進していなくても先行車発進告知機能が作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、先行車発進告知機能が先行車が発進したと判断し、作動するおそれがあります。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、他の車両や歩行者などが割りこんだり通過したとき

■ 先行車発進告知機能を ON / OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 75）により、先行車発進告知機能を ON / OFF できます。

■ 先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 75）により、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます

4WD オートモード★

機能概要

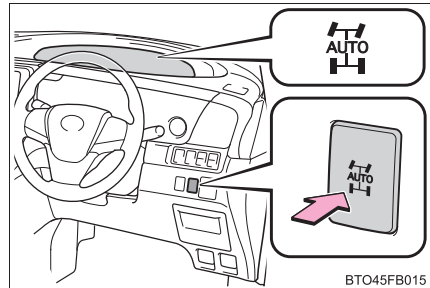
走行の安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（4 輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを使用する

スイッチを押す

メーター内の 4WD オートモード作動表示灯（→P. 66）が数回点滅後点灯し、4WD オートモードになります。

再度押すと表示灯が消灯し、FF モードになります。



知識

■ マルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました」が表示されたときは

システムの過熱防止のために 4WD システムが一時解除し、FF モードに切りかわります。その場合は、4WD システムに負荷がかかる走行を控えて走行してください。またその際、4WD オートモード作動表示灯はスイッチが押されていても点滅し続けます。

しばらくしてマルチインフォメーションディスプレイの表示が消え 4WD オートモード作動表示灯が点灯したら、4WD システムが自動的に復帰します。マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合には、4WD システムを中止し、FF モードに切りかわります。

また、4WD オートモード作動表示灯はスイッチの位置によらず消灯します。

■ 4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

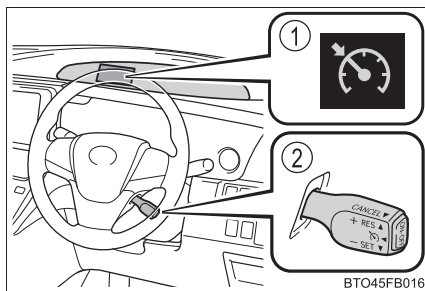
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

- ① クルーズコントロール表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ



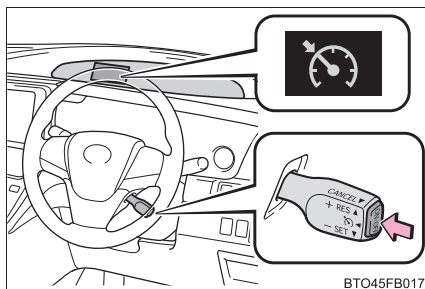
BTO45FB016

速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイ内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

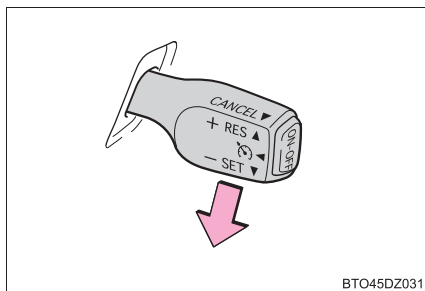
OFF にするには、再度スイッチを押します。



BTO45FB017

- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



BTO45DZ031

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

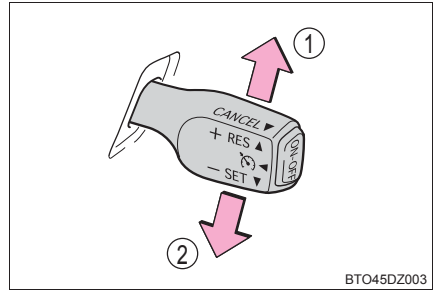
- ① 速度を上げる
- ② 速度を落とす

微調整：

レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：

希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：

レバー操作するごとに約 1.6km/h

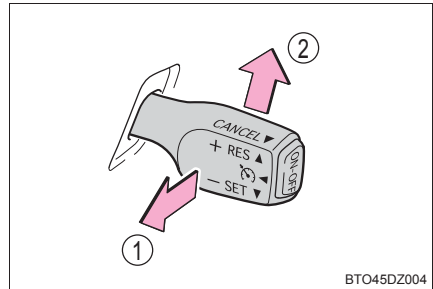
調整：

レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

- ① 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速は約 40km/h ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

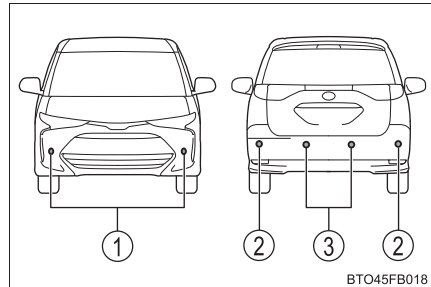
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、ブザー音とメーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ バックセンサー

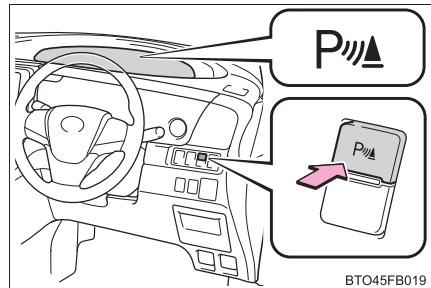


クリアランスソナーの切りかえ

スイッチを押す

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、メーター内のクリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF にするには再びスイッチを押します。

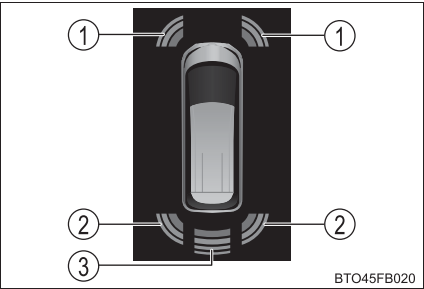


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

障害物を感知すると自動的に表示されます。

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② リヤコーナーセンサー作動表示
- ③ バックセンサー作動表示



距離表示の見方

マルチインフォメーション ディスプレイ	障害物までのおおよその距離	
	フロントコーナー センサー& リヤコーナーセンサー	バックセンサー
	—	約 150cm ～ 60cm
	約 60cm ～ 45cm	約 60cm ～ 45cm
	約 45cm ～ 30cm	約 45cm ～ 35cm
	約 30cm 以下	約 35cm 以下

ブザー音について

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

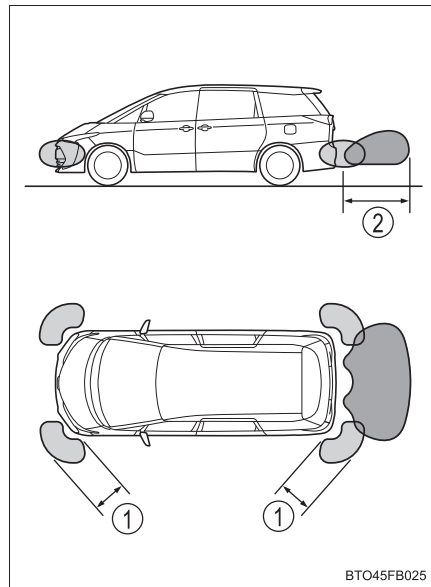
- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーまたは、リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
 ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近付くと、ブザー音は断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」をくり返します。
 また、両方が上記の距離より近付くと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」をくり返します。

障害物を感知できる範囲

- ① 約 60cm (約 0.6m)
- ② 約 150cm (約 1.5m)

感知できる範囲は右図のとおりです。
 ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



BTO45FB025

 知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ メインスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ メインスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部バンパー周辺、後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。極低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物までフロント・リヤコーナーセンサーは約 30cm 以内、バックセンサーは約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けしないでください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示された場合、センサーの状態を確認してください。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレート・ナンバープレートホルダーなどを取り付けたとき
障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 警告**■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- メインスイッチを押してもブザーが鳴らないとき
- 障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 195

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

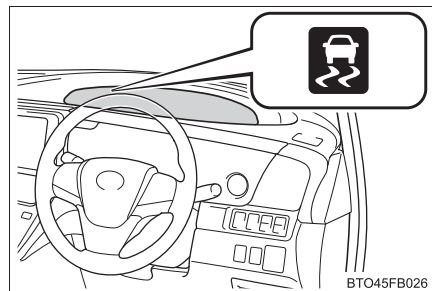
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ アクティブトルクコントロール 4WD★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



4

運転

TRC を停止するには

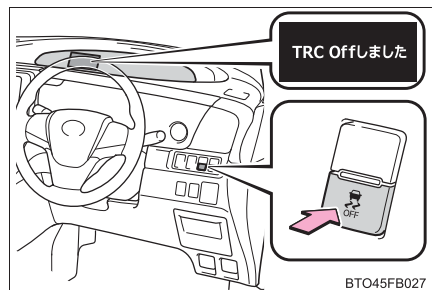
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、シス

テム作動可能状態にもどります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。＊

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

＊ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。(→ P. 199)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC または TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 警告**■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 380）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC・アクティブトルクコントロール 4WD ★など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ アクティブトルクコントロール 4WD ★について

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした 4WD ですので、無理な走行はしないでください。
- すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 292）

※ 18 インチタイヤ装着車はタイヤチェーンを装着することはできません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは約 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 18 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンとデフォッガーの
使い方

フロントエアコン	240
リヤエアコン	250
リヤクーラー	253
シートヒーター	255

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	257
・フロントパーソナルランプ ／フロントルームランプ	258
・リヤルームランプ	258

5-3. 収納装備

収納装備一覧	260
・グローブボックス	261
・小物入れ	261
・カップホルダー	263
・ボトルホルダー	264
・ロングスライド コンソール	265
ラゲージルーム内装備	267
・デッキフック	267
・停止表示板 収納スペース	267
・デッキボード	269

5-4. その他の室内装備の使い方

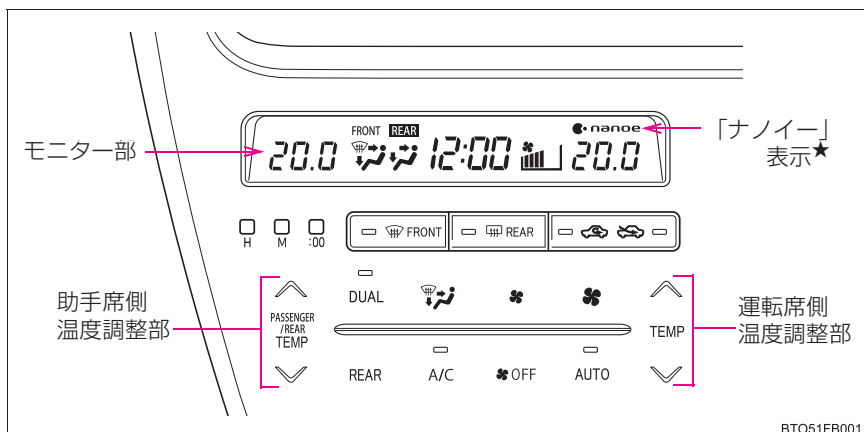
その他の室内装備	270
・サンバイザー	270
・後席確認ミラー	271
・時計	272
・アクセサリーソケット ／アクセサリーコンセント	273
・アームレスト	275
・買い物フック	276
・アシストグリップ	277
・ステアリングスイッチ	278

フロントエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントエアコン操作スイッチについて

エアコン操作パネルのタッチスイッチにタッチすると操作音が鳴ります。



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときはエアコン操作パネルの  の  を、下げるときは  にタッチする



■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：エアコン操作パネルの  にタッチする

風量を減らすには：エアコン操作パネルの  にタッチする

送風を停止するとき、 OFF にタッチします。

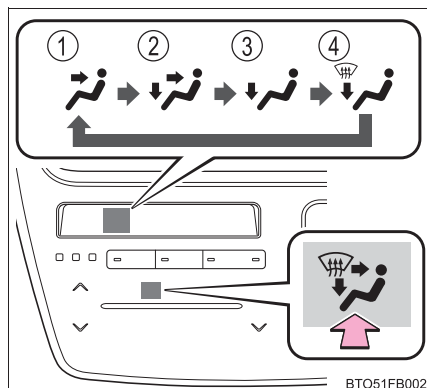
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作パネルの  にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 242)
- フロントウィンドウガラスの曇りを取る (→ P. 243)
- リヤウィンドウガラスの曇りやミラーの霜をとる (→ P. 243)

オート設定で使用する

- 1 エアコン操作パネルの AUTO にタッチする
- 2 温度を設定する (→ P. 240)
- 3 ファンをとめたいときは、エアコン操作パネルの  OFF にタッチする

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、エアコン操作パネルの AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード)

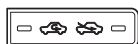
次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの DUAL にタッチする
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりエアコン操作パネルの DUAL の作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押すごとに、内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環： 側が点灯

外気導入： 側が点灯

■ 前席からリヤエアコンを操作するには（リヤエアコン装着車）

エアコン操作パネルの REAR にタッチする

モニター部に「REAR」が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわり、前席からリヤエアコンを操作できます。

スイッチにタッチしてから、約 6 秒間スイッチ操作をしないとモニター部に「FRONT」が表示され、フロントエアコン操作モードに戻ります。

● 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは  の  を、下げるときは  にタッチする

モニター部の助手席側設定温度の表示がリヤエアコンの設定温度の表示に切り替わります。

● 風量をかえるには

風量を増やすには：エアコン操作パネルの  にタッチする

風量を減らすには：エアコン操作パネルの  にタッチする

送風を停止するときは、 OFF にタッチします。

● 吹き出し口を切りかえるには

エアコン操作パネルの  にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。（→ P. 250）

■ 前席からリヤクーラーを ON するには（リヤクーラー装着車）

エアコン操作パネルの REAR にタッチする

REAR の作動表示灯が点灯し、リヤクーラーが ON になります。

再度、REAR にタッチすると REAR の作動表示灯が消灯し、リヤクーラーが OFF になります。

■ フロントウィンドウガラスの曇りをとるには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

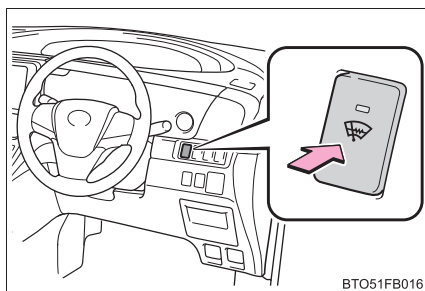
リヤウインドウデフォグターは、約 15 分間で自動的に OFF になります。

■ 熱線式ウインドシールドデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

熱線式ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

熱線式ウインドシールドデアイサーは、約 15 分間で自動的に OFF になります。

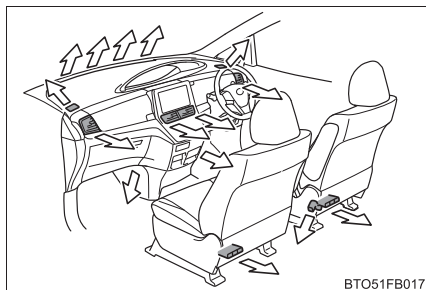


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

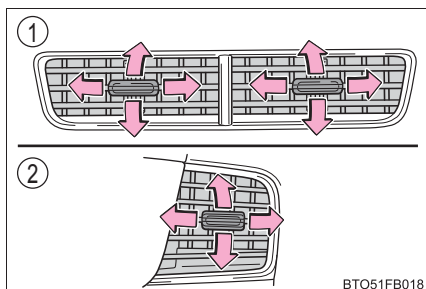


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 中央吹き出し口

② 左右吹き出し口

風向きを外側いっぱい“カチッ”と音がする位置まで調整すると、吹き出し口を閉じることができます。(左右吹き出し口のみ)



 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、エアコン操作パネルの AUTO にタッチした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、エアコン操作パネルの A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- エアコン操作パネルの A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

エアコン操作パネルの A/C にタッチしても除湿機能が動かない場合があります。

■ スイッチの操作音について

タッチスイッチ以外のスイッチ（プッシュスイッチ）の操作音は鳴りません。

■ タッチスイッチの操作についてご留意いただきたいこと

- 指（指の腹）で操作してください。
- エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき、反応しないことがあります。
- ペンなどは反応しません。
- モニター部はタッチ操作できません。
- 操作するときは、他の指などがエアコン操作パネルにふれないようにしてください。
- 連続して操作するときは、確実に指を離してから操作しなおしてください。
- エアコン操作パネルを強く押さないでください。
- エアコン操作パネルに水・異物が付着した場合、反応することがありますので、ふき取ってから操作してください。

■ タッチスイッチの操作が正常に反応しないおそれのある状況

- 手袋などを装着しているとき
- エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき
- エアコン操作パネルが汚れていたり、水などが付着しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- エアコン操作パネルが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- エアコン操作パネルにふれていたり、手を近付けた状態でエンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、エアコン操作パネルが反応しないことがあります。その場合、エアコン操作パネルから手を離し、約 10 秒待ってから再度エアコン操作パネルにタッチしてください。

■ タッチスイッチの操作が反応しにくいときは

エアコン操作パネルが汚れていると、タッチ操作の際に反応しにくい場合があります。タッチパネルは、こまめに清掃してください。

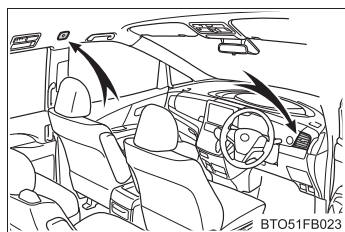
■ エアコン操作パネルを清掃するときは

清掃する際にタッチスイッチが反応することがあります。エンジンスイッチを OFF にしてから清掃してください。

■「ナノイー」※¹について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口・後席「ナノイー」吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※²。

- ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動し、モニター部の「ナノイー」表示が点灯します。
- 「ナノイー」の作動中、吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のときに効果を発揮します。それ以外の条件では、効果が十分に得られない場合があります。
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 「ナノイー」作動中は、運転席外側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。



※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 307

■ エアコン操作パネルのタッチスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

- ① エアコン操作パネルの DUAL と AUTO を約 3 秒間ふれ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「01」～「05」が表示されます。

工場出荷時では、「02」が表示されます。

- ②  を押すごとに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01 → 02 → 03 → 04 → 05

数字が小さいほど反応時間が早く、大きいほど遅くなります。

また、03・04・05 を選択した場合、タッチするスイッチによっては他のスイッチと反応するまでの時間が異なるものもあります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。

設定した内容が取り消しになります。

■ エアコン操作パネルのタッチスイッチの操作音を ON / OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON / OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

- ① エアコン操作パネルの REAR と AUTO を約 3 秒間ふれ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「On」または、「OFF」と表示されます。

工場出荷時では、「On」が表示されます。

- ②  を押すごとに、ON / OFF が切りかわります。

「On」または、「OFF」を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示にもどり、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。

設定した内容が取り消しになります。

■ カスタマイズ機能

エアコン操作パネルのタッチスイッチの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 385)

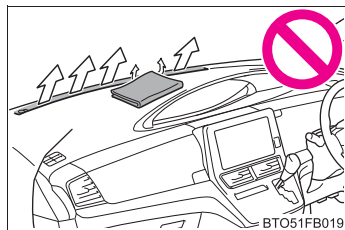
警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター★／熱線式ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意**■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）**

運転席外側吹き出し口または、後席の「ナノイー」吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

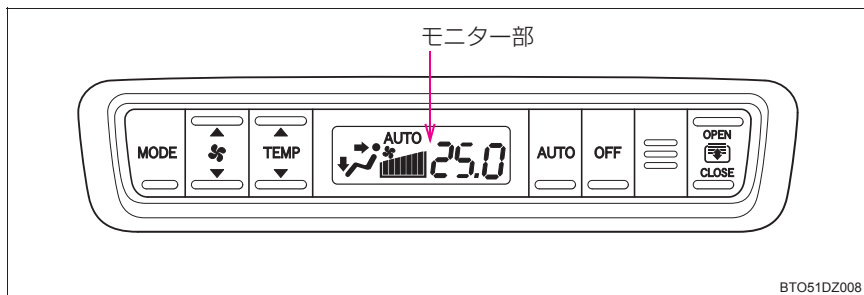
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン（リヤエアコン装着車）

リヤエアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  の ▲ 側を、下げるときは ▼ 側を押す

■ 風量を切りかえる

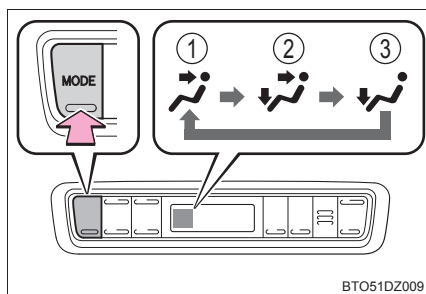
風量を増やすには  の ▲ 側を、減らすには ▼ 側を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風



オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチの  を押す

モニター部に「AUTO」と表示されます。

- 2 温度を設定する

- 3 ファンを止めたいときは、 を押す

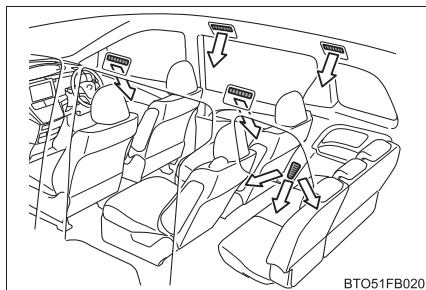
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の「AUTO」が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

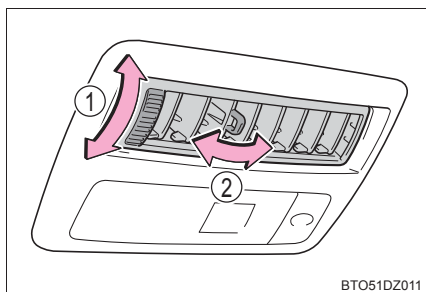


BT051FB020

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

- ① 風向きの調整
② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



BT051DZ011

 知識

■ フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチすることにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。(→ P. 242)

■ リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■ 「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

→ P. 247

■ 換気とエアコンの臭いについて

- リヤエアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ モニター部の照明の切りかえについて

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、車幅灯が点灯・消灯するとモニター部の明るさが切りかわります。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯・消灯しても、モニター部の明るさは切りかわりません。

 警告

■ 「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

→ P. 249

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■ 吹き出し口について

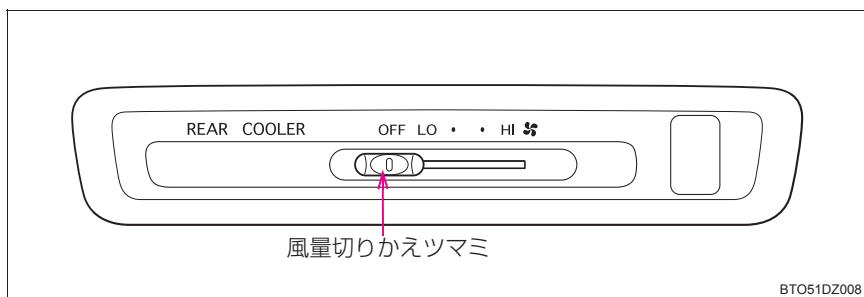
→ P. 249

■ 「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

→ P. 249

リヤクーラー（リヤクーラー装着車）

リヤクーラー操作スイッチについて



■ 風量をかえる

1 フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチする

フロントエアコン操作パネルの REAR の作動表示が点灯し、リヤクーラーが ON になります。

再度、REAR にタッチすると REAR の作動表示灯が消灯し、リヤクーラーが OFF になります。

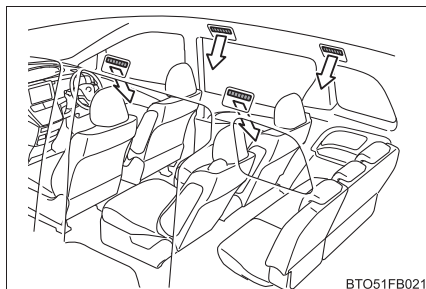
2 リヤクーラー操作スイッチの風量切りかえツマミを右（増）か左（減）へ動かす

フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチする、またはリヤクーラー操作スイッチの風量切りかえツマミを OFF にすることでリヤクーラーの作動を停止できます。

風量は 4 段階に調整できます。

吹き出し口について

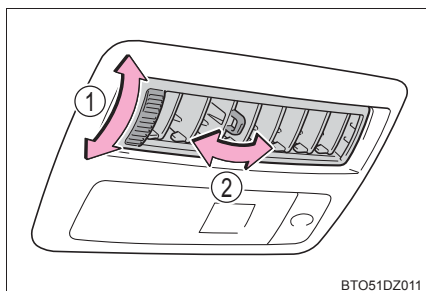
■ 吹き出し口の位置



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

- ① 風向きの調整
- ② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



知識

■ リヤクーラーの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房機能は作動せず、送風のみになります。

■ 換気とリヤクーラーの臭いについて

リヤクーラー使用中に、車室内外のさまざまな臭いがリヤクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

操作のしかた

スイッチを押す

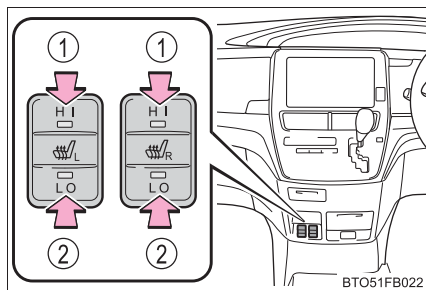
① HI (強)

② LO (弱)

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

R: 運転席側

L: 助手席側



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ HI (強)・LO (弱) について

- HI (強) にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
- LO (弱) にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

⚠ 警告

■ 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

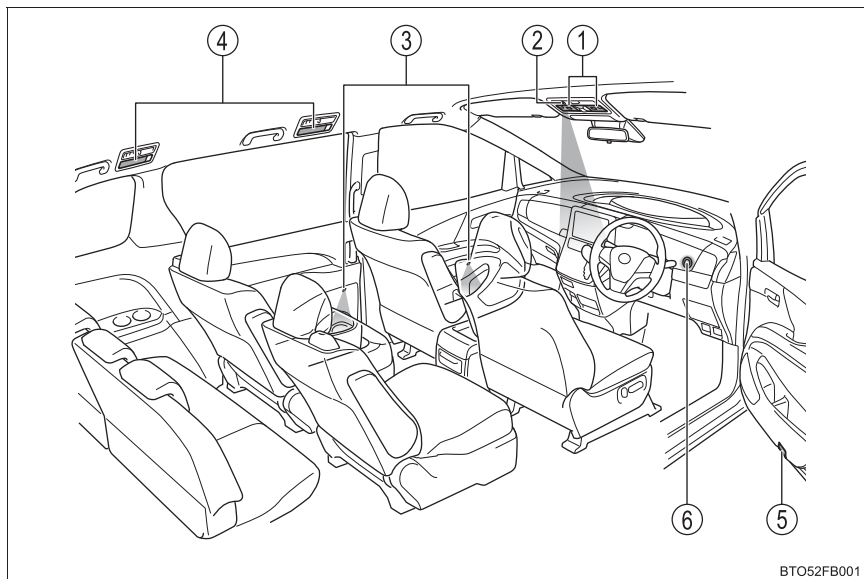
 注意**■ 損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧

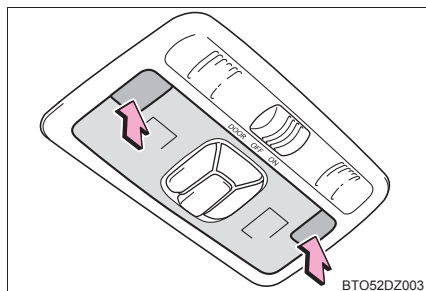


- | | |
|---|----------------------------|
| ① フロントパーソナルランプ
／フロントルームランプ
(→ P. 258) | ④ リヤパーソナルランプ
(→ P. 258) |
| ② フロントフロアまわり照明 | ⑤ フロントドアカーテシランプ★ |
| ③ ドア間接照明★ | ⑥ エンジンスイッチ照明 |

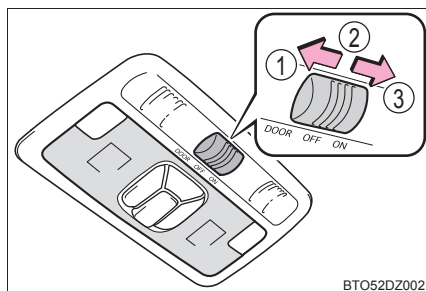
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ**■ フロントパーソナルランプ**

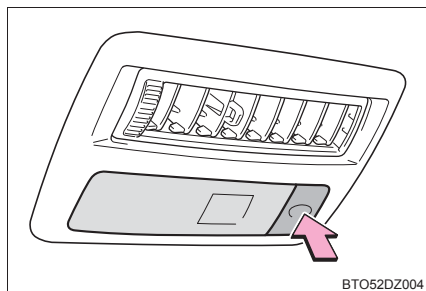
ランプを点灯・消灯する

**■ フロントルームランプ**

- ① ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
- ② ランプを消灯する
- ③ ランプを点灯する

**リヤパーソナルランプ**

ランプを点灯・消灯する



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

フロントルームランプスイッチが「DOOR」にあるとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの状態・シフトレバーの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

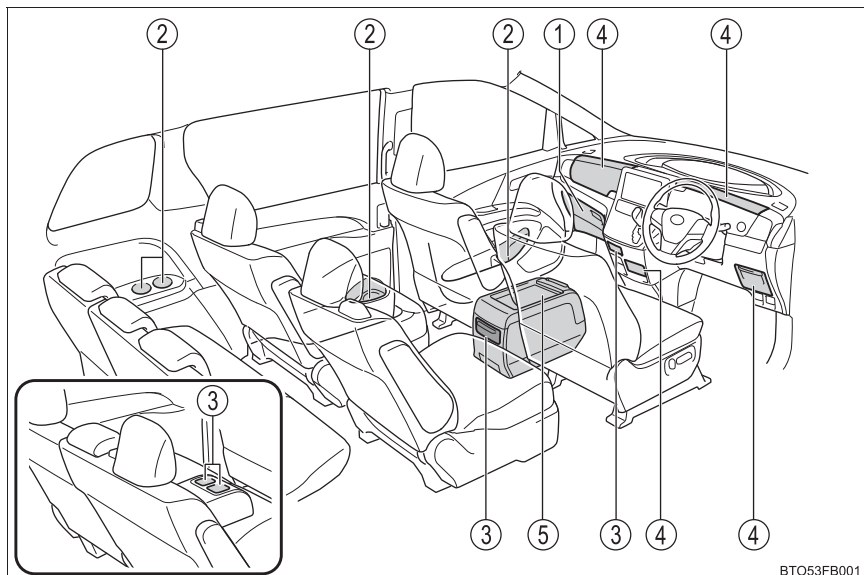
■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 385)

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



BTO53FB001

- ① グローブボックス(→ P. 261) ④ 小物入れ (→ P. 261)
 ② ボトルホルダー (→ P. 264) ⑤ ロングスライドコンソール★
 ③ カップホルダー (→ P. 263) (→ P. 265)

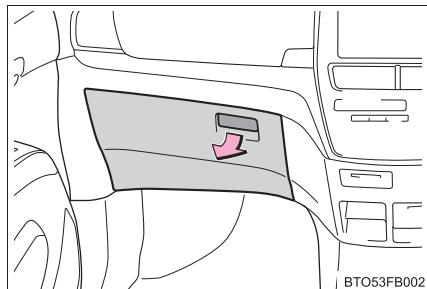
⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

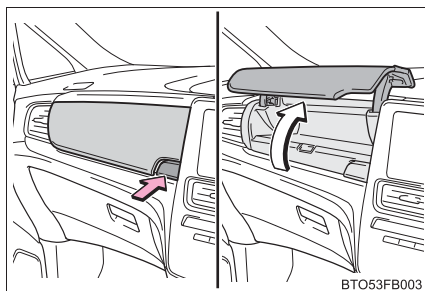
グローブボックス

レバーを引いて開ける



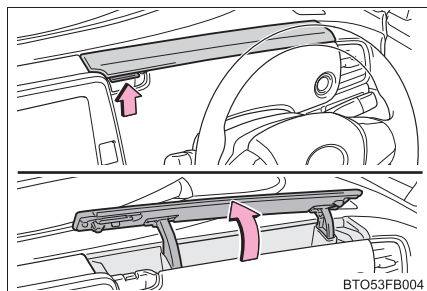
小物入れ

▶ 助手席アッパーボックス



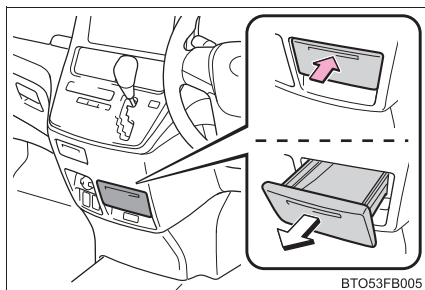
ボタンを押して開ける

▶ 運転席アッパーボックス



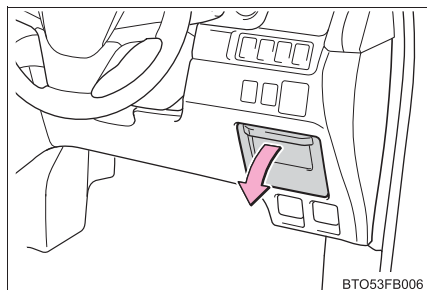
レバーを引いて開ける

▶ コインボックス



コインボックスを押して開ける

▶ 運転席アンダーボックス



ツマミを引いて開ける

 知識

■ 運転席アンダーボックスについて

運転席アンダーボックスの中にカードホルダーがあります。

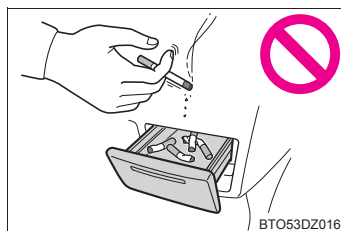
 警告

■ 運転席アッパーボックスについて

走行中にフタの開閉をしないでください。とくにハンドルの中に手を入れてフタを開閉するようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ コインボックスについて

コインボックスは灰皿ではありません。
マッチ・タバコの吸い殻などを入れないでください。

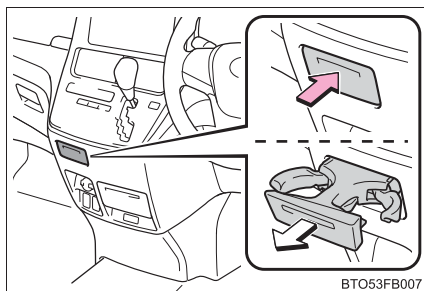
 注意

■ 運転席アンダーボックス内のカードホルダーについて

カードホルダーには、カード以外のものを入れないでください。カードホルダーが破損するおそれがあります。

カップホルダー

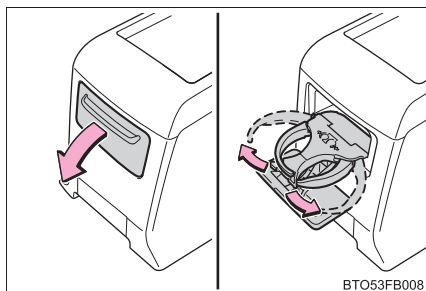
▶ フロント



BTO53FB007

カップホルダーを押して開ける

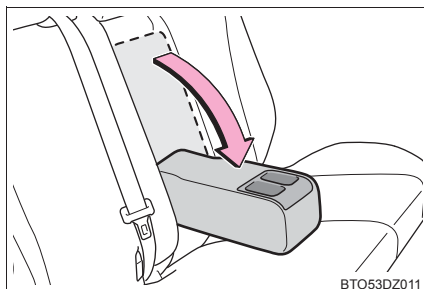
▶ ロングスライドコンソール内 (7人乗り車)



BTO53FB008

ツマミを引いて開ける

▶ セカンドシートアームレスト (8人乗り車)



BTO53DZ011

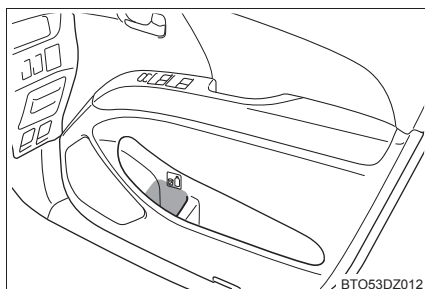
アームレストを倒して使用する

⚠ 警告

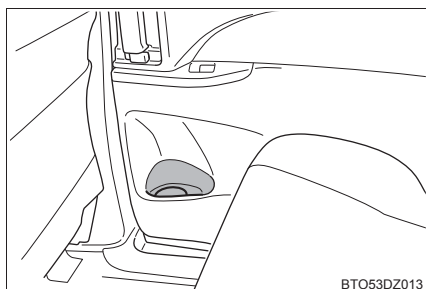
- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

ボトルホルダー

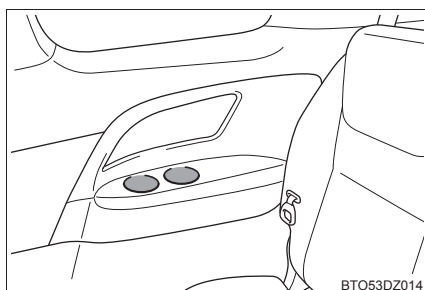
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート



知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

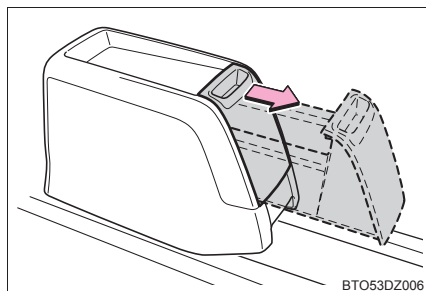
⚠ 注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ロングスライドコンソール（7人乗り車）

■ 小物入れ

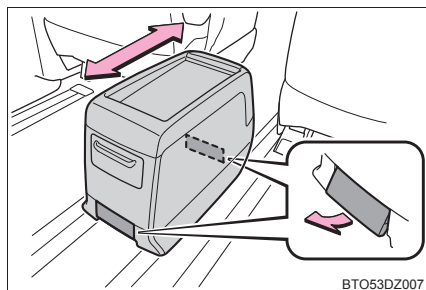
レバーを引いて開ける



■ 前後にスライドする

レバーを引きながら前後にスライドする

スライドさせたあと、ロングスライドコンソールを軽くゆさぶり確実に固定されたことを確認してください。



知識

■ サイドリフトアップシート装着車について

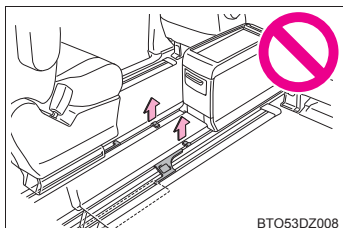
サイドリフトアップシート装着車には、ロングスライドコンソールは装着されません。

警告

走行中はロングスライドコンソールの上部にものを置かないでください。急ブレーキをかけたときなどにものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

- ロングスライドコンソールのスライド操作時に、ロングスライドコンソール内カップホルダーのカップや飲料缶のジュースなどをこぼさないように注意してください。
- セカンドシート前側のストッパーは、取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると、レール部やストッパーなどが破損し、もとに戻せなくなるおそれがあります。



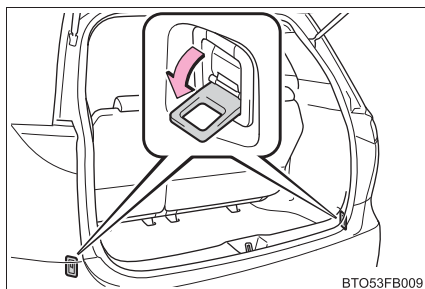
BTO53DZ008

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



BTO53FB009

⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

停止表示板収納スペース

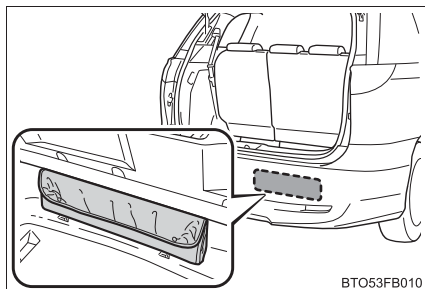
(販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車を除く)

■ 停止表示板※を収納する

※ 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

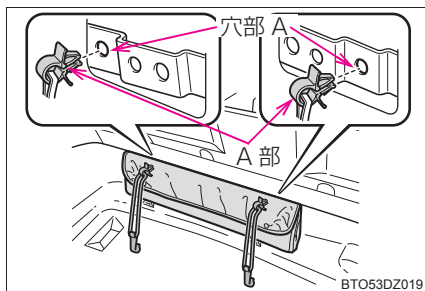
- 1 停止表示板を収納スペースに置く

収納スペースはラゲージルーム内うしろ側のくぼみにあります。

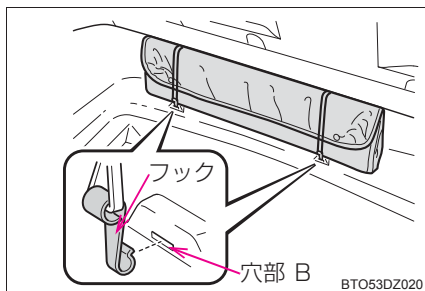


BTO53FB010

- 2** 固定用ストラップの A 部を穴部 A に挿し込む
- ・ 固定用ストラップは工具袋の中に入っています。
 - ・ A 部を挿し込む穴を間違えないように注意してください。



- 3** 固定用ストラップのフックを穴部 B に引っ掛ける



知識

■ 停止表示板の収納について

停止表示板のケースの大きさ、形によっては収納できない場合があります。

■ 固定用ストラップについて

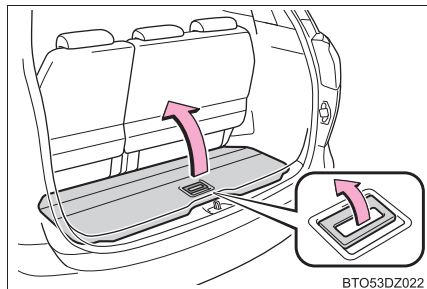
固定用ストラップは工具袋（→ P. 295）の中にあります。また、使用しないときは工具袋にもどしてください。

警告

停止表示板収納スペースに停止表示板を収納したときは、停止表示板が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに停止表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

デッキボード★

デッキボードを取りはずすときは、
レバーを引き持ち上げる

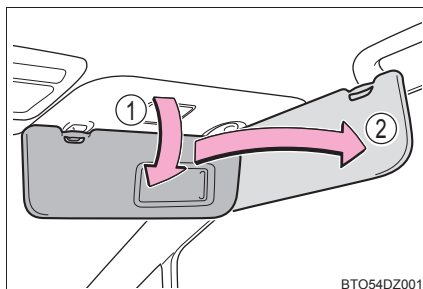


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

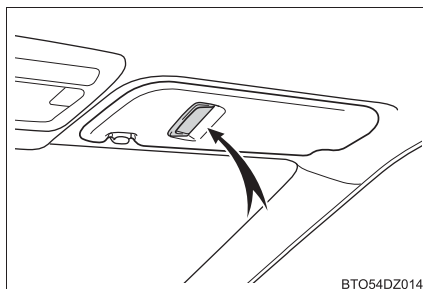
その他の室内装備

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



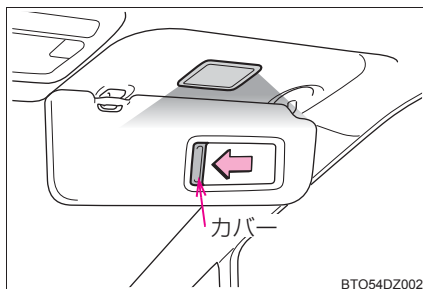
■ チケットホルダー（運転席）



■ バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティランプが点灯します。

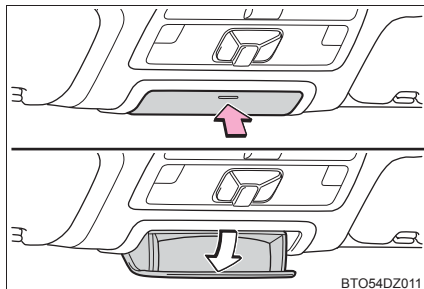


⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

後席確認ミラー

押して開ける

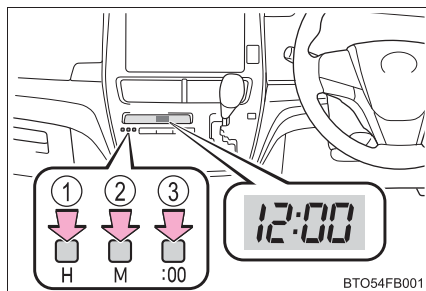
**⚠ 警告**

後席確認ミラーは、走行中に使用しないでください。走行中に使用するとわき見運転となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする※ (: 00)
※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■時刻が表示されるとき

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリソケット／アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリソケット：

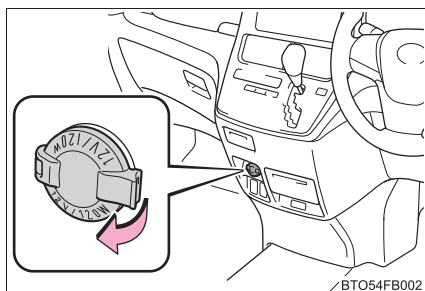
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品

アクセサリコンセント：

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

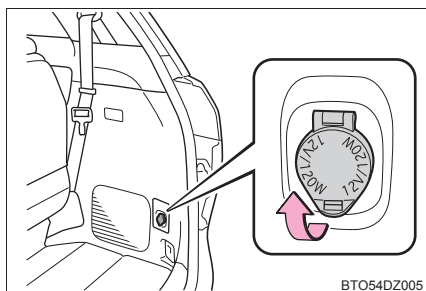
■ アクセサリソケット

▶ インパネ内



フタを開けて使用する

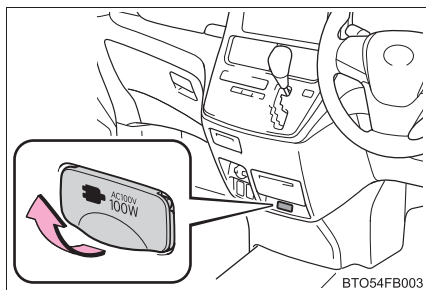
▶ ラゲージルーム内



フタを開けて使用する

■ アクセサリコンセント

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ アクセサリーコンセントについて

- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

- 挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、AC アダプターが脱落するおそれがあります。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

アームレスト

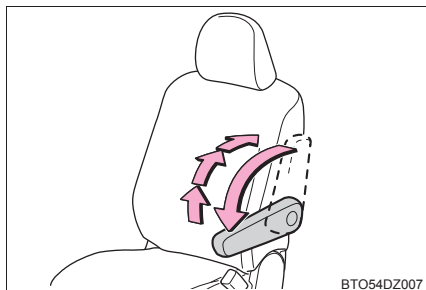
■ フロントシート

アームレストを一度いちばん上まで上げ、その後いちばん下まで下げる。

好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

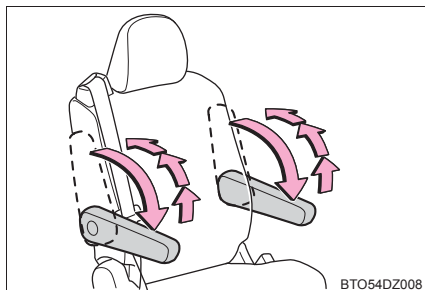
下げたいときは一度いちばん上まで上げてください。



BTO54DZ007

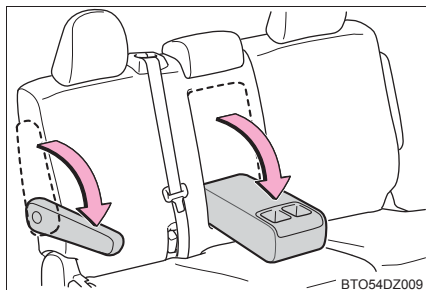
■ セカンドシート

▶ 7人乗り車



BTO54DZ008

▶ 8人乗り車



BTO54DZ009

アームレストを一度いちばん上まで上げ、その後いちばん下まで下げる。

好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

下げたいときは一度いちばん上まで上げてください。

手前に倒して使用します。

⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

買い物フック

運転席シートのうしろにあります。



⚠ 警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

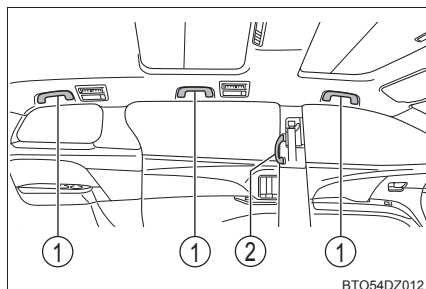
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（回転式）

② アシストグリップ（固定式）



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

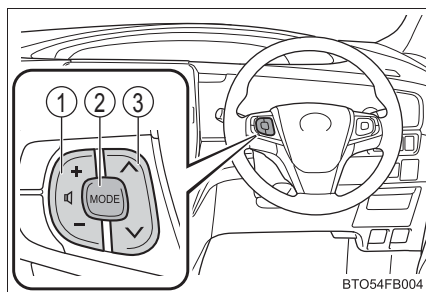
⚠ 注意

損傷を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各説明書をご覧ください。

- ① 音量を調整する
- ② 電源を入れる、モードの切り換え
- ③ CD、ラジオなどの操作



■ 電源を入れる

 を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより “ピッ” と音が鳴ることがあります。

■ モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、 を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

■ 音量を調整する

音量を大きくするには  の “+” 側を、小さくするときには “-” 側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。



警告

運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....280

内装の手入れ.....284

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット287

ガレージジャッキ290

ウォッシャー液の補充291

タイヤについて292

タイヤの交換.....295

タイヤ空気圧について305

エアコンフィルターの交換 ...307

電子キーの電池交換310

ヒューズの点検・交換312

電球（バルブ）の交換315

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から 5 ～ 8 年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ 自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワースライドドアを停止する（→ P. 90）
 - ・ パワーバックドア★を停止する（→ P. 102）

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ アルミホイール★

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 150）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 3 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 4 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

撥水剤が付着した場合、すみやかに水を含ませたスポンジに重曹をつけてふき取ってください。ふき終わったあと、重曹は十分に水で洗い流してください。重曹が残っていると、乾燥したあとに鏡面が白くなり取れなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 高圧洗浄機を使用するときは**

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 注意**■ 大型ムーンルーフの清掃（大型ムーンルーフ装着車）**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、大型ムーンルーフの表面を損傷するおそれがあります。

- 洗車前には、あらかじめ大型ムーンルーフ表面についたほこりや、泥・砂などの異物を水で取り除いておく
- 硬いブラシやたわし、先のとがったものなどは使用せず、やわらかい布・スポンジなどを使って清掃する
- 汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ガラスコート・カーワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類・研磨剤の入ったものは使用しない
洗車後は、洗剤が残らないように水を十分にかけて洗い流してください。
- 鉄粉が付着したときは、乾いた布でこすらず、水を流しながら軽くふきとるようにして取り除く

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートの合成皮革部分（白色）★について

水ぶきで取れない汚れが付いた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス★について

● ドアガラス、バックドアガラス、クォーターガラス、大型ムーンルーフ★のガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

● ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 警告

■ 車両への水の浸入

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P. 32）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ バックドアガラスやクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線・アンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

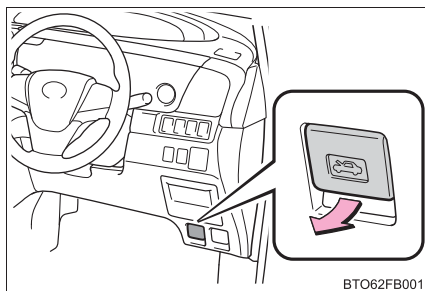
■ スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラス、バックドアガラス、クォーターガラス、大型ムーンルーフ★のガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

ボンネット

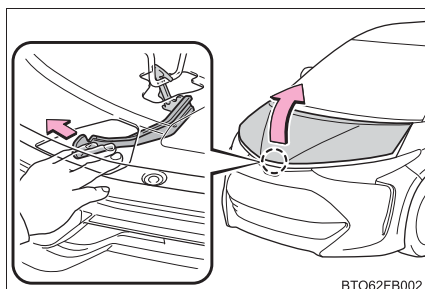
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

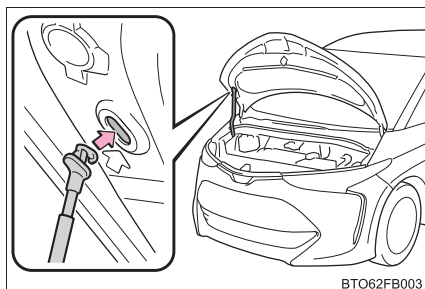


- 2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

手のひらを下にして、ボンネットとグリルのあいだに指を入れると下側にレバーがあります。



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



■ 閉め方

- 1 ボンネットステーをはずす
- 2 ボンネットを約 20 ～ 25cm の位置から静かに落として閉める
- 3 ロックされていることを確認する

 知識

■ 半ドア警告表示★

→ P. 87

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

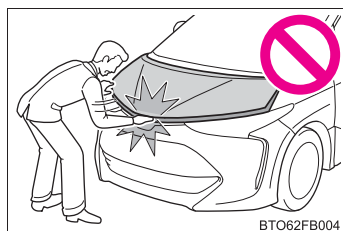
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ ボンネットの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

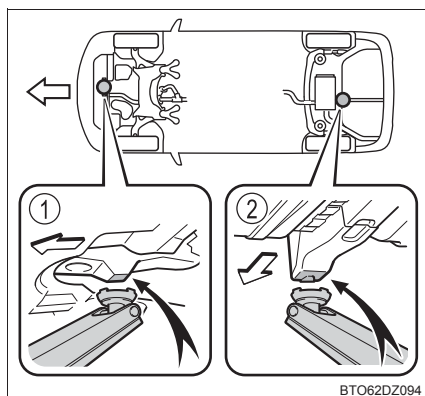
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

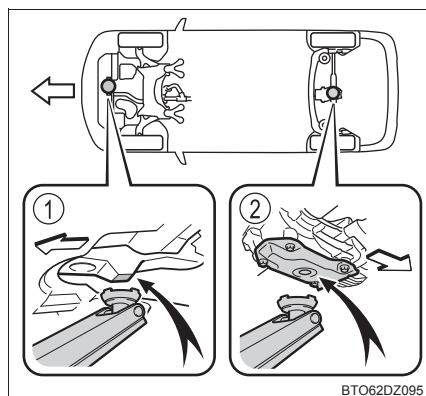
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

▶ FF 車



① フロント側

▶ 4WD 車

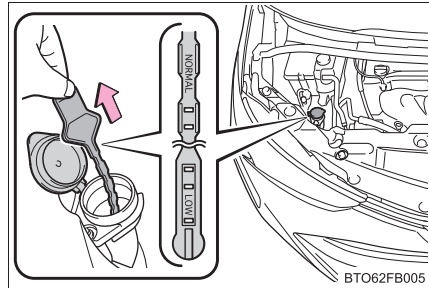


② リヤ側

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。

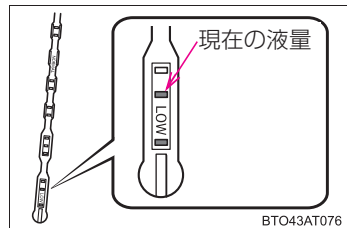


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴より下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

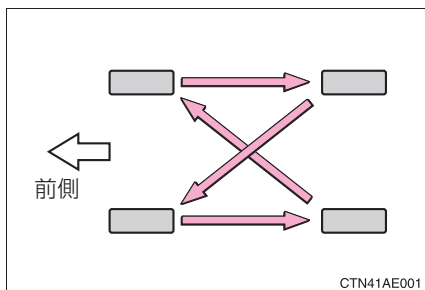
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

■ タイヤ空気圧の数値

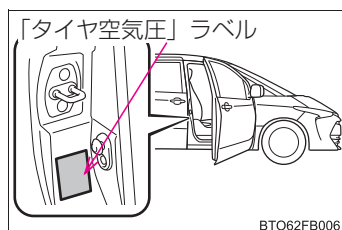
タイヤサイズ	ホイール サイズ	空気圧※ ¹ kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
215 / 60R16 95H	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)	
215 / 55R17 93V	17 × 7 J		
215 / 60R17 96H			
225 / 50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	

スペアタイヤ※² : 420kPa (4.2kg/cm²) ※¹

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※¹ タイヤが冷えているときの空気圧

※² 販売店装着オプション



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

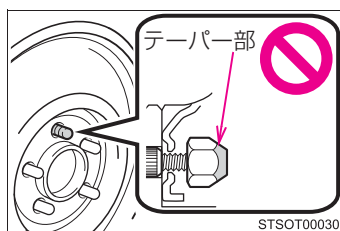
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

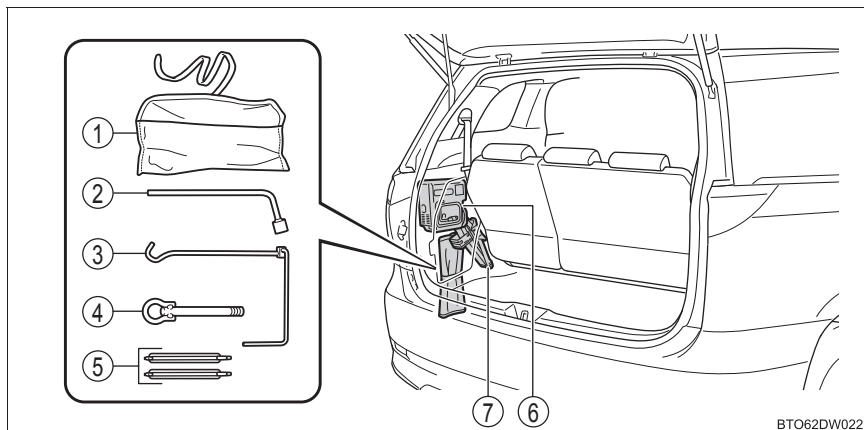
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 331)
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする (→ P. 90)

■ 工具とジャッキの位置



- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| ① 工具袋 | ⑤ 停止表示板固定用ストラップ
(→ P. 268) |
| ② ホイールナットレンチ | ⑥ タイヤパンク応急修理キット
(→ P. 351) |
| ③ ジャッキハンドル | ⑦ ジャッキ |
| ④ けん引フック (→ P. 337) | |

BTO62DW022

 警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

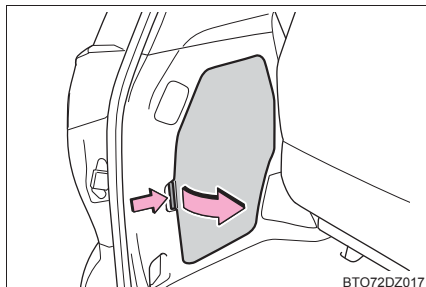
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使
用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に
使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけ
てから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1** ラゲージルーム左側のカバーをはずす

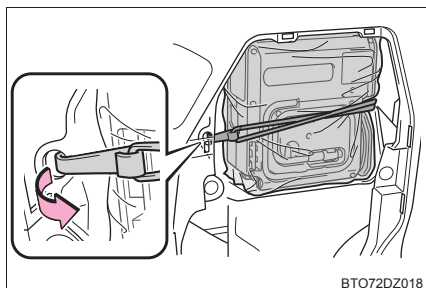
ツマミを押しながら、カバーを手前に引いてはずします。



BTO72DZ017

- 2** タイヤパンク応急修理キットを取り出す

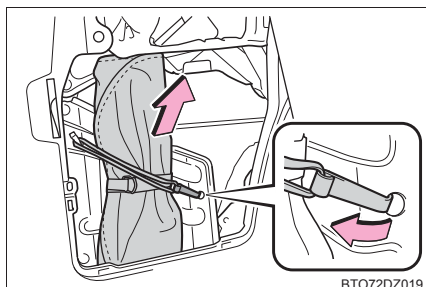
フックをはずして、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



BTO72DZ018

- 3** 工具袋を取り出す

フックをはずして、工具袋を取り出します。



BTO72DZ019

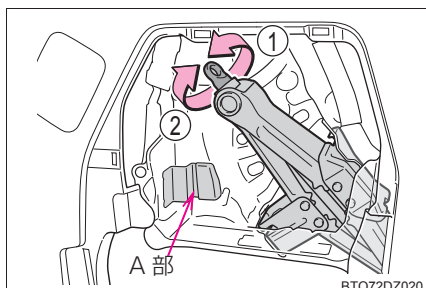
- 4** ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

- ・ A部で指などをけがしないように注意してください。

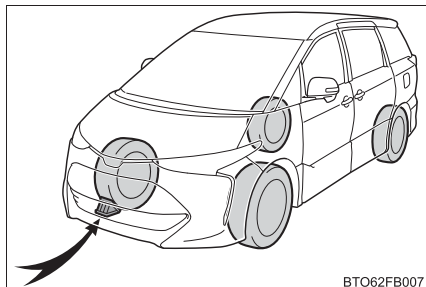


BTO72DZ020

タイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

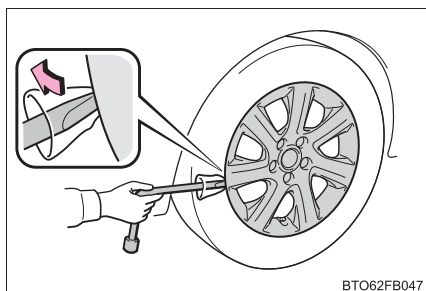


BTO62FB007

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

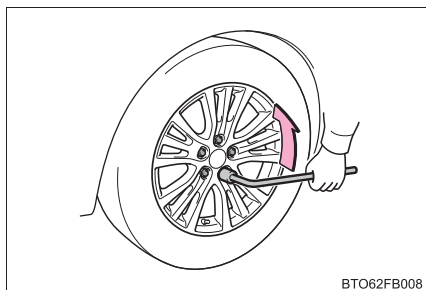
2 フルホイールキャップをはずす (スチールホイールのみ)

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



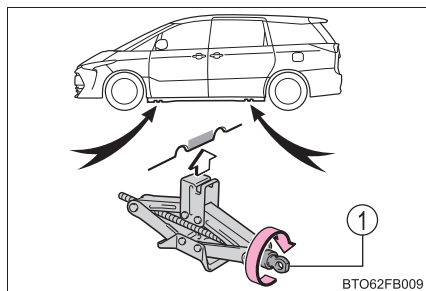
BTO62FB047

3 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる

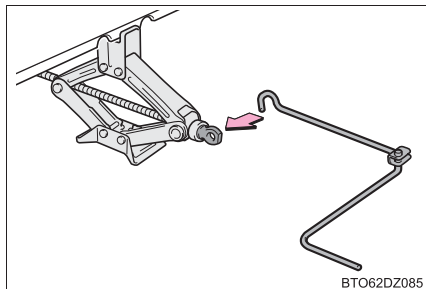


BTO62FB008

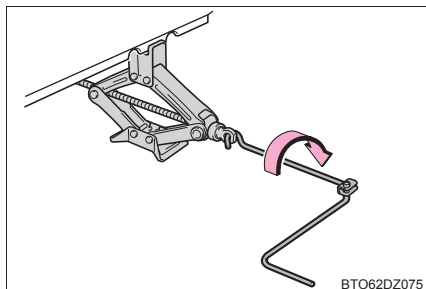
- 4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



- 5 ジャッキにジャッキハンドルを組み付ける

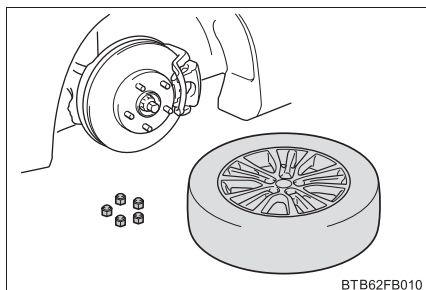


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



 警告**■ タイヤ交換について**

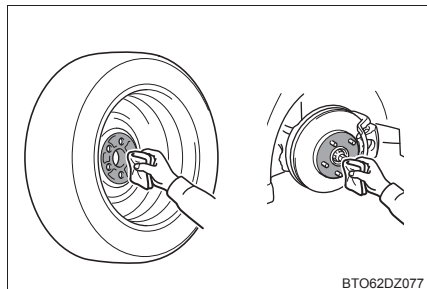
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 294)
- タイヤ交換をする際は、パワースライドドアメインスイッチ (→ P. 90) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ・パワーバックドアスイッチ★を操作したときにスライドドア・バックドア★が動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



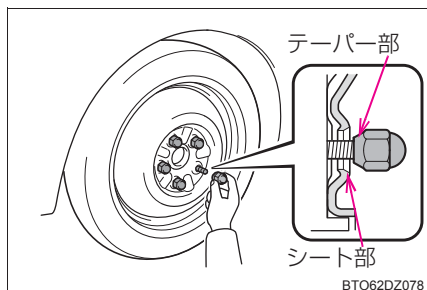
BTO62DZ077

- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

フルホイールキャップ装着車のスチールホイールからフルホイールキャップ装着車のスチールホイールまたは、スペアタイヤ※にかえるとき：

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

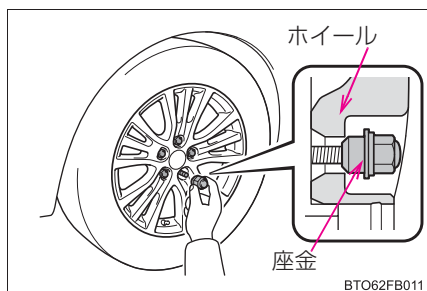
※ 販売店装着オプション



BTO62DZ078

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

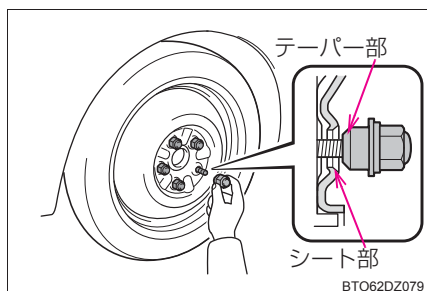


BTO62FB011

アルミホイールからスペアタイヤ※にかえるとき：

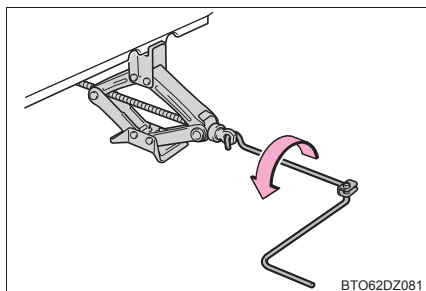
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

※ 販売店装着オプション



BTO62DZ079

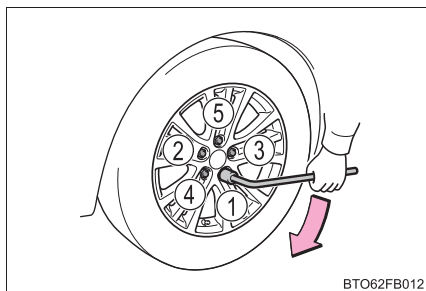
3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)

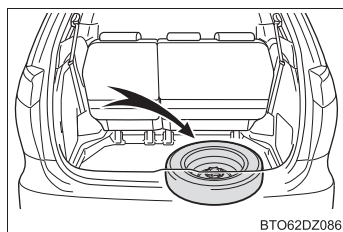


5 すべての工具・ジャッキを収納する

知識

■ スペアタイヤについて（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- 販売店装着オプションのスペアタイヤがラゲージルームに格納されています。取りはずし方については、付属の取り扱い説明書をご覧ください。



- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 380）

■ スペアタイヤを装着しているとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

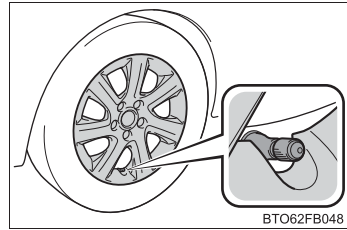
■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- 1 後輪をスペアタイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ホイールキャップを取り付けるときは（スチールホイール装着車）※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。

※ スチールホイールのみ（スペアタイヤに取り付けることはできません。）



⚠ 警告

■スペアタイヤを使用するとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■スペアタイヤを装着しているとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動なくなるおそれがあります。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ・ ABS | ・ S-VSC |
| ・ ブレーキアシスト | ・ PCS（プリクラッシュセーフティシステム） |
| ・ クルーズコントロール | ・ LDA（レーンディパーチャーアラート） |
| ・ ヒルスタートアシストコントロール | ・ オートマチックハイビーム |
| ・ クリアランスソナー★ | ・ EPS |
| ・ TRC | |
| ・ VSC | |

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ アクティブトルクコントロール 4WD システム★

■スペアタイヤ使用時の速度制限（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

スペアタイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

スペアタイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ タイヤチェーンの装着について（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）**

スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 380)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

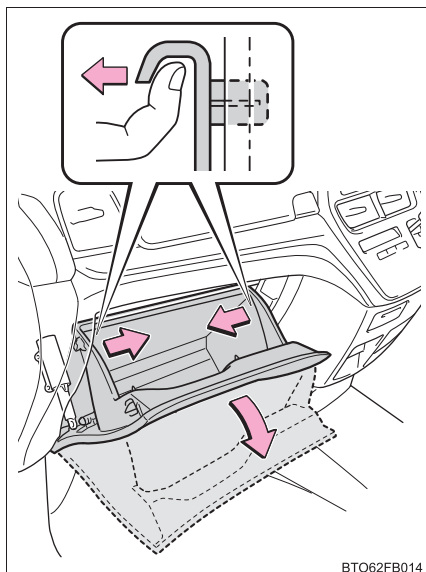
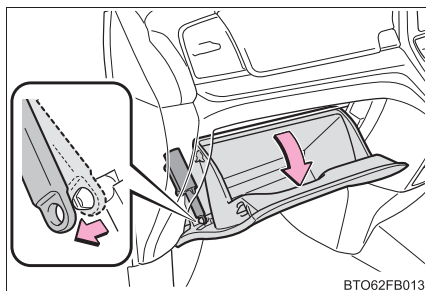
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

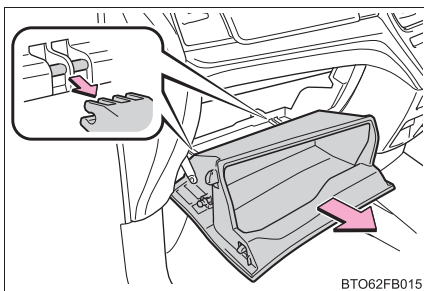
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

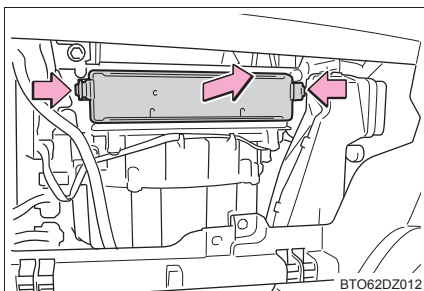
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーasteのピンをはずす
- 3 グローブボックス側面を内側に引いて上部のツメを片側ずつはずす



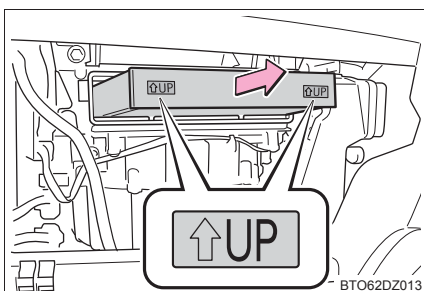
- 4 下部のツメを下方へ引きながら
はらずしてグローブボックスを
取りはずす



- 5 フィルターケースの固定を解除
し取りはずす



- 6 フィルターを取りはずし、新しい
フィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くよう
に取り付けます。



- 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km ※¹] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※²

※¹ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※² 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

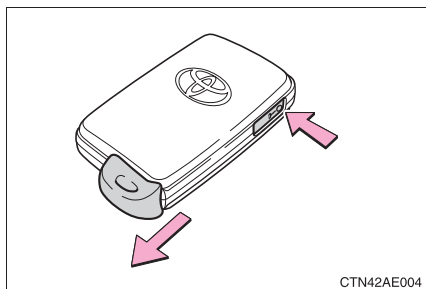
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

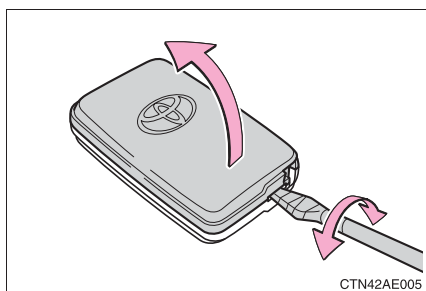
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

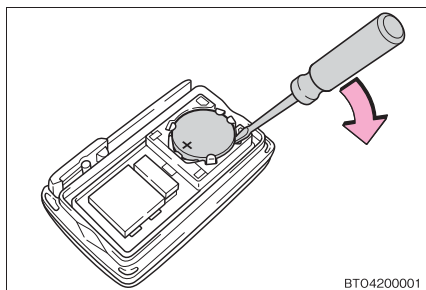
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

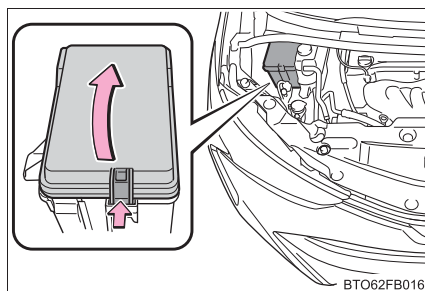
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

❶ エンジンスイッチを OFF にする

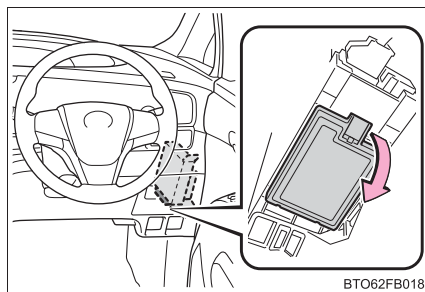
❷ ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)



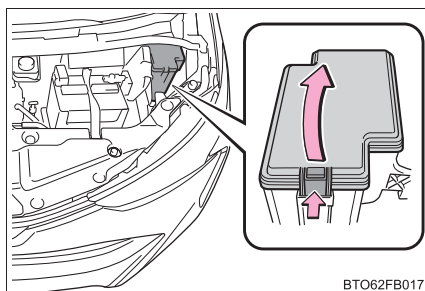
ツメを押しながら、カバーを取りはずす

▶ 運転席足元



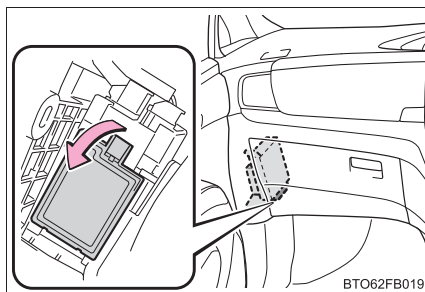
ヒューズボックスのカバーを取りはずす

▶ エンジンルーム (2)



ツメを押しながら、カバーを取りはずす

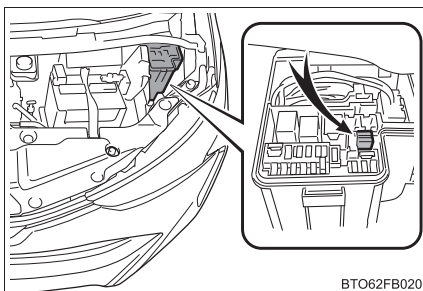
▶ 助手席足元



ヒューズボックスのカバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



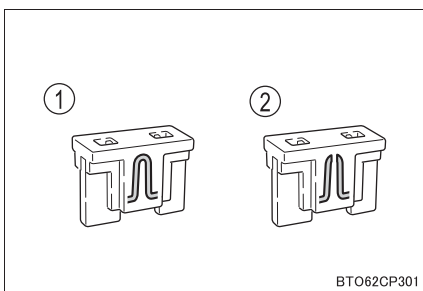
BTO62FB020

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

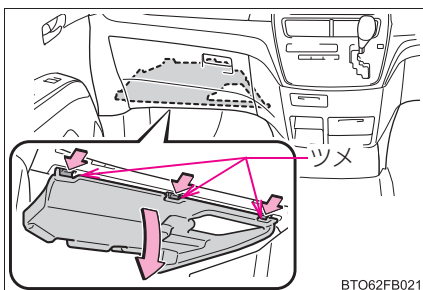
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



BTO62CP301

■ 助手席足元ヒューズカバーを取りはずすときは

ツメを押しながらカバーを取りはずす



BTO62FB021

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 315)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

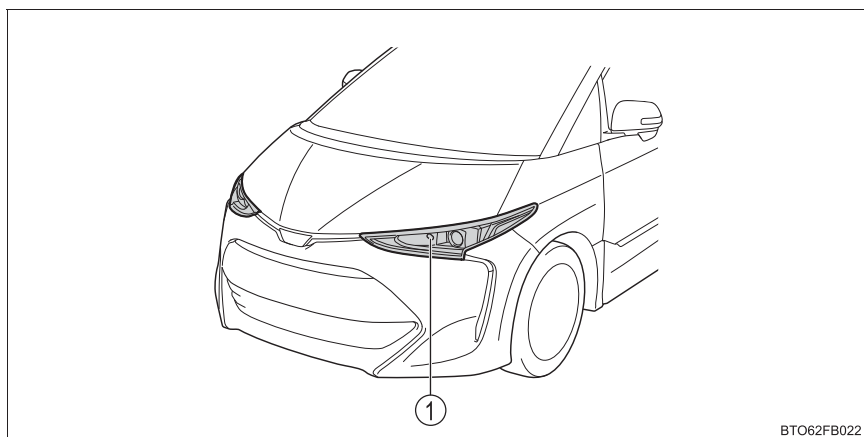
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 380）

バルブ位置

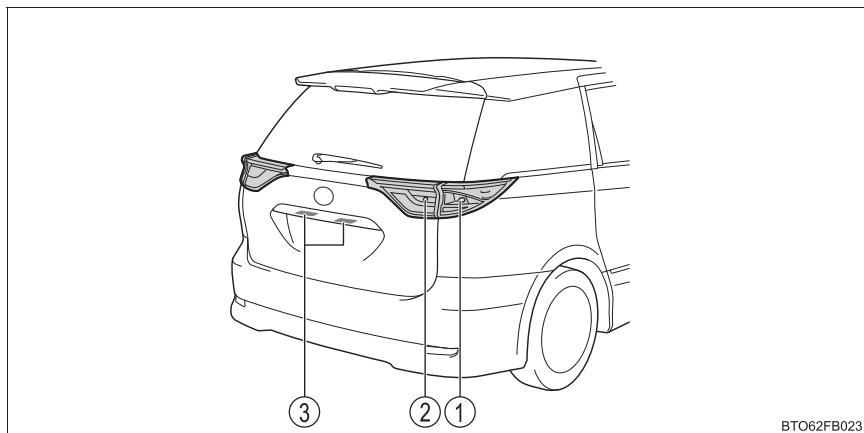
■ フロント



BTO62FB022

- ① フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

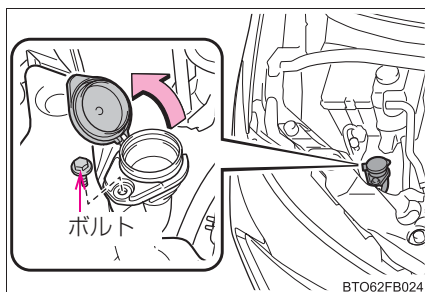


- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

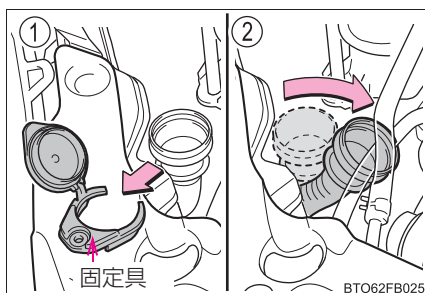
運転席側のフロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するときの手順で説明しています。助手席側のフロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するときは、手順 **3** から手順 **5** のみを行います。

- 1** ボンネットを開けて、ウォッシャー液注入口のフタを開け、固定具のボルトを取りはずす

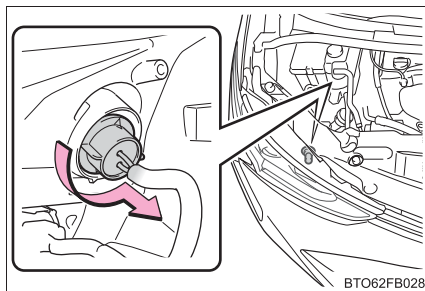


- 2** ウォッシャー液注入口をずらす

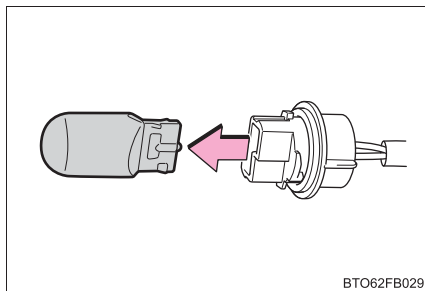
- ① 固定具を引き抜きます。
② ウォッシャー液注入口をずらします。



- 3** ソケットを左にまわして取りはずす

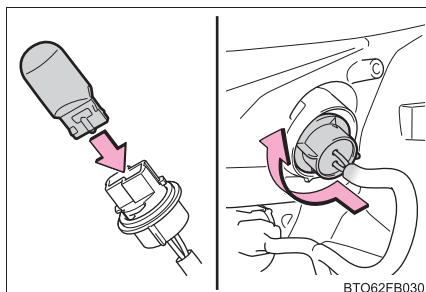


- 4** ソケットから電球を抜き取る



- 5** 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

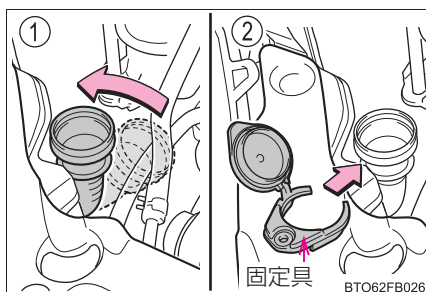
取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロント方向指示灯／非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



BTO62FB030

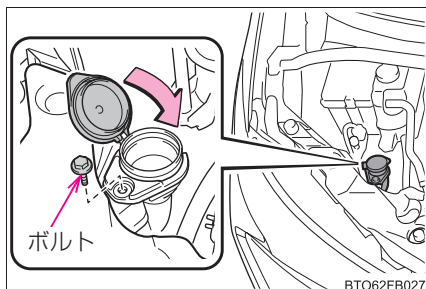
- 6** ウォッシャー液注入口をもどす

- ① ウォッシャー液注入口をもどします。
- ② 固定具を挿し込みます。



BTO62FB026

- 7** 固定具をボルトで固定し、ウォッシャー液注入口のフタを閉める

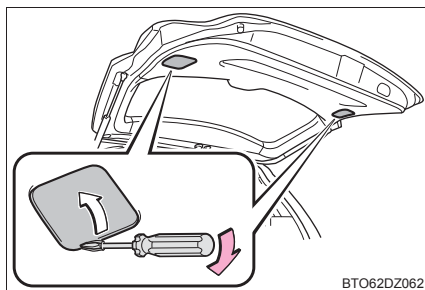


BTO62FB027

■ 後退灯

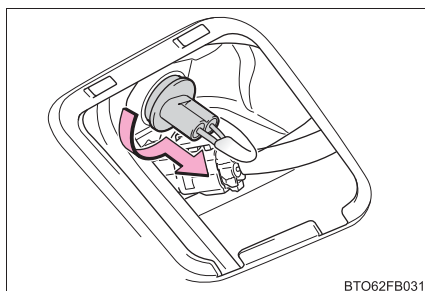
- 1 バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んで取りはずす

傷付き防止のため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。



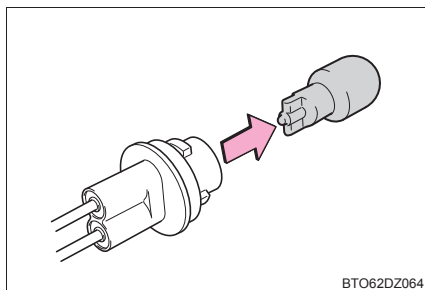
BTO62DZ062

- 2 ソケットを左にまわして取りはずす



BTO62FB031

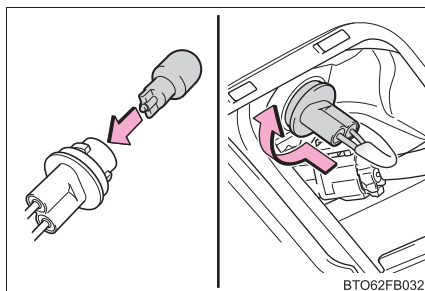
- 3 ソケットから電球を抜き取る



BTO62DZ064

- 4 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん後退灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

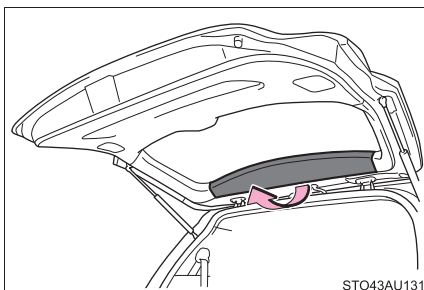


BTO62FB032

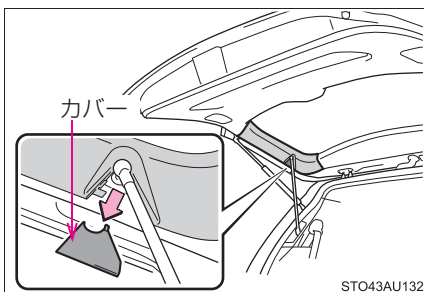
- 5 バックドアのカバーをもとにもどし、バックドアを閉じる

■ 番号灯

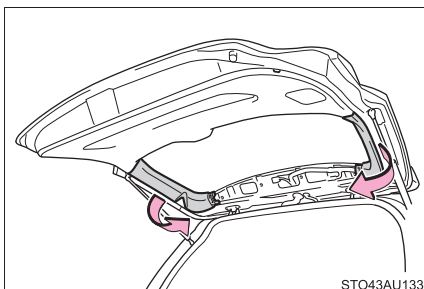
- 1 バックドアを開け、バックドアガラス上側の内張りを取りはずす



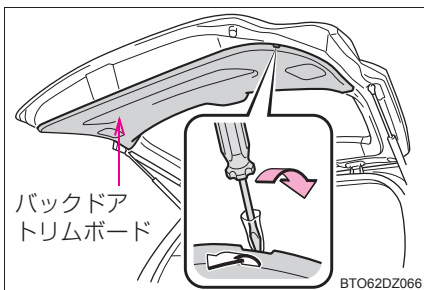
- 2 パワーバックドア装着車は、右図のカバーを取りはずす



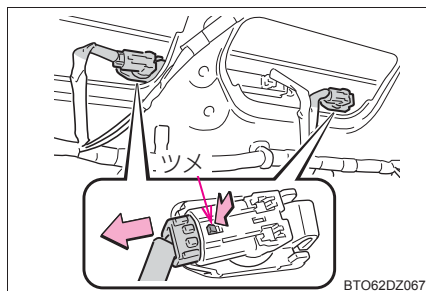
- 3 バックドアガラス両側の内張りを取りはずす



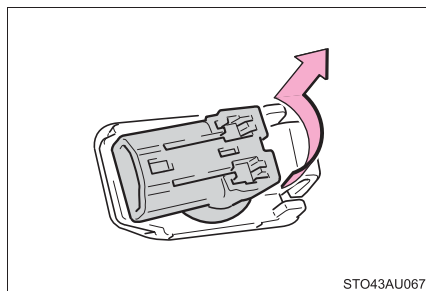
- 4 バックドアトリムボードの切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んで取りはずす
傷付き防止のため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。



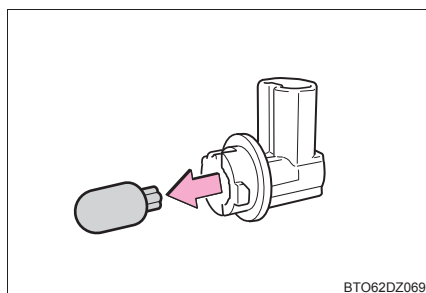
- 5 ツメを押してコネクターを取りはずす



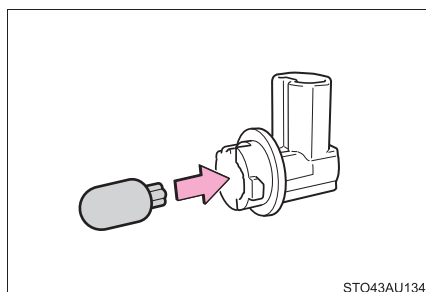
- 6 ソケットを左にまわして取りはずす



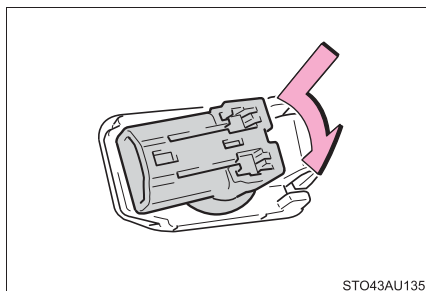
- 7 ソケットから電球を抜き取る



- 8 新しい電球をソケットに取り付ける



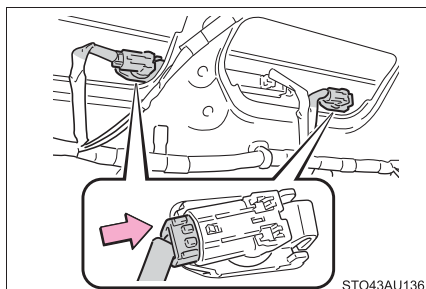
- 9 ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける



STO43AU135

- 10 コネクターを取り付ける

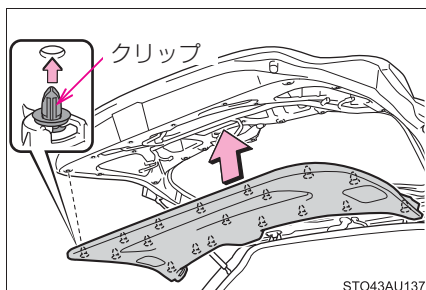
取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん番号灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



STO43AU136

- 11 バックドアトリムボードを取り付ける

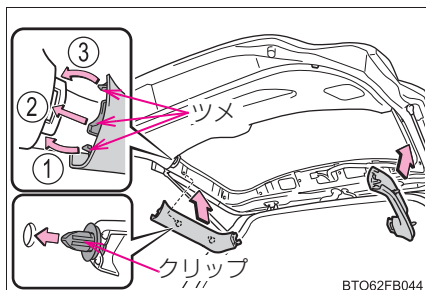
クリップの位置に注意して、バックドアトリムボード全体を押して取り付けます。



STO43AU137

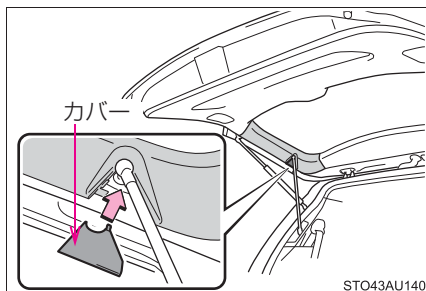
- 12 バックドアガラス両側の内張りを取り付ける

ツメを①、②、③の順で挿し込みながら、クリップの位置に注意して、バックドアガラス両側の内張り全体を押して取り付けます。



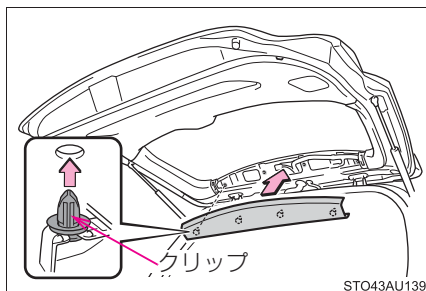
BTO62FB044

- 13 パワーバックドア装着車は、右図のカバーを取り付ける



- 14 バックドアガラス上側の内張りを取り付ける

クリップの位置に注意して、バックドアガラス上側の内張り全体を押して取り付けます。



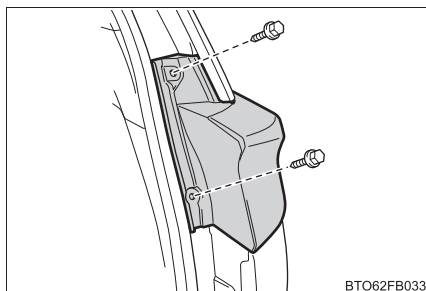
 注意

バックドアの内張りを取りはずすときは、内張りを固定しているクリップの破損や紛失に注意してください。

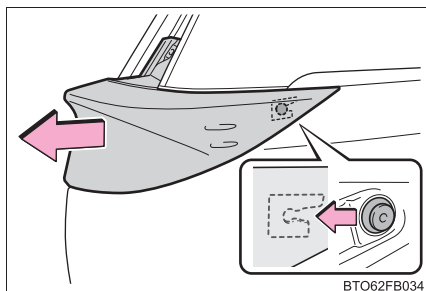
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯※

※ リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換には、トヨタ販売店で部品（ガスケット）の購入が必要となります。交換作業が難しいと感じられる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

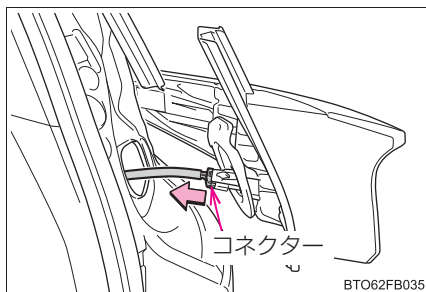
- 1 バックドアを開け、スクリュー（2本）を取りはずす



- 2 ランプ本体を車両後方に向かって引く



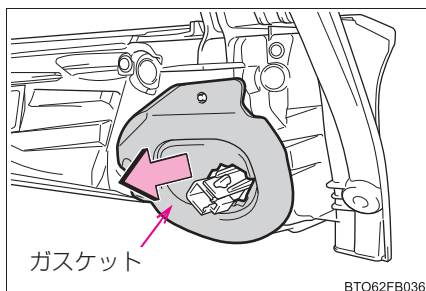
- 3 コネクターを取りはずす



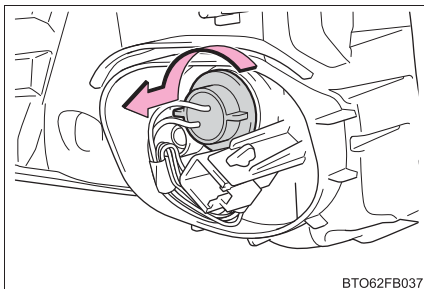
- 4 ガスケットをはがす

確実にもとの状態に戻せるようにガスケットをはがす前には、ガスケットの貼り付け位置をよく確認しておいてください。

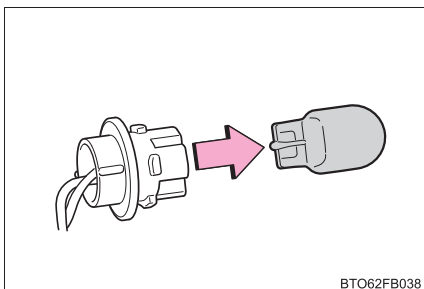
また、ボデー側に残ったガスケットはすべてはがしてください。



- 5 ソケットを左にまわして取りはずす



- 6 ソケットから電球を抜き取る

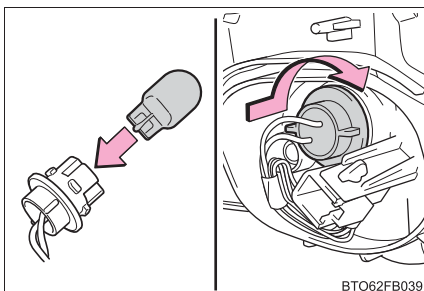


- 7 ソケットに新しい電球を取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん手順

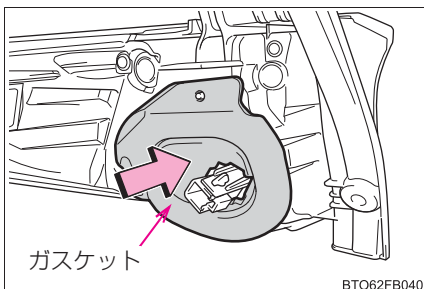
3 で取りはずしたコネクターを取り付けリヤ方向指示灯／非常点滅灯を点灯させて、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

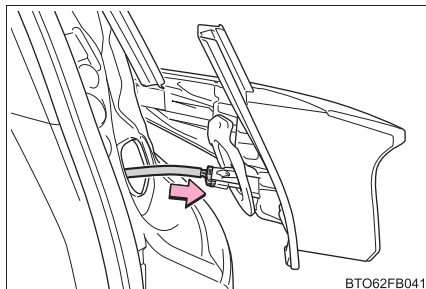
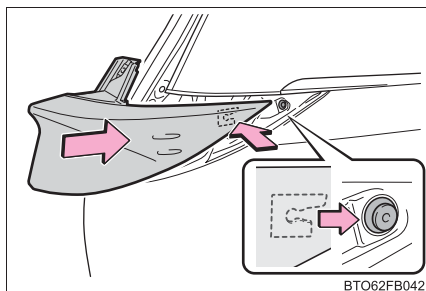
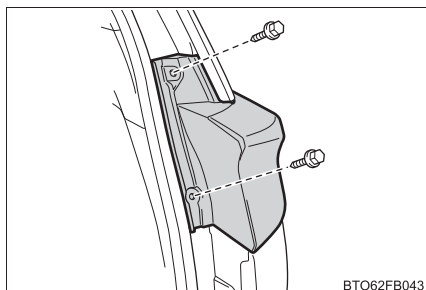
光がもれていないことが目視確認できたら、再度手順 3 のコネクターを取りはずしてください。



- 8 新品のガスケットを貼り付ける

手順 4 で確認した貼り付け位置に確実に取り付けてください。



9 コネクターを取り付ける**10** ランプ本体側と車両側のツメの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押す**11** スクリュー (2 本) で固定する

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯
- LED デイライト／薄暮灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯／制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ LED ランプについて

ヘッドランプ（前照灯）、車幅灯、LED デイライト／薄暮灯、サイド方向指示灯／非常点滅灯、尾灯／制動灯、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 314

 警告**■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

 注意**■リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換について**

リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換には、新品のガスケットが必要となります。ガスケットをはがす時は、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度はがしたガスケットは絶対に再使用しないでください。
- ガスケットを貼り付けるときは、リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換手順 4で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	330
非常点滅灯 （ハザードランプ）	331
発炎筒	332
車両を緊急停止するには	334

7-2. 緊急時の対処法

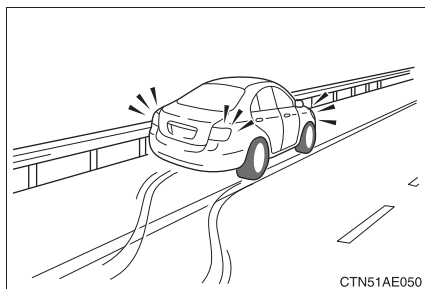
けん引について	335
警告灯がついたときは	341
警告メッセージが 表示されたときは	345
パンクしたときは	349
エンジンが 始動できないときは	362
電子キーが正常に 働かないときは	364
バッテリーが あがったときは	366
オーバーヒートしたときは ...	370
スタックしたときは	373

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

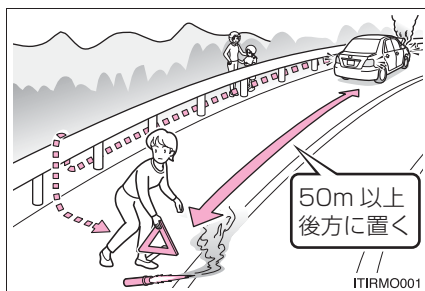
非常点滅灯（→P. 331）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

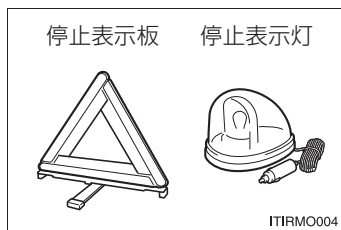
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 332）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

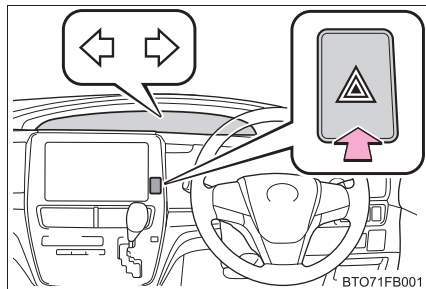


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

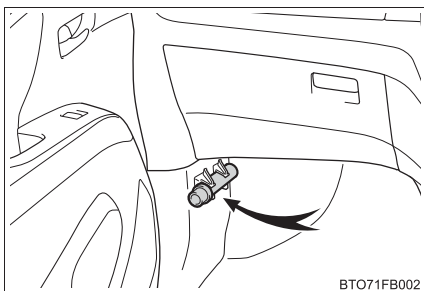
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

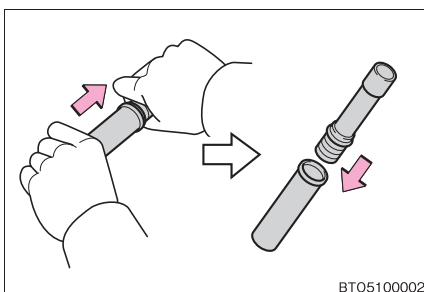
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

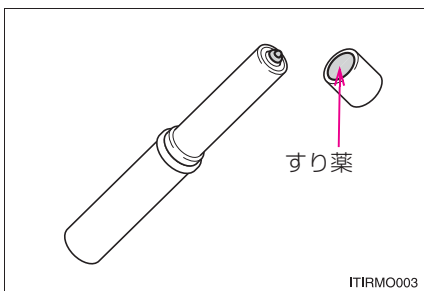
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

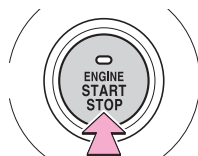
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTY52AD216

- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

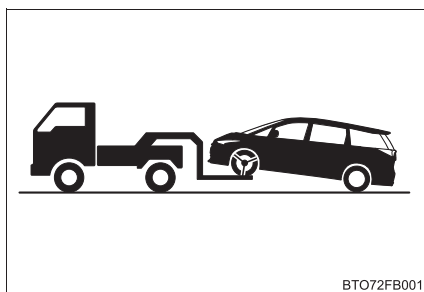
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

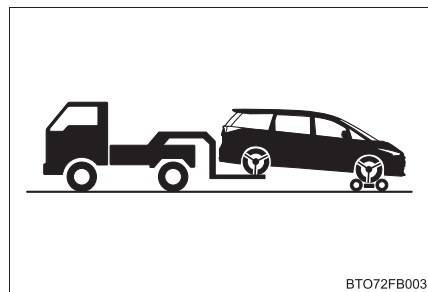
- ▶ 前向きにけん引するときは
(FF 車)



BT072FB001

パーキングブレーキを解除する

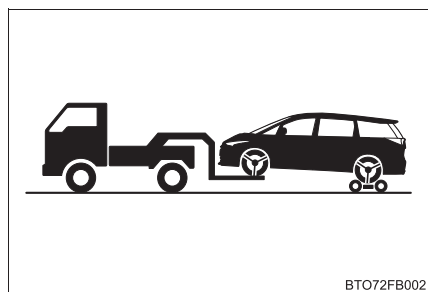
- ▶ うしろ向きにけん引するときは



BT072FB003

台車を使用して前輪を持ち上げる

- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)

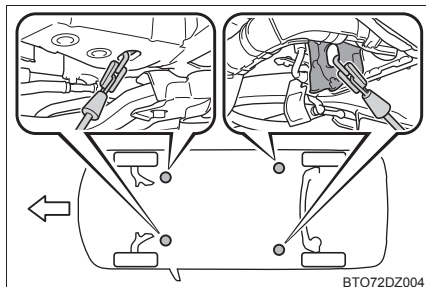


BT072FB002

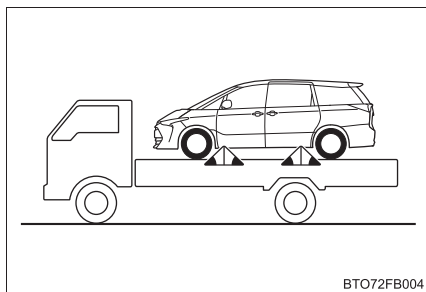
台車を使用して後輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するときは

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が45°になるように固縛する

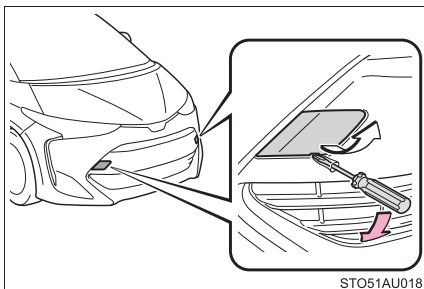


他車にけん引してもらおうとき

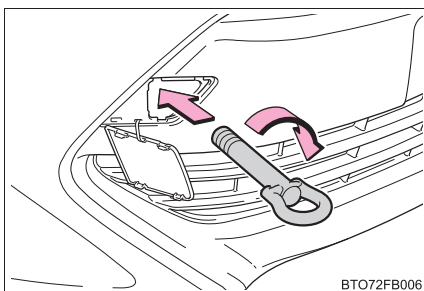
- 1 けん引フックを取り出す (→ P. 295)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

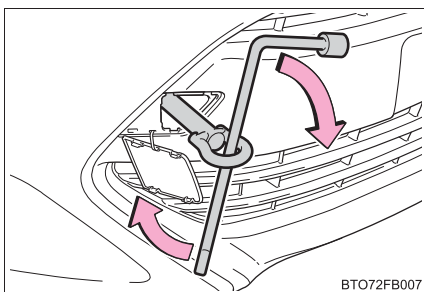
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付け



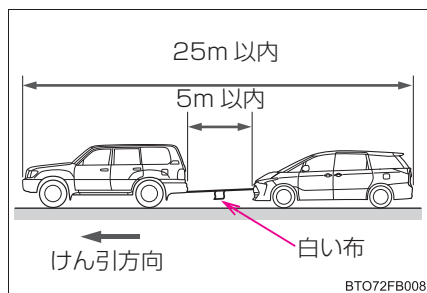
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 176

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

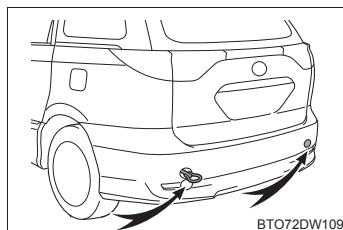
■ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。(→ P. 295)

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときを使用することができます。

- ・フックの取り付け穴は、リヤバンパーの左右どちらでも使用することができます。



⚠ 警告

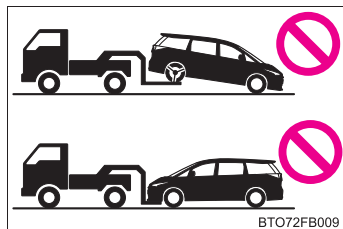
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けん引されるとき

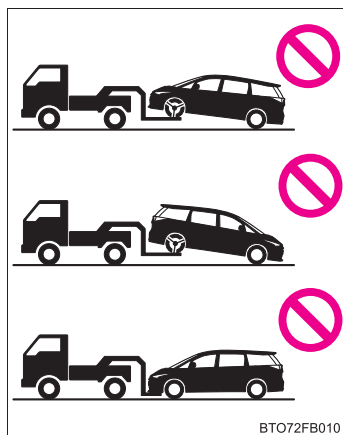
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

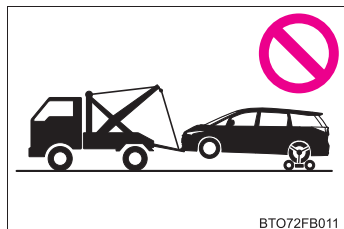
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・ EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一 時停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周辺のプロントウインドウガラスに汚れ（く もり、結露、凍結などを含む）や付着物がある →汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 193） ・ 前方センサー温度が作動範囲外 →センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたは プリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF に なっています。 →VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能に なります。（→ P. 198, 231）
	※ 2 高水温警告灯 エンジン冷却水の高温異常 →ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危 険です。対処方法（→ P. 370）
	※ 2 充電警告灯 ・ 充電システムの異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してくだ さい。走行を続けると危険です。
	※ 2 油圧警告灯（警告ブザー※ 3） ・ エンジンオイルの圧力異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してくだ さい。走行を続けると危険です。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9.7L 以下になった → 燃料を補給する
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーショ ンディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 346

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・ VSC 異常 ・ TRC 異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※⁴） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

- ※¹ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
 パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示されます。
- ※² マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。
- ※³ 油圧警告ブザー：
 警告灯が点灯している状態で、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※⁴ シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。

ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

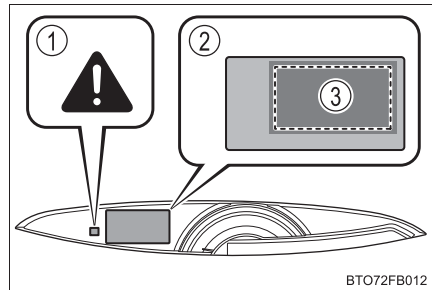
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- 「ブリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されている：
PCS（ブリクラッシュセーフティシステム）警告灯が点滅します。（→ P. 207）
- 「VSC が Off のためブリクラッシュブレーキも停止します」が表示されている：
PCS（ブリクラッシュセーフティシステム）警告灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。（→ P. 207）

■ 「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」（→ P. 370）
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・「充電システム故障 取扱書を確認してください」
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
 - ・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

■ LDA の車線逸脱警報について

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 作動条件以外の車速で走行しているとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 212）

- 「前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- オートマチックハイビーム
- 先行車発進告知機能

- シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

- 警告ブザーについて

→ P. 344

パンクしたときは

エスティマは、工場出荷時の状態ではスペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

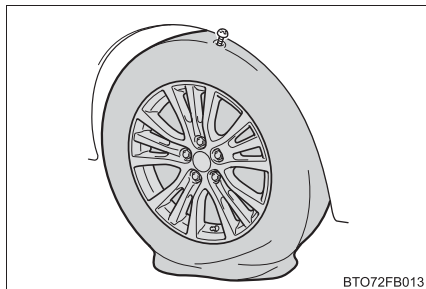
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



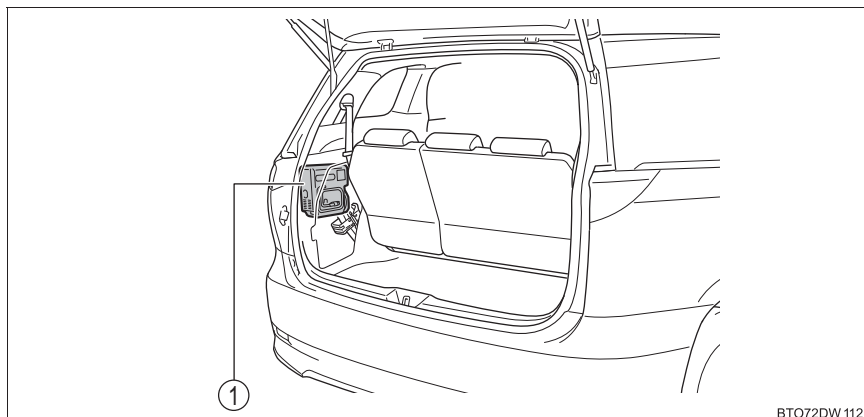
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

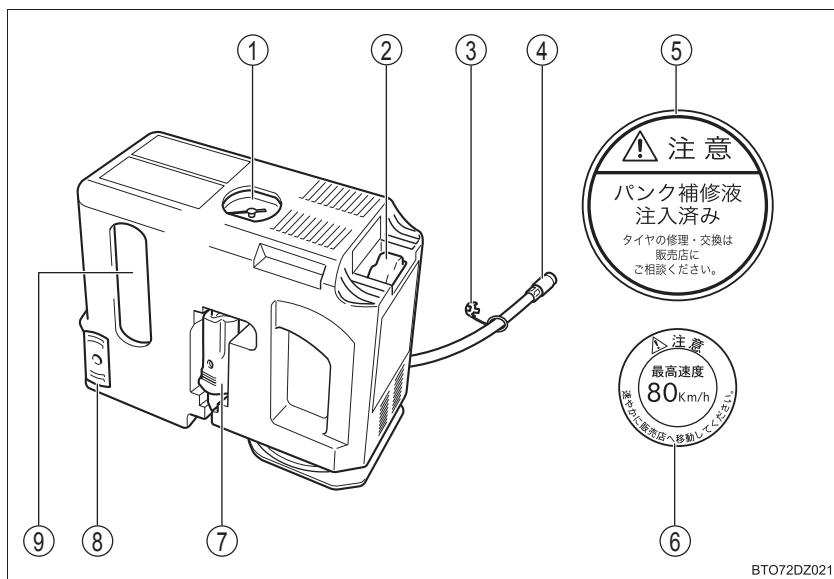
タイヤパンク応急修理キットの搭載位置



BTO72DW112

- ① タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



BTO72DZ021

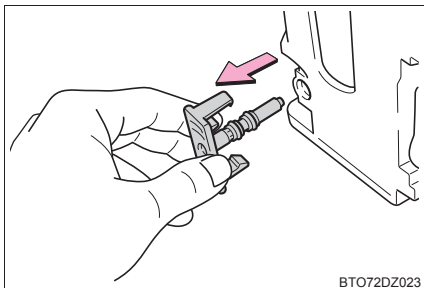
- | | |
|-----------------|-------------|
| ① 空気圧計 | ⑥ 速度制限ラベル |
| ② 電源スイッチ | ⑦ 電源プラグ |
| ③ 空気逃がしキャップ | ⑧ 挿し込みパーツ |
| ④ ホース | ⑨ パンク修理液ボトル |
| ⑤ パンク補修液注入済みラベル | |

応急修理キットの取り出し方

- 1 ラゲージルーム左側のカバーをはずす (→ P. 297)
- 2 応急修理キットを取り出す (→ P. 297)

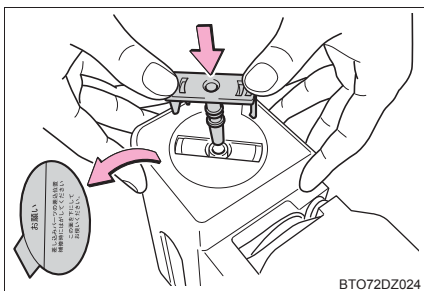
応急修理するとき

- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す。
- 2 応急修理キットから挿し込みパーツを引き抜く



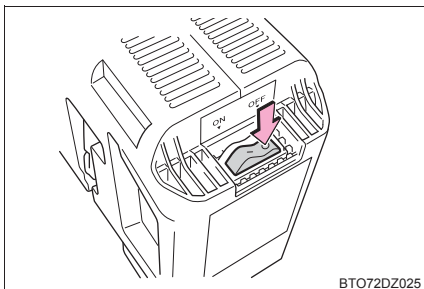
- 3 応急修理キット底面を上に向けて置き、挿し込みパーツを押し込む

シールをはがし、挿し込みパーツを“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

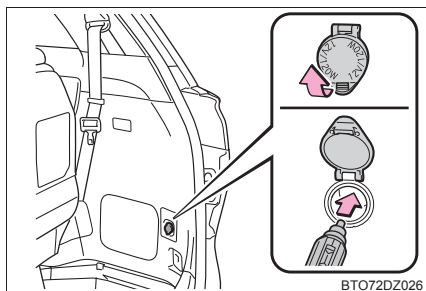


- 4 応急修理キットの向きをもとにもどし、スイッチが OFF であることを確認する

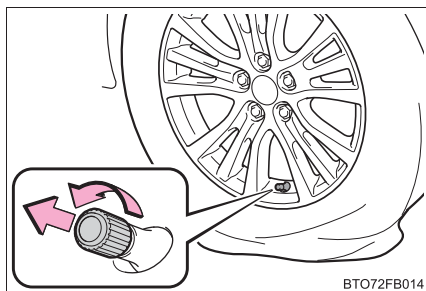
応急修理キットは、スイッチがある面を上にしてご使用ください。



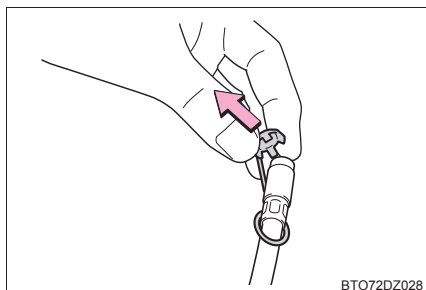
- 5 応急修理キットの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む



- 6 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

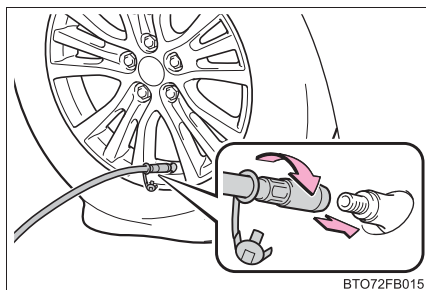


- 7 ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

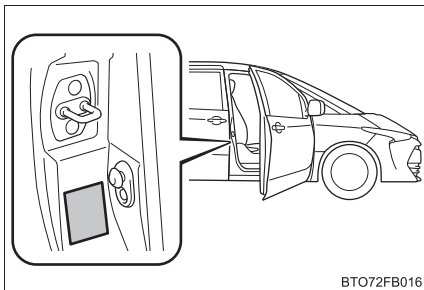


- 8 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと奥までねじ込みます。

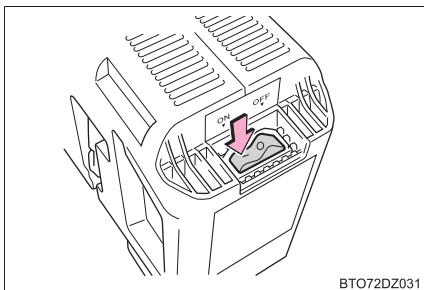


- 9** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 293)



BT072FB016

- 10** エンジンを始動する(→ P. 169)
- 11** 応急修理キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

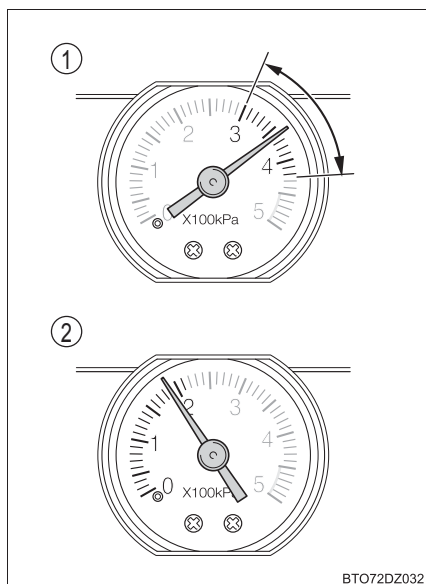


BT072DZ031

12 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

- ① 一時的に空気圧計が 300 ～ 450kPa まで上昇し、徐々に減少します。
- ② 1 分程度で実際の空気圧表示になります。

応急修理キットのスイッチを OFF にして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。



BTO72DZ032

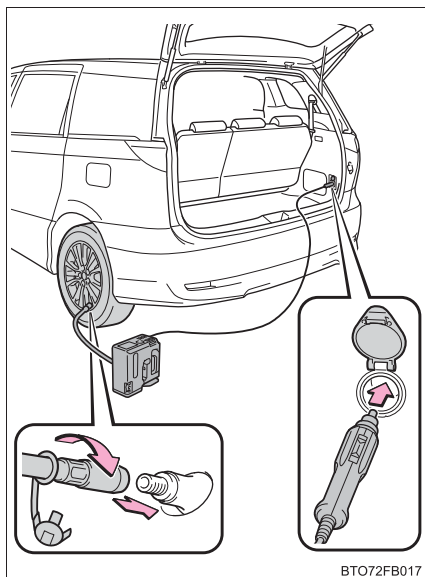
空気圧の針が赤いゾーン（450kPa 以上）に達した場合、タイヤまたは応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。応急修理キットのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気圧を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 380）

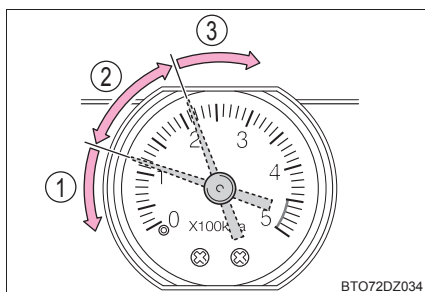
- 13** 応急修理キットのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす
- 14** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- 15** いったん応急修理キットを収納する
- 16** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km の距離を低速で慎重に走行する

- 17** 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度応急修理キットを接続する



- 18** 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

- ① 空気圧が 130kpa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130kpa 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **19** へ



- ③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 380）の場合：手順 **20** へ

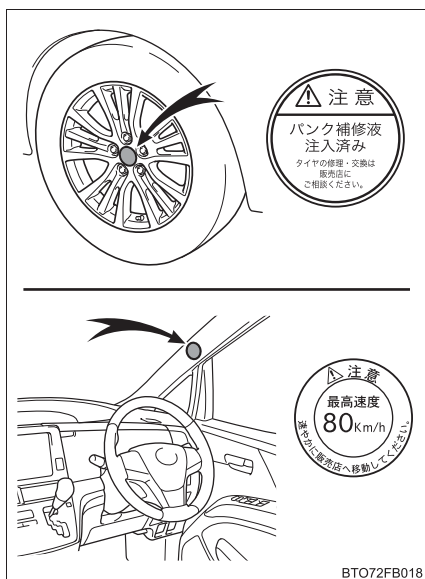
- 19** 応急修理キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **17** から実施する

- 20** 応急修理キットをビニール袋に入れて、所定の位置に収納する

21 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

急ブレーキや急ハンドルを避け、80km/h以下で最寄りのトヨタ販売店まで慎重に走行してください。



BTO72FB018

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

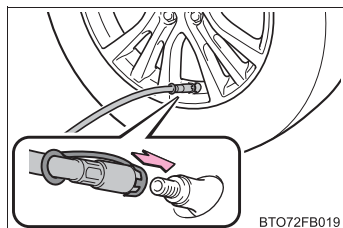
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温がー30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

 警告**■ 応急修理キットについて**

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。

 警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- タイヤパンク修理をする際は、パワースライドドアメインスイッチ (→ P. 90) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ・パワーバックドアスイッチ★を操作したときにスライドドア・バックドア★が動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンが始動できないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 169）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 169）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 60）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 366）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 363）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 366）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

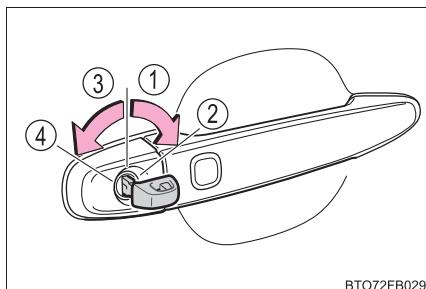
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→ P. 112)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー (→ P. 80) を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスが閉まる (まわし続ける) ※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスが開く (まわし続ける) ※

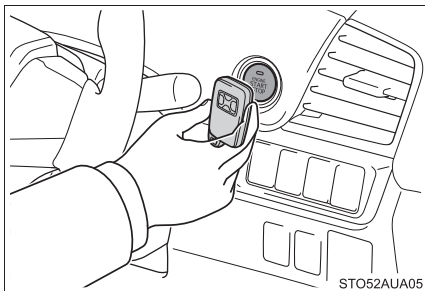
※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 383)



エンジン始動の方法

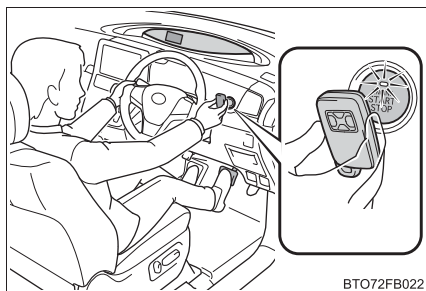
- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。



- 3** ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込む

エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください」が表示されていることを確認する
エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。



- 4** エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 310)

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** でブザーが鳴ってから 5 秒以内にブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにエンジンスイッチのモードが切りかわります。(→ P. 170)

■ 電子キーが正常に働かない場合

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 382)

警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バッテリーがあがったときは

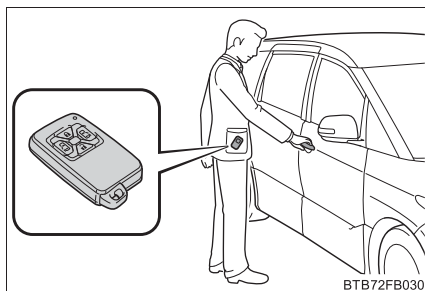
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

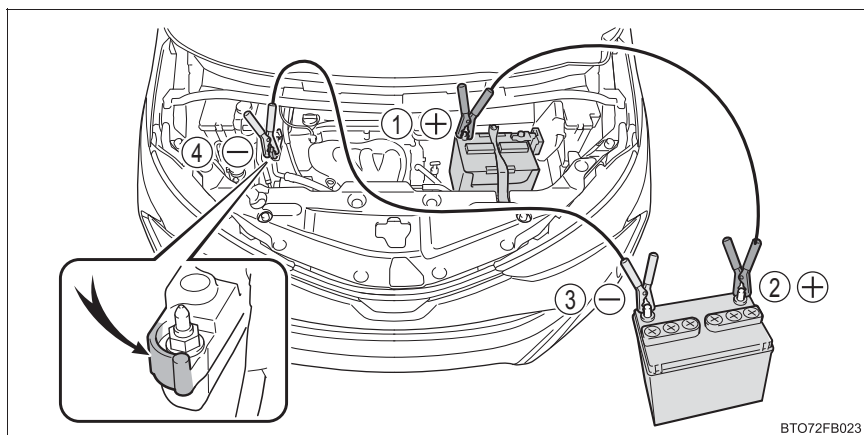
- 1 電子キーを携帯していることを確認する（オートアラーム装着車）

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。

（→ P. 62）



- 2 ボンネットを開ける（→ P. 287）
- 3 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する
- 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→ P. 386)

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するときは

工場出荷時に装着されているバッテリーと同等以外のものを使用した場合、燃費性能など本来の性能が発揮されないことがあります。

交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリー端子をはずすときは

必ず-端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

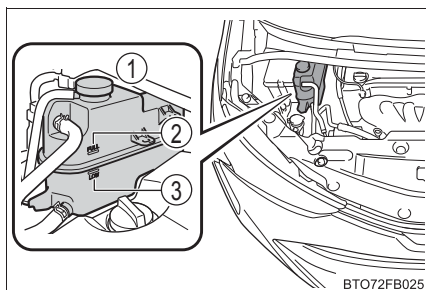
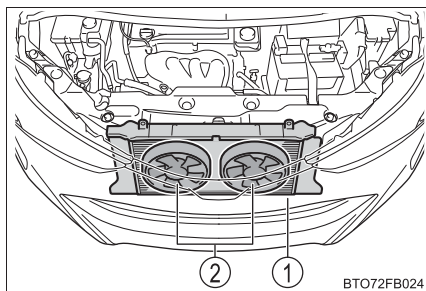
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

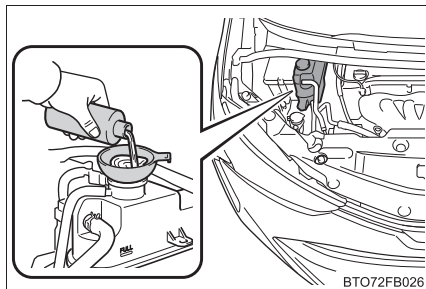
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 378）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

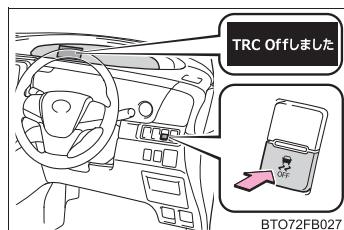
- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき



を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

8

8-1. 仕様一覧
 メンテナンスデータ
 （指定燃料・オイル量など）
 376

8-2. カスタマイズ機能
 ユーザーカスタマイズ
 機能一覧.....382

8-3. 初期設定
 初期設定が必要な項目386

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	65

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
	オイルのみ交換	オイルと オイルフィルター 交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN OW-20 ※ ² — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE OW-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4.1	4.3

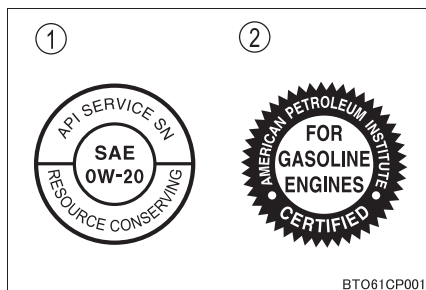
※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、まず水平な場所に駐車し、エンジンの暖機後にエンジンを停止、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² OW-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

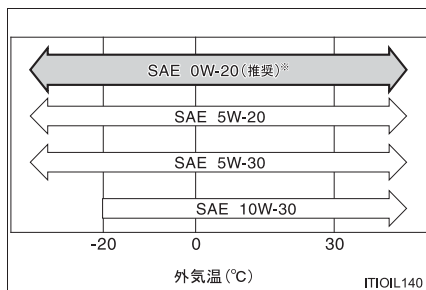
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正 スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% － 12℃ 濃度 50% － 35℃	リヤエアコン装着車	8.2
	リヤエアコン非装着車	6.3

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード FE	8.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

 注意

■ CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動など不具合発生や破損に至るおそれがあります。

リアディファレンシャル (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	103 以上

※ エンジン回転時に 500N (51.0kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ※数	4 ～ 6

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215 / 60R16 95H	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)	
	215 / 55R17 93V	17 × 7 J		
	215 / 60R17 96H			
	225 / 50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	
スペアタイヤ (販売店装着オ プション)	T145/90D16 106M	16 × 4T	420 (4.2)	

電球 (バルブ) ※ 1

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ 2	21
	番号灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ 2	21
	後退灯	16
車内	フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ	5
	バニティランプ	8
	リヤパーソナルランプ	5
	フロントドアカーテシランプ★	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※ 2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
エスティマ	ACR50W	2AZ-FE (2.4L ガソリン)	FF（前輪駆動）
	ACR55W		4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。(→ P. 75)

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- ① 車両側のスイッチなどで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 110)

機能	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステムの作動	する	しない	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 83, 110)

機能	初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (非常点滅灯)	する	しない	—	○
作動の合図 (ブザー)	する	しない	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	する	しない	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 83, 89, 100)

機能	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	する	しない	—	○
ワイヤレスリモコンの  スイッチ操作 (→ P. 100) でパワーバックドア★を開ける	長押し	短押し	—	○
		2 回押し		
		しない		
ワイヤレスリモコンの  ・  スイッチ操作 (→ P. 89) でパワースライドドアを開ける	長押し	短押し	—	○
		2 回押し		
		しない		

■ ドアロック (→ P. 85)

機能	初期設定	変更後	①	②
車速感応オートドアロック	する	しない	○	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない	○	○
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	しない	する	○	○

■ パワーウィンドウ (→ P. 153)

機能	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	しない	する	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	しない	する	—	○
スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	しない	する	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能／スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能 作動合図 (ブザー)	する	しない	—	○
窓開警告表示	する	しない	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーバックドア★ (→ P. 101)

機能	初期設定	変更後	①	②
パワーバックドア スイッチの作動	長押し	短押し	—	○
開閉作動中の断続音 (ブザー)	する	しない	—	○

■ パワースライドドア (→ P. 90)

機能	初期設定	変更後	①	②
パワースライドドア スイッチの作動	長押し	短押し	—	○
開閉作動中の断続音 (ブザー)	する	しない	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 180)

機能	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 5	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ クリアランスソナー★ (→ P. 223)

機能	初期設定	変更後	①	②
バックセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ~ 5	—	○

■ LED デイライト (→ P. 181)

機能	初期設定	変更後	①	②
LED デイライトの点灯	する	しない	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション (→ P. 257)

機能	初期設定	変更後	①	②
ドアを閉じてから室内灯が消灯するまでの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
解錠時の室内灯の点灯	する	しない	—	○
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯の点灯	する	しない	—	○

■ エアコン操作パネル (→ P. 240)

機能	初期設定	変更後	①	②
タッチスイッチの感度調整	レベル 2	レベル 1 ~ 3	—	○

■ その他

機能	初期設定	変更後	①	②
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度	0	-2 ~ +2	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度	0	-2 ~ +2	—	○

 知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感应オートドアロック」と「シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
 - ・ シフトレバーをP以外に入れると全ドアが施錠されます。
 - ・ 全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワースライドドア	バッテリーを再接続したとき、	P. 92
パワーバックドア★	バッテリーがあがったとき、 ヒューズが切れたときなど	P. 104

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....388

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）391

アルファベット順さくいん.....393

五十音順さくいん394

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。（→ P. 81）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 82）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 310）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチをOFFにしてください。（→ P. 170）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 112）



スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 90）



スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていますか？
給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 91）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 169）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 171）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 110）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 171）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 364）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 366）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 171）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 171）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 153）

**バックドアが開かない**

- バックドアを内側から開けることができます。（→ P. 103）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態)にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 171)



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」(→ P. 391) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 341, 345 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。(→ P. 349)
- スペアタイヤ（販売店装着オプションの応急タイヤ装着車）
車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。(→ P. 295)



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→ P. 373)

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム★）が作動した※	P. 61
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 111
	シフトポジションが P 以外になっている	
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 111
	電子キーを車内に置き忘れている	
	シフトポジションが P 以外になっている	

※ スマートエントリー&スタートシステムまたは、ワイヤレスリモコンでドアまたはバックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 87
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 179
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 343
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 175
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 164
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 195
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 208
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 217

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 240, 250, 253

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 230

AHB

(オートマチックハイビーム) 213

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 230

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 381

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 377

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 42, 52

LDA

(レーンディパーチャーアラート/車線逸脱警報) 208

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 195

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール) ... 230

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32

TRC

(トラクションコントロール) 230

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 230

五十音順さくいん

あ

アームレスト	275
アウターミラー（ドアミラー） ..	148
操作	148
リバース連動機能	149
アクセサリーコンセント	273
アクセサリーソケット	273
アクセサリーモード	170
アクティブトルク	
コントロール 4WD	231
アクティブヘッドレスト	136
アシストグリップ	277
アラーム	
オートアラーム	61
音さくいん	391
警告ブザー	341, 345
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）	230
アンテナ（スマートエントリー& スタートシステム）	110

い

イージークローザー	
スライドドア	91
バックドア	103
イグニッションスイッチ	
（エンジンスイッチ）	169
位置交換	
（タイヤローテーション）	292
イベントデータレコーダー	
（EDR）	8
イモビライザーシステム	60
イルミネーテッドエントリー	
システム	259
インジケーター（表示灯）	66
警告メッセージ	345
インナーミラー	147

う

ウインカー（方向指示灯）	178
電球（バルブ）の	
交換	317, 324, 327
方向指示レバー	178
ワット数	380
ウインドウ	153
ウォッシャー	183, 185
パワーウインドウ	153
リヤウインドウ	
デフォッガー	243
ウインドウロックスイッチ	153
ウォーニングランプ（警告灯）	341
ウォッシャー	183, 185
液の補給	291
スイッチ	183, 185
タンク容量	379
冬の前の準備・点検	236
動けなくなったときは	
（スタック）	373
運転	160
運転を補助する装置	230
寒冷時の運転	236
正しい運転姿勢	24
手順	160

え

エアコン	
フィルターの交換	307
フロントエアコン	240
リヤエアコン	250
リヤクーラー	253
エアバッグ	32
警告灯	341
作動条件	37
配置	32

エコドライブインジケーター	
ランプ	67
LED デイライト	181
LDA (レーンディパーチャー	
アラート)	208
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS)	230
機能	230
警告灯	341
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	60
エンジン回転計	
(タコメーター)	68
エンジンスイッチ	
(イグニッションスイッチ／	
エンジンスイッチ)	169
エンジンの始動方法	169
オーバーヒート	370
警告灯	341
ボンネット	287
エンジンオイル	376
冬の前の準備・点検	236
メンテナンスデータ	376
エンジンスイッチ	169
エンジンフード (ボンネット) ...	287
開け方	287

お

オイル (エンジンオイル)	376
応急用タイヤ	302
空気圧	380
交換方法	295
大型ムーンルーフ	156
フロントムーンルーフ	156
リヤサンシェード	156
オートアラーム	61

オートドアロック・	
アンロック機能	85
オートマチックトランスミッション	
シフトダウン	
制限警告ブザー	175
操作	174
7速スポーツシーケンシャル	
シフトマチックモード	175
メンテナンスデータ	378
オートマチックハイビーム	213
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	182
オーバーヒート	370
オープナー	
給油口	187
ボンネット	287
お子さまを乗せるとき	41
ウインドウロックスイッチ	153
お子さまの安全のために	41
子供専用シート	42
シートベルトの着用	29
チャイルドシートの取り付け ...	52
チャイルドプロテクター	90
オドメーター	68
機能	68
表示の切りかえ・	
リセットスイッチ	69
オットマン	119

か

カーテシランプ	
装着位置.....	257
ワット数.....	380
カーテンシールドエアバッグ	32
カードホルダー.....	262
カーペット	22
洗淨	285
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	68
外装の電球 (バルブ)	315
交換要領.....	315
ワット数.....	380
カスタマイズ機能.....	382
型式.....	381
カップホルダー.....	263
ガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォッガー)	
.....	243
ガレージジャッキ	290
冠水路走行	167
寒冷時の運転	236

き

キー	80
エンジンが始動できない.....	364
キーナンバープレート.....	80
キーの構成	80
キーレスエントリー	83, 89, 100
キーをなくした	81, 82
正常に働かない	364
施錠・解錠ができない.....	364
電子キー	80
電池が切れた	310
メカニカルキー	80
ワイヤレスリモコン	80

キーレスエントリー	83, 89, 100
スマートエントリー& スタートシステム.....	110
ワイヤレスドアロック	80
給油	187
給油のしかた	187
メンテナンスデータ	376
緊急始動機能 (エンジン).....	363
緊急時の対処	
エンジンが始動できない.....	362
オーバーヒートした.....	370
キーの電池が切れた.....	310
警告灯がついた.....	341
警告メッセージが 表示された.....	345
けん引.....	335
故障したときは.....	330
車両を緊急停止する	334
スタックした	373
電子キーが正常に働かない	364
発炎筒	332
バッテリーがあがった	366
パンクした	349

く

空気圧 (タイヤ)	380
メンテナンスデータ	380
区間距離計 (トリップメーター) ...	68
機能.....	68
切りかえ・リセットスイッチ ...	69
曇り取り.....	243
ミラーヒーター.....	243
リヤウインドウ デフォッガー.....	243
クラクション (ホーン).....	145
クリアランスソナー	223
操作	223

クリアランスランプ（車幅灯）...	180
電球（バルブ）の交換.....	327
スイッチ.....	180
クリップ	
フロアマット.....	22
クルーズコントロール.....	220
グローブボックス.....	261

け

警告器（ホーン）.....	145
計器類（メーター）.....	68
照度調整.....	69
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	71
メーター.....	68
警告灯.....	65
ABS & ブレーキアシスト.....	341
SRS エアバッグ	
／プリテンショナー.....	341
エンジン.....	341
高水温.....	342
シートベルト非着用.....	343
充電.....	342
スリップ.....	343
燃料残量.....	342
パワーステアリング.....	341
PCS（プリクラッシュ	
セーフティシステム）.....	342
ブレーキ.....	341
マスターウォーニング.....	342
油圧.....	342

警告ブザー

シートベルト非着用.....	343
シフトダウン制限.....	175
パーキングブレーキ	
未解除走行時.....	179
パワーステアリング.....	341
ブレーキ.....	341
リバース.....	176
警告メッセージ.....	345
化粧ミラー（バニティミラー）...	270
けん引.....	335
けん引のしかた.....	335
フック.....	337

こ

コインボックス.....	261
交換	
キーの電池.....	310
タイヤ.....	295
電球（バルブ）.....	315
ヒューズ.....	312
工具（ツール）.....	295
後席確認ミラー.....	271
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換.....	319
ワット数.....	380
子供専用シート.....	42
選択方法.....	42
取り付け方.....	52
小物入れ.....	261
コンソールボックス.....	265
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）.....	180

さ

サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	178
電球（バルブ）の交換	327
方向指示レバー	178
サイドミラー（ドアミラー）	148
操作	148
リバース連動機能	149
サードシート	122
格納	125, 128
調整	122
テーブル状態	124, 127
三角表示板収納スペース	267
サンシェード	
リヤサンシェード	156
サンバイザー	270

し

シート	115, 117, 122
子供専用シート	42
正しい運転姿勢	24
調整	115, 117, 122
手入れ	284
ヘッドレスト	135
シートアレンジ	139
スーパーリラックスモード	140
セカンドシート・	
サードシートフラット	
モード	141
フラットラゲージモード	142
フロントシート・	
セカンドシートフラット	
モード	142
シートヒーター	255

シートベルト	26
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	343
高さ調整	29
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26, 27, 28
手入れ	285
妊娠中の方の着用	30
シートベルト非着用警告灯	343
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー警告灯	341
室内灯（ルームランプ）	258
始動のしかた	169
シフトポジション	174
シフトレバー	174
シフトレンジの切りかえ	174
シフトロックシステム	
（解除ボタン）	176
操作	174
リバース警告ブザー	176
シフトレバーが	
シフトできないときは	176
シフトロックシステム	176
締め付けトルク（ホイール）	302
ジャッキ	
ガレージジャッキ	290
車載ジャッキ	295
ジャッキハンドル	295
車幅灯	180
電球（バルブ）の交換	327
ランプスイッチ	180
車両型式	381
車両仕様（スペック）	376
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	334

ジュニアシート.....	43
収納装備	260
仕様（車両仕様）.....	376
衝撃感知ドアロック 解除システム.....	86

す

スイッチ

イグニッション	169
ウインドウロック	153
ウォッシャー	183, 185
エアコン.....	240, 250, 253
LDA.....	210
エンジンスイッチ	169
オートマチックハイビーム.....	213
クルーズコントロール.....	220
サードシート	122, 123
シートヒーター	255
ドアミラー	148
ドアロック	85
パワーウインドウ	153
パワースライドドア	90
パワーバックドア	101
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	331
PCS	198
VSC OFF	231
フロントシート	115
ヘッドランプ	180
方向指示レバー	178
ホーン（警音器）	145
ランプ	180
リヤウインドウ デフォッガー	243
リヤサンシェード	156
ワイパー	183, 185
スタック	373

ステアリングホイール

（ハンドル）	145
位置調整	145
ステアリングスイッチ	278
ステアリングロック	171
解除できないとき	172
警告メッセージ.....	172

ストップランプ（制動灯）

電球（バルブ）の交換	327
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....	236
スピードメーター	68
スペアタイヤ（応急用タイヤ）....	302
空気圧	380
交換方法	295
スペック（車両仕様）.....	376

スマートエントリー&

スタートシステム.....	110
アンテナの位置.....	110
エンジンの始動	169
カスタマイズ設定.....	382
警告ブザー	111
警告メッセージ.....	111
作動範囲	110
正常に働かないとき	364
節電機能	111
電波がおよぼす 影響について	114
ドアの解錠・施錠.....	83, 88
バックドアの解錠・施錠.....	100
スモールランプ（車幅灯）.....	180
電球（バルブ）の交換	327
ランプスイッチ	180

スライドドア	88
スライドドア	
イージークローザー	91
スライドドアハンドル	89
ドアガラス	153
半ドア警告表示	87
パワースライドドア	90

せ

清掃	280, 284
アルミホイール	281
エアコン操作パネル	246
大型ムーンルーフ	283
外装	280
シートベルト	285
内装	284
制動灯	
電球（バルブ）の交換	327
積算距離計（オドメーター）	68
機能	68
表示の切りかえ	69
セカンドシート	117
セキュリティ	
インジケーター	60, 61
先行車発進告知機能	217
センサー	
ライトセンサー	181
洗車	280
前照灯（ヘッドランプ）	180
電球（バルブ）の交換	327
ライトセンサー	181
ランプ消し忘れ防止機能	181
ランプスイッチ	180
ワット数	380

そ

速度計（スピードメーター）	68
---------------------	----

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	178
電球（バルブ）の交換	
.....	317, 324, 327
方向指示レバー	178
ワット数	380
タイヤ	292
応急用タイヤ	302
空気圧	380
交換	295
締め付けトルク	300
点検	292
パンク応急修理キット	351
パンクしたときは	349
ホイールサイズ	380
ローテーション	
（位置交換）	292
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	373
タイヤチェーン	237

ち

チェーン（タイヤチェーン）	237
チャイルドシート	42
ISOFIX バーでの取り付け	54
シートベルトでの固定	53
選択方法	42
チャイルドプロテクター	90
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	179
操作	179
未解除走行時警告ブザー	179
メンテナンスデータ	379

チルト&テレスコピック

ステアリング 145

つ

ツール (工具) 295

て

停止表示板収納スペース 267

ディファレンシャル

リヤディファレンシャル 378

手入れ 280, 284

アルミホイール 281

外装 280

シートベルト 285

内装 284

デッキフック 267

デッキボード 269

テールランプ (尾灯) 180

電球 (バルブ) の交換 327

ランプスイッチ 180

デフォッガー (リヤウインドウ

デフォッガー) 243

電球 (バルブ)

交換要領 (外装バルブ) 315

ワット数 380

点検基準値

(メンテナンスデータ) 376

電子キー 80

作動範囲 110

正常に働かないとき 364

節電機能 111

電池が切れた 364

電池交換 310

電池交換 (キー) 310

と

ドア 83, 88, 100

オートドアロック・

アンロック機能 85

警告表示 87

衝撃感知ドアロック解除

システム 86

スマートエントリー&

スタートシステム 110

チャイルドプロテクター 90

ドアガラス 153

ドアロックスイッチ 85

半ドア警告表示 87

ロックレバー 85, 88

ワイヤレスリモコン

..... 83, 89, 100

ドアカーテシランプ 257

位置 257

ワット数 380

ドアミラー 148

操作 148

盗難防止装置

エンジンイモビライザー

システム 60

オートアラーム 61

時計 272

トップテザーアンカー 52

Toyota Safety Sense 190

トラクションコントロール

(TRC) 230

トランスミッション 174

シフトダウン

制限警告ブザー 175

操作 174

7速スポーツシーケンシャル

シフトマチックモード 175

メンテナンスデータ 378

トリップメーター	68
機能	68
表示の切りかえ	69

な

内装	
収納装備	260
手入れ	284
「ナノイ」	247

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	168
ラゲージルーム	267

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	373
---------------------------	-----

ね

熱線式ウインドシールド	
デアイサー	243
燃費	
瞬間燃費	74
平均燃費	72
燃料	376
給油	187
種類	376
燃料残量警告灯	342
容量	376
燃料計	68

は

パーキングブレーキ	179
警告メッセージ	179
操作	179
未解除走行時警告ブザー	179
メンテナンスデータ	379
パーソナルランプ	258
ワット数	380
排気ガス	59
ハイビーム (ヘッドランプ)	180
オートマチックハイビーム	213
電球 (バルブ) の交換	327
ランプスイッチ	180
ワット数	380
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	327
薄暮灯	180
電球 (バルブ) の交換	327
ランプスイッチ	180
ハザードランプ (非常点滅灯)	331
スイッチ	331
電球 (バルブ) の交換	317, 324, 327
ワット数	380
挟み込み防止機能	
パワーウインドウ	153
リヤサンシェード	156
発炎筒	332
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	319
ワット数	380
バックドア	100
イージークローザー	103
警告メッセージ	84
パワーバックドア	102
ラゲージルーム内装備	267
バッテリーがあがった	366
バニティ (化粧用) ミラー	270

バニティランプ.....	270
装備について.....	270
ワット数.....	380
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）.....	315
ワット数.....	380
パワーウィンドウ.....	153
ウィンドウロックスイッチ....	153
閉めることが	
できないときは.....	154
操作.....	153
挟み込み防止機能.....	153
パワーステアリング.....	230
警告灯.....	341
パワースライドドア.....	90
操作.....	90
挟み込み防止機能.....	93
パワーバックドア.....	102
操作.....	102
挟み込み防止機能.....	104
パンクした.....	349
番号灯	
（ライセンスプレートランプ）...	180
電球（バルブ）の交換.....	320
ランプスイッチ.....	180
ハンドル	
（ステアリングホイール）.....	145
位置調整.....	145
オーディオスイッチ.....	278

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール（VSC）.....	230
ヒーター	
シートヒーター.....	255
フロントエアコン.....	240
リヤエアコン.....	250
リヤクーラー.....	253

非常点滅灯（ハザードランプ）....	331
スイッチ.....	331
電球（バルブ）の交換	
.....	317, 324, 327
ワット数.....	380
尾灯（テールランプ）.....	180
電球（バルブ）の交換.....	327
ランプスイッチ.....	180
ヒューズ.....	312
表示灯.....	66
日よけ（サンバイザー）.....	270
ヒルスタートアシスト	
コントロール.....	230
PCS（プリクラッシュ	
セーフティシステム）.....	195

ふ

ブースターケーブルの	
つながり方.....	366
ブザー	
クリアランスソナー.....	225
電動格納式サードシート.....	131
シートベルト非着用警告.....	343
シフトダウン制限警告.....	175
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告.....	179
PCS.....	195
ブレーキ警告.....	341
窓開.....	154
ランプ消し忘れ.....	181
リバース警告.....	176
フック	
買い物フック.....	276
けん引フック.....	337
デッキフック.....	267
フロアマット固定フック.....	22
フューエルメーター（燃料計）.....	68

フューエルリッド（給油口）.....	187
給油のしかた.....	187
冬の前の準備（寒冷時の運転）...	236
冬用タイヤ.....	236
プリクラッシュセーフティ	
システム（PCS）.....	195
機能.....	195
警告灯.....	342
警告メッセージ.....	207
PCS スイッチ.....	198
ブレーキ	
警告ブザー.....	341
パーキングブレーキ.....	179
ブレーキ警告灯.....	341
メンテナンスデータ.....	379
ブレーキアシスト.....	230
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯.....	341
機能.....	230
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる.....	164
ブレーキフルード.....	379
フロアマット.....	22
フロントアームレスト.....	275
フロントシート.....	115
シートヒーター.....	255
正しい運転姿勢.....	24
調整.....	115
手入れ.....	284
ヘッドレスト.....	135
フロントパーソナルランプ.....	258
スイッチ.....	258
ワット数.....	380
フロント方向指示灯.....	178
電球（バルブ）の交換.....	317
方向指示レバー.....	178
ワット数.....	380

へ

平均燃費.....	72
ヘッドランプ.....	180
電球（バルブ）の交換.....	327
ライトセンサー.....	181
ランプ消し忘れ防止機能.....	181
ランプスイッチ.....	180
ワット数.....	380
ヘッドランプオートレベリング	
システム.....	182
ヘッドレスト.....	135
アクティブヘッドレスト.....	136
調整.....	135
取りはずし.....	137
ベビーシート.....	43

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	295
メンテナンスデータ.....	380
方向指示灯.....	178
電球（バルブ）の交換	
.....	317, 324, 327
方向指示レバー.....	178
ワット数.....	380
ホーン（警音器）.....	145
保証.....	9
補助確認装置.....	152
ボトルホルダー.....	264
ボンネット.....	287
開け方.....	287

ま

マスターウォーニング.....	342
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	71
警告メッセージ.....	345

み

ミラー

インナーミラー	147
後席確認ミラー	271
ドアミラー	148
バニティミラー	270
補助確認装置	152

む

ムーンルーフ	156
操作	156
挟み込み防止機能	156

め

メーター（計器類）.....	68
警告灯	341
照度調整	69
表示灯	66
マルチインフォメーション ディスプレイ	71
メーター	68
メカニカルキー	80
メンテナンスデータ	376

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	382
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	373
油脂類	376

よ

4WD オートモード	219
------------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ

（番号灯）.....	180
電球（バルブ）の交換	320
ランプスイッチ	180
ラゲージルームランプ	103
ワット数	380

ラジエーター

オーバーヒート	370
メンテナンスデータ	378

ランプ

室内灯	258
電球（バルブ）の交換	315
パーソナルランプ	258
非常点滅灯 （ハザードランプ）	331
フロントパーソナルランプ	258
ヘッドランプ（前照灯）	180
方向指示灯（ターンシグナル ランプ／ウインカー）	178
ライトセンサー	181
ランプ消し忘れ防止機能	181
ルームランプ	258
ワット数	380
ランプ消し忘れ防止機能	181

り

リヤアームレスト	275
リヤウインドウデフォッガー スイッチ	243
リヤサンシェード	156
リヤ方向指示灯	178
電球（バルブ）の交換	324
方向指示レバー	178
ワット数	380

る

ルームミラー (インナーミラー)	147
ルームランプ (室内灯)	258

れ

レーンディパーチャーアラート (LDA)	208
冷却水	378
水温計	68
冬の前の準備	236
メンテナンスデータ	378
冷却装置 (ラジエーター)	378
オーバーヒート	370
メンテナンスデータ	378
レバー	
シフト	174
方向指示	178
ロック (スライドドア)	88
ロック (ドア)	85

ろ

ロック	
ウインドウロック	153
シフトロック	176
スマートエントリー& スタートシステム	110
チャイルドプロテクター	90
ドア	85, 88
ワイヤレスリモコン	83, 100
ロングスライドコンソール	265

わ

ワイパー & ウォッシャー	183, 185
ワイパーデアイサー	243
ワイパーブレード (寒冷地用) ...	237

ワイヤレスリモコン	83, 89, 100
作動の合図	84, 91, 104
操作	83, 89, 100
電池の交換	310
半ドア警告ブザー	84
ワックス	280
ワット数	380

ガソリンスタンドでの情報

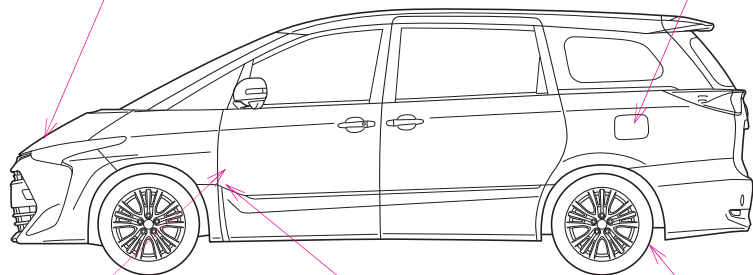
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 287

給油口

P. 189



ボンネット解除レバー

P. 287

給油扉オープナー

P. 189

タイヤ空気圧

P. 380

燃料の容量（参考値）

65L

燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

タイヤが冷えている
ときの空気圧

標準タイヤ：

タイヤサイズ	前輪 kPa(kg/ cm ²)	後輪 kPa(kg/ cm ²)
215 / 60R16 95H	240 (2.4)	230 (2.3)
215 / 55R17 93V		
215 / 60R17 96H		
225 / 50R18 95V	230 (2.3)	

スペアタイヤ（販売店装着オプション）：
420kPa (4.2kg/cm²)

エンジンオイル容量
（参考値）

P. 376

エンジンオイルの種類

P. 376

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 28875

01999-28875

ZS-2018年 9月 3日

2016年 6月 6日 初版

2018年 9月 6日 4版

エスティマ